

宇都宮市埋蔵文化財調査報告書第113集

# 下桑島西原南遺跡

令和5年3月

宇都宮市教育委員会

しもくわじまにしはらみなみ  
下桑島西原南遺跡

令和5年3月

宇都宮市教育委員会

## 序

下桑島西原南遺跡は、宇都宮環状線を挟んで、下桑島町・西刑部町に広がる遺跡です。周辺には、下桑島西原遺跡、猿山遺跡、大関台遺跡、西刑部西原遺跡など、多数の集落跡が所在するほか、南原古墳や桑島台西古墳などの古墳群、「古代の幹線道路」である推定東山道遺跡など、古墳時代から平安時代にかけての遺跡が密集するエリアになります。

本遺跡内では、平成8年に実施された砂田東遺跡・上横田A遺跡の発掘調査において、古墳時代の竪穴建物跡が確認されており、同時代の集落跡が存在していることが判明していました。

今回、物流倉庫の建設に伴い影響を受けることとなった本遺跡の取り扱いにつきまして、事業主をはじめ関係機関との協議のうえ、記録保存のため発掘調査を実施することとなりました。その結果、古墳・奈良・平安時代の建物跡が15棟確認され、古代の集落跡の一部を記録保存することができました。

本報告書は、発掘調査において得られた成果をまとめたものであり、多くの方がさまざまな方面におきまして広く活用していただけますことを期待するものであります。

最後になりましたが、埋蔵文化財の取り扱い協議から発掘調査、そして報告書作成・刊行に至るまで多大なるご協力とご理解をいただきました関係各位、関係機関並びに終始ご協力いただきました地元関係者各位に対しまして、厚く御礼申し上げます。

令和5年3月15日

宇都宮市教育委員会  
教育長 小堀 茂雄

## 例言

- 1 本書は、株式会社スワロー輸送（代表取締役 中島 和美）による物流倉庫建設に伴う、宇都宮市下桑島町字西原 1199 番 2 ほかにて所在する下桑島西原南遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、宇都宮市教育委員会による確認調査に基づいて、事業予定地の内 8,050㎡を対象とした。
- 3 発掘調査及び整理作業は、株式会社スワロー輸送から委託を受けた関東文化財振興会株式会社が実施した。
- 4 調査期間は、令和 4 年 3 月 1 日から同年 6 月 14 日までである。
- 5 調査にあたり、事業者 株式会社スワロー輸送、宇都宮市教育委員会、関東文化財振興会株式会社三者で覚書を交わした。
- 6 調査組織は、以下のとおりである。  
調査指導・宇都宮市教育委員会  
小堀 茂雄 教育長  
山口 達夫 文化課長  
今平 利幸 文化課主幹  
近藤 真 文化課文化財保護グループ係長  
土田 創太 文化課文化財保護グループ指導主事  
調査主体者 関東文化財振興会株式会社  
宮田 和男 代表取締役  
調査担当者 平石 尚和 狩谷 崇文
- 7 本報告書の編集は、宇都宮市教育委員会文化課の下、平石尚和が担当し、川井正一・狩谷崇文（関東文化財振興会株式会社）の協力を得て行った。執事は、第 1 章第 1 節調査に至る経緯を土田創太、第 2 章を川井正一、写真関係を狩谷崇文、その他を平石尚和が行った。
- 8 報告書作成にあたり、縄文土器は齋藤弘道氏、須恵器は柴木誠氏にご指導いただいた。下記の諸機関、諸氏からご教授・ご援助を賜った。ここに記して感謝の意を表す次第である。  
(敬省略・順不同)  
栃木県教育委員会文化財課 栃木県埋蔵文化財センター、カワヒロ産業、古川測量、株式会社美名海総建、茨城県埋蔵文化財センター、水野順敏、大賀庸平
- 9 発掘調査、整理・報告書作成参加者は以下のとおりである。  
安藤 登 池沢けい子 伊東美華 伊藤義男 内野英明 梅原美代子 遠藤香織  
大越慶子 大根田二三夫 岡部茂雄 川又恵美子 郡司ゆき子 児玉祐美子 佐藤圭子  
佐藤常幸 鈴木 淳 高橋麻佐美 高山文雄 玉村光晴 土井悦子 百目鬼誠司  
床井 反 仲山仁一 二戸健之 野沢雄治 平井百合子 平石寿一 平田 昇  
廣澤多彦 福岡啓利 福田 章 宝地戸一休 益子光江 柳 秀晴 山内愛子  
横山政雄 米山良平 荒井夕紀 田口睦子 西川忠春
- 10 本調査における出土遺物及び実測図・写真等は宇都宮市教育委員会が保管している。

## 凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に順拠し、 $X = +55,770$  m、 $Y = +7,300$  mの交点を基準点 (A 1) とした。なお、この原点は、世界測地系 (測地成果 2011) による基準点である。

調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北を 10m × 10m 調査区を設定した。

調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用いて、北から南へ A・B・C・・・、西から東へ 1・2・3・・・とし、「A 1 グリッド」「B 2 グリッド」のように呼称した。

2 実測図・遺物観察表で使用する記号は、次のとおりである。

SA - 柱穴列 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SE - 井戸跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑

K - 掘乱 PG - ビット群

3 土層と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄著 日本色研事業株式会社) を使用した。また、土層解説の中で述べた粒状の規模は、「粒子」は 1mm 以下、「ブロック」は 1 ~ 10mm 以上のものを表し、含有物の量は、微量 (1-2%)、少量 (2-5%)、中量 (5-10%)、多量 (10% 以上) で表した。

4 遺構・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。



(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は 60 分の 1 の縮尺で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は、原則として 3 分の 1 の縮尺で掲載した。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測中の表示は、次のとおりである。

 カマド部材・粘土範囲・黒色処理  焼土・漆  火床面

 産沼/バミス  柱痕跡・柱あたり  硬化面

 須恵器  煤 ● 土器 ○ 土製品 □ 石製品 △ 金属製品

5 遺構一覧表・遺物観察表の記載方法は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は、m・cm・g である。なお、現存値は ( ) で、推定値は [ ] を付けて示した。

(2) 備考の欄は、残存率やその他必要と思われる事項を記した。

6 「主軸」は、竪穴建物跡については、カマドを通る軸線とし、他の遺構については長軸(径)を主軸とみなした。「主軸・長軸 (径) 方位」は、軸線が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で示した (例 N - 10° - E)。

## 本文目次

序	
例言	
凡例	
第1章 調査に至る経過と調査経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 位置と地形	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の成果	9
第1節 遺跡の概要	9
第2節 基本順序	9
第3節 遺構と遺物	13
1 縄文時代の遺構と遺物	13
(1) 陥し穴	13
(2) 土 坑	15
(3) 遺構外出土遺物	23
2 古墳時代の遺構と遺物	24
(1) 堅穴建物跡	24
(2) 土 坑	36
(3) 溝 跡	37
3 奈良・平安の遺構と遺物	38
(1) 堅穴建物跡	38
(2) 掘立柱建物跡	93
(3) 井戸跡	98
(4) 土 坑	102
(5) 奈良・平安時代遺構外出土遺物	102
4 中世の遺構と遺物	103
(1) 掘立柱建物跡	103
5 時期不明の遺構と遺跡	108
(1) 掘立柱建物跡	108
(2) 柱穴列	116
(3) 溝 跡	129
(4) 土 坑	133
(5) ビット群	140
第4節 まとめ	147

写真図版

抄録

## 挿図目次

第1図	下桑原西原南遺跡調査区位置図(1/10,000)	第49図	第9号竪穴建物跡実測図
第2図	下桑原西原南遺跡周辺遺跡分布図	第50図	第9号竪穴建物跡カマド実測図
第3図	基本土層図	第51図	第9号竪穴建物跡掘方実測図
第4図	グリッド設定図(1/1,000)	第52図	第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)
第5図	全体図(1/400)	第53図	第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)
第6図	第234号土坑実測図	第54図	第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)
第7図	第244号土坑実測図	第55図	第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(4)
第8図	第334号土坑実測図	第56図	第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(5)
第9図	縄文時代その他の土坑実測図(1)	第57図	第10号竪穴建物跡実測図
第10図	縄文時代その他の土坑実測図(2)	第58図	第10号竪穴建物跡出土遺物実測図
第11図	縄文時代その他の土坑実測図(3)	第59図	第11A号竪穴建物跡実測図(1)
第12図	縄文時代遺構外出土遺物実測図	第60図	第11A号竪穴建物跡実測図(2)
第13図	第13A号竪穴建物跡実測図	第61図	第11A号竪穴建物跡カマド実測図
第14図	第13A号竪穴建物跡カマド実測図	第62図	第11A号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)
第15図	第13A号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)	第63図	第11A号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)
第16図	第13A号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)	第64図	第11A号竪穴建物跡出土遺物実測図(3)
第17図	第13B号竪穴建物跡実測図	第65図	第11B・C号竪穴建物跡実測図(1)
第18図	第13A・B号竪穴建物跡掘方実測図	第66図	第11B・C号竪穴建物跡実測図(2)
第19図	第14号竪穴建物跡実測図	第67図	第11B・C号竪穴建物跡実測図(3)
第20図	第14号竪穴建物跡炭化材・黄土窠西実測図	第68図	第11A～C号竪穴建物跡掘方実測図(1)
第21図	第14号竪穴建物跡カマド・出土遺物実測図	第69図	第11A～C号竪穴建物跡掘方実測図(2)
第22図	第130号土坑・出土遺物実測図	第70図	第11C号竪穴建物跡出土遺物実測図
第23図	第3号溝跡・出土遺物実測図	第71図	第12号竪穴建物跡実測図
第24図	第1号竪穴建物跡実測図	第72図	第12号竪穴建物跡カマド実測図
第25図	第1号竪穴建物跡カマド実測図	第73図	第12号竪穴建物跡掘方・出土遺物実測図
第26図	第1号竪穴建物跡掘方実測図	第74図	第15号竪穴建物跡・出土遺物実測図
第27図	第1号竪穴建物跡出土遺物実測図	第75図	第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図
第28図	第2号竪穴建物跡実測図	第76図	第9号掘立柱建物跡・出土遺物実測図
第29図	第2号竪穴建物跡カマド実測図	第77図	第10号掘立柱建物跡・出土遺物実測図
第30図	第2号竪穴建物跡掘方実測図	第78図	第1号井戸跡実測図
第31図	第2号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)	第79図	第1号井戸跡出土遺物実測図
第32図	第2号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)	第80図	第2号井戸跡実測図
第33図	第3号竪穴建物跡・出土遺物実測図	第81図	第2号井戸跡出土遺物実測図
第34図	第3号竪穴建物跡掘方実測図	第82図	第320号土坑・出土遺物実測図
第35図	第4号竪穴建物跡実測図	第83図	奈良・平安時代遺構外出土遺物実測図
第36図	第4号竪穴建物跡掘方・出土遺物実測図	第84図	第4号掘立柱建物跡出土遺物実測図
第37図	第5号竪穴建物跡・出土遺物実測図	第85図	第4号掘立柱建物跡実測図
第38図	第6号竪穴建物跡実測図	第86図	第5号掘立柱建物跡実測図
第39図	第6号竪穴建物跡カマド実測図	第87図	第6号掘立柱建物跡実測図
第40図	第6号竪穴建物跡掘方実測図	第88図	第7号掘立柱建物跡実測図
第41図	第6号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)	第89図	第7号掘立柱建物跡出土遺物実測図
第42図	第6号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)	第90図	第1号掘立柱建物跡実測図
第43図	第7号竪穴建物跡実測図	第91図	第8号掘立柱建物跡実測図
第44図	第7号竪穴建物跡掘方実測図	第92図	第11号掘立柱建物跡実測図
第45図	第7号竪穴建物跡出土遺物実測図	第93図	第12号掘立柱建物跡実測図
第46図	第8号竪穴建物跡実測図	第94図	第13号掘立柱建物跡実測図
第47図	第8号竪穴建物跡カマド・掘方実測図	第95図	第14号掘立柱建物跡実測図
第48図	第8号竪穴建物跡出土遺物実測図	第96図	第15号掘立柱建物跡実測図

第97図	第1号柱穴実測図	第116図	第44号柱穴実測図
第98図	第2号柱穴実測図	第117図	第1号溝跡・出土遺物実測図
第99図	第3号柱穴実測図	第118図	第2号溝跡実測図
第100図	第4号柱穴実測図	第119図	第4号溝跡実測図
第101図	第5号柱穴実測図	第120図	第5号溝跡実測図
第102図	第6号柱穴実測図	第121図	第6号溝跡実測図
第103図	第7号柱穴実測図	第122図	時期不明その他の土坑・出土遺物実測図
第104図	第8号柱穴実測図	第123図	時期不明その他の土坑実測図
第105図	第16号柱穴実測図	第124図	第1号ピット群実測図
第106図	第17号柱穴実測図	第125図	第2号ピット群実測図
第107図	第25号柱穴実測図	第126図	第3号ピット群実測図
第108図	第26号柱穴実測図	第127図	第4号ピット群実測図
第109図	第27号柱穴実測図	第128図	第6号ピット群実測図
第110図	第28号柱穴実測図	第129図	第5号ピット群実測図
第111図	第32号柱穴実測図	第130図	第7号ピット群実測図
第112図	第35号柱穴実測図	第131図	第8号ピット群実測図
第113図	第36号柱穴実測図	第132図	第10号ピット群実測図
第114図	第39号柱穴実測図	第133図	第9号ピット群実測図
第115図	第43号柱穴実測図	第134図	時期別遺構配置図

## 挿表目次

第1表	調査工程表	第28表	第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表
第2表	下桑島西原南遺跡周辺遺跡一覧	第29表	奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧
第3表	縄文時代庵し穴一覧	第30表	第1号井戸跡出土遺物観察表
第4表	縄文時代その他の土坑一覧	第31表	第2号井戸跡出土遺物観察表
第5表	縄文時代遺構外出土遺物観察表	第32表	井戸跡一覧
第6表	第13A号竪穴建物跡出土遺物観察表	第33表	第320号土坑出土遺物観察表
第7表	第14号竪穴建物跡出土遺物観察表	第34表	奈良・平安時代遺構外出土遺物観察表
第8表	古墳時代竪穴建物跡一覧	第35表	第7号掘立柱建物跡出土遺物観察表
第9表	第130号土坑出土遺物観察表	第36表	第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表
第10表	第3号溝跡出土遺物観察表	第37表	中世掘立柱建物跡一覧
第11表	第1号竪穴建物跡出土遺物観察表	第38表	時期不明の掘立柱建物跡一覧
第12表	第2号竪穴建物跡出土遺物観察表	第39表	時期不明の柱穴一覧
第13表	第3号竪穴建物跡出土遺物観察表	第40表	第1号溝跡出土遺物観察表
第14表	第4号竪穴建物跡出土遺物観察表	第41表	時期不明の溝跡一覧
第15表	第5号竪穴建物跡出土遺物観察表	第42表	第51号土坑出土遺物観察表
第16表	第6号竪穴建物跡出土遺物観察表	第43表	時期不明のその他の土坑一覧
第17表	第7号竪穴建物跡出土遺物観察表	第44表	第1号ピット群計測表
第18表	第8号竪穴建物跡出土遺物観察表	第45表	第2号ピット群計測表
第19表	第9号竪穴建物跡出土遺物観察表	第46表	第3号ピット群計測表
第20表	第10号竪穴建物跡出土遺物観察表	第47表	第4号ピット群計測表
第21表	第11A号竪穴建物跡出土遺物観察表	第48表	第6号ピット群計測表
第22表	第11C号竪穴建物跡出土遺物観察表	第49表	第5号ピット群計測表
第23表	第12号竪穴建物跡出土遺物観察表	第50表	第7号ピット群計測表
第24表	第15号竪穴建物跡出土遺物観察表	第51表	第8号ピット群計測表
第25表	奈良・平安時代竪穴建物跡一覧	第52表	第10号ピット群計測表
第26表	第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表	第53表	第9号ピット群計測表
第27表	第9号掘立柱建物跡出土遺物観察表		



## 写真目次

- 図版 1 1. 調査区遠景（南東から） 2. 調査区全景（鉛直）
- 図版 2 1. 第 234 号土坑（陥し穴）完掘 2. 第 244 号土坑（陥し穴）完掘 3. 第 334 号土坑（陥し穴）完掘 4. 第 298 号土坑完掘 5. 第 299 号土坑完掘 6. 第 337 号土坑完掘 7. 第 53 号土坑完掘 8. 第 54 号土坑完掘 9. 第 89 号土坑完掘 10. 第 97 号土坑完掘 11. 第 110 号土坑完掘 12. 第 112 号土坑完掘 13. 第 201 号土坑完掘
- 図版 3 1. 第 13A 号竪穴建物跡完掘 2. 第 13A 号竪穴建物跡遺物出土状況 3. 第 13A 号竪穴建物跡カマド遺物出土状況 4. 第 13A・B 号竪穴建物跡掘方完掘 5. 第 14 号竪穴建物跡完掘 6. 第 14 号竪穴建物跡遺物出土状況 7. 第 14 号竪穴建物跡炭化材・焼土確認状況 8. 第 14 号竪穴建物跡遺物出土状況
- 図版 4 1. 第 3 号溝跡完掘 2. 第 3 号溝跡遺物出土状況 3. 第 130 号土坑堆積状況 4. 第 130 号土坑遺物出土状況 5. 第 1 号竪穴建物跡完掘 6. 第 1 号竪穴建物跡遺物出土状況 7. 第 2 号竪穴建物跡完掘 8. 第 2 号竪穴建物跡遺物出土状況
- 図版 5 1. 第 2 号竪穴建物跡カマド断割り遺物出土状況 2. 第 3 号竪穴建物跡遺物出土状況 3. 第 4 号竪穴建物跡カマド遺物出土状況 4. 第 5 号竪穴建物跡完掘 5. 第 6 号竪穴建物跡完掘 6. 第 6 号竪穴建物跡カマド補強材出土状況 7. 第 6 号竪穴建物跡遺物出土状況 8. 第 7 号竪穴建物跡完掘
- 図版 6 1. 第 7 号竪穴建物跡遺物出土状況 2. 第 7 号竪穴建物跡カマド遺物出土状況 3. 第 8 号竪穴建物跡完掘 4. 第 8 号竪穴建物跡遺物出土状況 5. 第 9 号竪穴建物跡完掘 6. 第 9 号竪穴建物跡遺物出土状況 7. 第 9 号竪穴建物跡カマド遺物出土状況 8. 第 9 号竪穴建物跡遺物出土状況
- 図版 7 1. 第 10 号竪穴建物跡完掘 2. 第 11A 号竪穴建物跡完掘 3. 第 11A 号竪穴建物跡遺物出土状況 4. 第 11B・C 号竪穴建物跡完掘 5. 第 11B・C 号竪穴建物跡カマド堆積状況 6. 第 12 号竪穴建物跡堆積状況 7. 第 12 号竪穴建物跡掘方完掘 8. 第 12 号竪穴建物跡カマド遺物出土状況
- 図版 8 1. 第 15 号竪穴建物跡堆積状況 2. 第 15 号竪穴建物跡遺物出土状況 3. 第 3 号掘立柱建物跡完掘 4. 第 9 号掘立柱建物跡完掘 5. 第 9・10 号掘立柱建物跡完掘 6. 第 320 号土坑完掘 7. 第 1 号井戸跡完掘 8. 第 1 号井戸跡堆積状況
- 図版 9 1. 第 1 号井戸跡断割り状況 2. 第 2 号井戸跡完掘 3. 第 2 号井戸跡堆積状況 4. 第 2 号井戸跡断割り状況 5. 第 4 号掘立柱建物跡完掘 6. 第 5 号掘立柱建物跡完掘 7. 第 6 号掘立柱建物跡完掘 8. 第 7 号掘立柱建物跡完掘
- 図版 10 1. 第 1 号掘立柱建物跡完掘 2. 第 11 号掘立柱建物跡完掘 3. 第 13 号掘立柱建物跡完掘 4. 第 14 号掘立柱建物跡完掘 5. 第 15 号掘立柱建物跡完掘 6. 第 1 号柱穴第 2 号ビット堆積状況 7. 第 43 号柱穴完掘
- 図版 11 1. 第 1 号溝跡完掘 2. 第 2 号溝跡完掘 3. 第 1 号溝跡遺物出土状況 4. 第 4 号溝跡完掘 5. 第 5 号溝跡完掘 6. 第 6 号溝跡完掘 7. 第 15 号土坑完掘
- 図版 12 縄文遺構外、第 13A 号竪穴建物跡出土遺物
- 図版 13 第 13A 号竪穴建物跡出土遺物
- 図版 14 第 14 号竪穴建物跡、第 130 号土坑、第 3 号溝跡、第 1 号竪穴建物跡出土遺物
- 図版 15 第 1・2 号竪穴建物跡出土遺物
- 図版 16 第 2～4 号竪穴建物跡出土遺物
- 図版 17 第 4～6 号竪穴建物跡出土遺物
- 図版 18 第 6・7 号竪穴建物跡出土遺物
- 図版 19 第 7・8 号竪穴建物跡出土遺物
- 図版 20 第 8・9 号竪穴建物跡出土遺物
- 図版 21 第 9 号竪穴建物跡出土遺物
- 図版 22 第 9・10 号竪穴建物跡出土遺物
- 図版 23 第 10・11A 号竪穴建物跡出土遺物
- 図版 24 第 11A 号竪穴建物跡出土遺物
- 図版 25 第 11A・11C・12・15 号竪穴建物跡、第 3・9・10 号掘立柱建物跡出土遺物
- 図版 26 第 10 号掘立柱建物跡、第 1・2 号井戸跡、第 320 号土坑、奈良・平安時代遺構外、第 4・7 号掘立柱建物跡、第 51 号土坑、第 1 号溝跡出土遺物

## 第1章 調査に至る経過と調査経過

### 第1節 調査に至る経緯

令和3年9月3日付で、株式会社スワロー輸送 代表取締役 中島 和美氏より、下桑島町字西原1199番2、同1199番3、同1199番4、同1199番5、同1199番6、同1199番31、同1199番33、同1199番37、同1199番109、同1199番110、同1199番111、同1199番112、同1199番113、同1199番114、西刑部町字西原2712番28、同2723番9の下桑島西原南遺跡（県番号4345）内で、物流倉庫（倉庫業を営む倉庫）の新設工事に伴い、文化財保護法93条の届出が提出された。9月6日付で市教育委員会文化課から県教育委員会文化財課（以下県文化財課）へ進達し、これに対し、県文化財課より確認調査の必要があるとの指示が9月16日付であったため、事業代理人の株式会社田原事務所 安藤 寛氏と協議し、確認調査を実施することにした。

確認調査は、11月8日（月）から11月19日（金）に実施した。調査の方法は、開発区域の掘削が及ぶ範囲に、幅2mの試掘溝を20本設定し（T-1～T-20）、深さ35～85cmの表土部分を重機により掘り下げ、遺構の確認を行った。その結果、T-5から竪穴建物跡2棟、土坑1基、T-6から竪穴建物跡1棟、ビット2基、T-7からは竪穴建物跡1棟、ビット1基、T-8からは竪穴建物跡1棟、ビット5基、T-9からは竪穴建物跡2棟、ビット3基、T-16からは竪穴建物跡1棟、溝状遺構1基、ビット1基、T-17からは竪穴建物跡1棟、溝跡1条、T-18からは竪穴建物跡2棟、ビット6基が確認された。

この調査結果を受けて、代理人である株式会社田原事務所と対応を協議した結果、遺構の確認された約8,050㎡分を本調査することとなった。

その後、調査の担当が開東文化財掘興会株式会社と決まり、令和4年2月2日付で事業者である株式会社スワロー輸送と宇都宮市教育委員会小堀茂雄との間で、調査についての覚書を交わした。

### 第2節 調査経過

下桑島西原南遺跡の調査は、令和4年3月1日から6月14日までの約4か月間にわたって実施した。以下の概要を表で記載する。

第1表 調査工程表

工程	期間	3月	4月	5月	6月
調査準備 表土除去 遺構確認					
遺構調査					
遺物洗浄 注 記					
補足調査 撤 収					



第1図 下桑原西南遺跡調査区位置図

## 第2章 位置と環境

### 第1節 位置と地形

下桑島西原南遺跡は、栃木県宇都宮市下桑島町1199番地の2ほかに所在している。

当遺跡の所在する宇都宮市は栃木県のほぼ中央部に位置し、北西方に聳える日光連山から次跡の高さを低めつつ伸びてくる前山連峰を北に背負い、東に鬼怒川が南流し、南に関東平野の沃野が開けている北岳南平の如容の地である。地勢的には、台地とそれを開析する河川によって形成された沖積低地からなる中央平地と呼ばれる、鬼怒川低地、岡本・磯岡台地、田原・願成寺台地、田川低地、神主台地、宇都宮・祇園原台地からなっている。当遺跡は、東側を鬼怒川が南流し、西側は田原・願成寺台地に接し、その西側を田川が南流する全長約35km、東西幅1.5～2.5km、標高54～162mの岡本・磯岡台地上に所在している。岡本・磯岡台地の地質は、宝木段丘礫層の上部に宝木ロームと田原ロームが堆積している。宝木ロームは、上部ローム層と下部ローム層、その間の鹿沼軽石層からなっている。田原ロームは、下部の普通のローム層、その上部の今市軽石層、七本椏軽石層からなっている。

当遺跡は、宇都宮市街地の南南東約7km、岡本・磯岡台地の東端に立地している。遺跡が所在する周辺は、南側が河内郡上三川町、南東側が真岡市、南西側が下野市及び下都賀郡壬生町と接している。当遺跡が立地する付近の岡本・磯岡台地は、南に向かって緩やかに傾斜しており、東側に江川、西側には台地を開析する幅狭の九十九瀬川が南流し、東西幅2.5km、標高89mほどである。低地との比高は3mほどである。当遺跡の南側に存在する上横田A遺跡とは同一遺跡とみられ、遺跡の範囲は東西250m、南北250mで、調査前の現況は畑地であった。

### 第2節 歴史的環境

宇都宮市域には旧石器時代以降の遺跡が多数確認されているが、下桑島西原南遺跡は宇都宮市の南端部に位置し、南側は上三川町と接していることから、当遺跡を中心として概ね5km四方における遺跡の在り方について記していく。

旧石器時代の遺跡としては、江川右岸では瑞穂野団地遺跡〈17〉から流紋岩製の縦長剥片が1片出土している。その他、西赤堀遺跡から尖頭器・スクレーパーなどを含む石器群のブロックが6か所確認され、田川左岸では、立野遺跡〈44〉で円形撚器・剥片、杉村遺跡〈46〉で水晶製尖頭器が確認されている。その他、田川左岸では砂田遺跡〈42〉、西荆部西原遺跡〈36〉、中島笹塚遺跡〈40〉、磯岡北遺跡〈39〉、権現山遺跡〈48〉、磯岡遺跡〈49〉が願成寺台地の縁辺部に点在している。

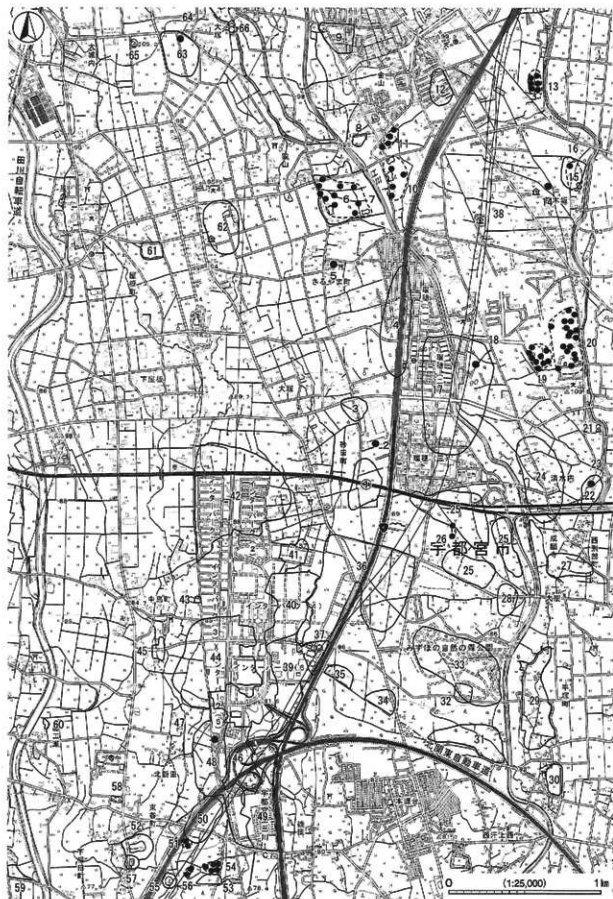
縄文時代の遺跡は、各時期のものが台地上から確認されている。

草創期から早期にかけての遺跡は、陥し穴状土坑や土坑が確認された砂田遺跡、西荆部西原遺跡、中島笹塚遺跡、立野遺跡、磯岡北遺跡のほか、有舌尖頭器や土器が出土している砂田姥沼遺跡〈41〉、磯岡遺跡がある。

早期の遺跡は、稲荷原式期の建物跡又は土坑が確認された砂田姥沼遺跡、撫糸文系土器を出土した陥し穴状土坑が確認された立野遺跡、田戸下層式期の土坑が確認された中島笹塚遺跡のほか、瑞穂野団地遺跡、西荆部西原遺跡、砂田遺跡、権現山遺跡、杉村遺跡、磯岡北遺跡、磯岡遺跡などが確認されている。

前期の遺跡は、砂田遺跡、砂田姥沼遺跡、西荆部西原遺跡、中島笹塚遺跡、権現山遺跡、磯岡遺跡が確認されている。

中期の遺跡は、磯岡遺跡・磯岡北遺跡で阿玉台式期の竪穴建物跡、中島笹塚遺跡で加曾利E式期の竪穴建



第2図 下桑原西原南遊跡周辺遊跡分布図

物跡が確認されているほか、砂田姥沼遺跡、立野遺跡、権現山遺跡が確認されている。

後期の遺跡は、立野遺跡、磯岡北遺跡、中島笹塚遺跡、権現山遺跡、杉村遺跡で称名寺式・堀之内式・加曾利B式土器が出土している。

晩期の遺跡は、立野遺跡、磯岡北遺跡、中島笹塚遺跡、権現山遺跡で大洞系土器や安行式土器が出土しているくらいで、後期以降に自然環境等の変化によって生活に大きな変化が生じた可能性がある。

弥生時代になると、中期では磯岡北遺跡で竪穴建物跡と土坑、磯岡遺跡、立野遺跡、仏沼遺跡で土坑が確認されているほか、権現山遺跡で前期後葉から中期後葉にかけての土器が出土しているが、全体的に遺構・遺物は希薄である。後期では、瑞穂野田地遺跡では竪穴建物跡2棟が調査されている。砂田姥沼遺跡、磯岡北遺跡、権現山遺跡、杉村遺跡、中島笹塚遺跡、百目鬼遺跡、東谷北浦遺跡で弥生の土器片が確認されているが、田川西岸に比して少ない。

古墳時代の遺跡は、弥生時代より増加する。前期の集落跡は、江川右岸の磯岡台地上では瑞穂野田地遺跡、西側部古屋原遺跡〈33〉で、田川東岸の願成寺台地上では砂田姥沼遺跡、西側部西原遺跡、立野遺跡、杉村遺跡で確認されている。前期から中期初頭の古墳は、江川右岸で西側部古屋原古墳群〈33〉、田川左岸では中島笹塚古墳群〈40〉で確認されているほか、権現山遺跡B区で概期の土坑墓が確認されている。

中期の集落跡は、江川右岸の磯岡台地上では成願寺遺跡、榎戸遺跡〈27〉で、田川東岸の願成寺台地上では砂田遺跡、中島笹塚遺跡、西側部西原遺跡、磯岡北遺跡、立野遺跡、杉村遺跡、権現山遺跡、磯岡遺跡で確認されている。中期の古墳は、江川右岸では西側部古屋原古墳群、田川東岸では前方後円墳である双子塚古墳〈58〉、笹塚古墳〈52〉、大型円墳である鶴舞塚古墳〈57〉、松の塚古墳〈55〉、権現塚古墳、車塚古墳のほか、中島笹塚古墳群、磯岡北古墳群の群集墳が確認されている。

後期の集落跡は、砂田姥沼遺跡、権現山遺跡、立野遺跡、杉村遺跡など中期から中心的集落遺跡が衰退し、代わって砂田遺跡や東側の西側部西原遺跡、西赤堀遺跡、瑞穂野田地遺跡、大園遺跡などが中心的集落になっていく。また、後期から新に集落が出現する中島笹塚遺跡や磯岡北遺跡もみられる。後期の古墳は、田川東岸の前半期で最大の古墳である琴平塚1号墳〈37〉がある。ほかに江川西岸にしらみ塚古墳があり、いずれも帆立貝式前方後円墳である。また、下桑島西原古墳群は、前半の円墳2基と後半の前方後円墳1基からなる古墳群である。後半になると群集墳が盛行し、古墳が増加する。田川東岸では上郷鷹草塚古墳が最大で、ほかに琴平塚3・5号墳、根本西台1・2・5号墳〈20〉、飯塚古墳〈21〉、西側部古屋原8号墳、屋敷東浦愛宕塚古墳がある。終末期の群集墳としては、成願寺遺跡、西赤堀遺跡がある。

奈良時代になると、宇都宮市域は下野国に属し、市域の大部分は河内郡に、鬼怒川以東の清原地区は芳賀郡に属していた。当遺跡は下野国衙から約14.5km北東方に位置し、当地域は河内郡刑部郷に比定されている。奈良・平安時代の遺跡は、やや東側の高位台地上に猿山遺跡〈4〉、瑞穂野田地遺跡、大園遺跡で多数の竪穴建物跡が確認されており、本来一つの大規模な集落であったとみられている。その南方に位置する西赤堀遺跡では、竪穴建物跡のほか多数の掘立柱建物跡が確認されており、河内部の倉院跡ともいわれている。また田原低地に位置する砂田遺跡でも、多数の掘立柱建物跡や竪穴建物跡が確認されている。ほかに砂田姥沼遺跡、立野遺跡、中島笹塚遺跡、磯岡遺跡においても該期の遺構・遺物が確認されているが、少数である。この地域で特徴的なことは、権現山遺跡、杉村遺跡、磯岡北遺跡、西側部西原遺跡において古代東山道である道路跡が確認されていることである。ただ、これらの遺跡では、道路跡以外は当該期の遺構・遺物は少ない。

鎌倉時代以降の中世に入ってからの当地域に関する資料は少ないが、鎌倉・室町時代の当地域は宇都宮氏及び芳賀氏の支配下にあったことが知られている。宇都宮氏関連の城跡や館跡としては、江川西岸では石井城跡、

第2表 下桑島西原南遺跡周辺遺跡一覽

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代					
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈・平
① 4345	下桑島西原南遺跡				○			34 4363	内野古跡				○		
2 3385	南原古墳				○			35 4362	西原遺跡					○	
3 3317	下桑島西原遺跡							36 4354	西原塚西原遺跡					○	
4 3319	岡山遺跡							37 4361	榑平塚古墳群					○	
5 3318	岡山大宮町古墳				○			38	藤定塚山道						○
6 3276	老母中堂塚古墳群				○			39 8832	福岡北遺跡		○		○	○	
7 3314	老母中堂塚遺跡					○		40 4355	中島惣塚遺跡				○	○	
8 3311	大久保竹山遺跡				○	○		41 4356	藤田堤原遺跡				○	○	
9 3308	道合弘遺跡		○		○			42 3366	藤田遺跡				○	○	
10 3313	東京古墳群				○			43 4357	東京古墳群						○
11 3312	天正山古墳群							44 4358	立野遺跡				○	○	
12 3309	宇城古原遺跡		○					45 4359	宇内遺跡				○		
13 3328	石井久保田古墳群			○				46 4373	杉村遺跡				○	○	
14 3326	上桑島西原中央塚						○	47 4372	龍崎塚古墳						○
15 3277	柿木塚古墳群				○			48 4371	鹿丸山遺跡				○	○	
16 3327	柿木塚遺跡		○		○			49 4360	磯野遺跡				○	○	
17 3320	藤崎野中川遺跡	○	○	○	○			50 4375	原遺跡				○	○	
18 8806	桑島古原古墳				○			51 4376	原古墳群				○		
19 3324	桑島古原遺跡				○			52 4377	榑塚古墳				○		
20 3325	根本新台古墳群				○			53 4388	上石田遺跡				○	○	
21 3322	榑塚古墳				○			54 4381	榑塚古墳群				○		
22 4349	成瀬寺北遺跡		○			○		55 4380	徳の塚古墳				○		
23 4350	新水内古墳				○			56 4379	榑塚古墳群				○		
24 3321	藤敷遺跡				○	○		57 4378	榑塚古墳				○		
25 4346	大坂台遺跡				○			58 4374	榑塚古墳				○		
26 4331	大坂古墳群						○	59 8825	御田長内B遺跡				○		
27 4353	榑戸遺跡				○			60 8817	榑工藤北遺跡						○
28 4365	袋沼塚遺跡				○			61 3316	南沢遺跡		○		○	○	
29 4368	平塚塚古原遺跡				○	○		62 3315	菅谷遺跡				○	○	
30 4370	南沢遺跡		○			○		63 3306	下栗念仏塚遺跡						○
31 4367	下小坂塚遺跡							64 3293	下栗念仏塚古墳				○		
32 4366	下栗塚遺跡					○		65 3305	下栗大塚古墳				○		
33 4364	西原塚古原遺跡				○			66 3307	大塚神社古墳				○		

桑島城跡、刑部城跡、高島館跡、田川東岸では東川田城跡、猿山城跡などが確認されている。

その他、集落跡とみられる遺跡として、磯岡北遺跡、立野遺跡、権現山遺跡などがあり、鬼怒川低地の開発が本格的に行われたものと考えられている。

1597年、宇都宮氏は豊臣秀吉によって領地没収され、追放されてしまう。その後、浅野長政が城主となり、さらに蒲生秀行が城主となる。江戸時代に入ると、家康の孫にあたる奥平家昌、さらに本多正純が城主となり、正純は日光街道の整備や宇都宮城跡の大改築、城下町の整備などの事業を手がけた。その後、松平氏、本多氏、奥平氏、阿部氏、戸田氏、松平氏を経て、戸田氏が再び城主になるまで、宇都宮城主は頻りに交代する。宇都宮は、軍事・交通上の重要地点であることから歴代の城主は、江戸時代を通じて譜代大名から任命されている。

#### 参考文献

- 安藤美保編 1996『西赤堀遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第178集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
- 五十嵐利勝 1979『権現山北遺跡集の石器について』『権現山北遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第5集 宇都宮市教育委員会
- 岩上照明・石橋和明編 1978『宇都宮市海地野田地遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第4集 宇都宮市教育委員会
- 内山敏行 2005『東谷・中島地区遺跡群5 立野遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第290集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生誕学習文化財団
- 内山敏行 2006『東谷・中島地区遺跡群7 磯岡北古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第299集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生誕学習文化財団
- 内山敏行 2008『東谷・中島地区遺跡群9 中島笹塚古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第311集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生誕学習文化財団
- 内山敏行 2008『東谷・中島地区遺跡群10 権現山遺跡北部・杉村遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第331集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生誕学習文化財団
- 宇都宮市教育委員会文化課文化財保護係編 1997『宇都宮市遺跡地図』
- 大関利之 1992『宇都宮市林坂遺跡の加曾利B式土器』『栃木県考古学雑誌』14
- 小野麻人(東京航業研究所編) 2007『砂田埴沼遺跡 B区』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第64集 宇都宮市教育委員会
- 勝見一品(埋蔵文化財発掘調査支援協同組合編)『磯岡北遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第53集 宇都宮市教育委員会
- 亀田幸久 1999『杉村北遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第221集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生誕学習文化財団
- 亀田幸久 2007『西赤堀遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第304集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生誕学習文化財団
- 亀田幸久 2008『宇都宮市立野遺跡の縄文草創期土器について』『唐澤考古』27 唐澤考古会
- 川原由典・中山晋 1981『猿山遺跡 付久部台古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第38集 栃木県教育委員会
- 神野安伸 1994『天海原遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第34集 宇都宮市教育委員会
- 栗田欣行 2005『磯岡遺跡第2次調査報告』上三川町埋蔵文化財調査報告第32集 上三川町教育委員会
- 今平利幸・梁木誠 2002『下桑島西原古墳群』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第30集 宇都宮市教育委員会
- 今平昌子 2012『東谷・中島地区遺跡群13 砂田遺跡(10・12・13・16・27区)』栃木県埋蔵文化財調査報告第355集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生誕学習文化財団
- 佐々木藤雄・林邦雄・小野麻人(東京航業研究所編) 2008『砂田埴沼遺跡(E区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第70集 宇都宮市教育委員会
- 篠原浩雄編 2000『成願寺遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第239集 栃木県教育委員会・(財)栃木県文化振興事業団
- 篠原祐一・亀田幸久 2009『権現山遺跡・東北北浦遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第318集 栃木県教育委員会・(財)とちぎ生誕学習文化財団
- 清水正幸 2002『西淵部古泉原遺跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第46集 宇都宮市教育委員会
- 白崎智隆(埋蔵文化財発掘調査支援協同組合編) 2008『西淵部西原遺跡(C区)』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第62集 宇都宮市教育委員会



白崎智隆《堀蔵文化財発掘調査支援協同組合編》2010『西州部西原道跡（E区）』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第76集  
宇都宮市教育委員会

杉浦昭博編 2001『大面台道跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第251集 栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団

芹澤清八 1993『砂田A道跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第132集 栃木県教育委員会

高野浩之・戸部孝一・深谷昇・平岡和夫 2004『磯岡道跡』上三川町埋蔵文化財調査報告第29集 上三川町教育委員会

塚原孝一編 1999『東谷・中島地区道跡群 No1 磯岡道跡（1区）』栃木県埋蔵文化財調査報告第229集 栃木県教育委員会・（財）  
栃木県文化振興事業財団

常川秀夫・山野升清人 1978『嵐山A道跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第24集（原本では第20集） 栃木県教育委員会

津野仁 2005『東谷・中島地区道跡群6 磯岡道跡（2～7区）』栃木県埋蔵文化財調査報告第292集 栃木県教育委員会・（財）  
とちぎ生涯学習文化財団

津野仁・藤原浩恵・今平昌子 2007『東谷・中島地区道跡群8 砂田道跡（4～6・18・19・23・24区）』栃木県埋蔵文化財調査報告第305集 栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団

中村孝史 2004『東谷・中島地区道跡群4 野平塚古墳群』栃木県埋蔵文化財調査報告第283集 栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団

中山晋 1996『砂田東道跡・上横田A道跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第176集 栃木県教育委員会・（財）栃木県文化振興事業財団

仲山哲也・青木健二・倉田有子 2005『砂田道跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第54集 宇都宮市教育委員会

楳本純則・谷中隆 2001『東谷古墳群』と権現山道跡・百目鬼道跡』『権現山道跡・百目鬼道跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告第257集 栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団

土生明治・宮田和男・越智徹・大塚雅之（山武考古学緊急書編）2007a『西州部西原道跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第59集  
宇都宮市教育委員会

土生明治・宮田和男・越智徹・大塚雅之（山武考古学緊急書編）2007b『砂田姥沼道跡』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第60集  
宇都宮市教育委員会

土生明治・越智徹・富川努 2008『中島惣塚道跡（A区）』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第63集 宇都宮市教育委員会

藤田直也・田代謙 2002『東谷・中島地区道跡群2 砂田道跡（1区・2区・3区）』栃木県埋蔵文化財調査報告第265集 栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団

藤田直也 2003『東谷・中島地区道跡群3 推定東山道推定地区』栃木県埋蔵文化財調査報告第274集 栃木県教育委員会・（財）  
とちぎ生涯学習文化財団

藤田典夫・安藤美保編 2000『杉村・磯岡・磯岡北』栃木県埋蔵文化財調査報告第241集 栃木県教育委員会・（財） 栃木県文化振興事業財団

水野順敏・河野一也・栗田敬行（日本歴史学研究所編）2005『立野道跡（A区）』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第55集 宇都宮市教育委員会

水野順敏・柏崎広伸（日本歴史学研究所編）2008a『砂田姥沼道跡（D区）』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第67集 宇都宮市教育委員会

水野順敏・柏崎広伸（日本歴史学研究所編）2008b『みずほの台道跡群（根本西台古墳群第2次・瑞穂野野地道跡東地区）』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第68集 宇都宮市教育委員会

水野順敏・柏崎広伸（日本歴史学研究所編）2008c『みずほの台道跡群Ⅱ（根本西台古墳群第3次・西荆部上原道跡）』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第69集 宇都宮市教育委員会

谷中隆・大島美智子編 2001『権現山道跡・百目鬼道跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第257集 栃木県教育委員会・（財）とちぎ生涯学習文化財団

栗木誠 1984『鶴岡塚古墳』宇都宮市埋蔵文化財調査報告第13集 宇都宮市教育委員会

## 第3章 調査の成果

### 第1節 遺跡の概要

下泉高西原南遺跡は、宇都宮市の南東部に位置し、国道4号の西側に広がる範囲である。今回調査対象となった本遺跡は、田川東側で江川西側の台地上に位置し対象面積8,050㎡であり、奈良・平安時代を中心とした遺跡である。

今回の調査で確認した遺構は、縄文時代の陥し穴3基、土坑18基、古墳時代の竪穴建物跡3棟、土坑1基、溝跡1条、奈良・平安時代の竪穴建物跡15棟、掘立柱建物跡3棟、井戸跡2基、土坑1基、中世の掘立柱建物跡4棟、時期不明の掘立柱建物跡7棟、柱穴列20条、溝跡5条、土坑185基、ピット群10ヵ所である。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に15箱出土しており、大半は奈良・平安時代のものである。主な遺物は、竪穴建物跡から出土した土師器（環・埴・高台付環・甕）、須恵器（環・高台付環・甕・瓶）、土製品（紡錘車）、石製品（紡錘車、カマド補強材）、鉄製品（刀子・鏃）などである。

### 第2節 基本層序

調査区東側（D13グリッド）にテストピットを設定し、深さ3.0mまで掘り下げて基本層序の観察を行った。土層は10層に分層された。土層の観察は以下の通りである。

第1層は、黒色粒子を多量に含む黒色土の耕作土である。

第2層は暗褐色の表土層下で、ローム粒子を中量、今市バミス・七本椏バミスを少量含んでいる。層厚は5～15cmである。

第3層は褐色のソフトローム層で、ロームブロック・粒子を多量に含んでいる。粘性・締まりとも弱い。層厚は15～30cmである。

第4層はソフトローム層からの漸移層で、黄褐色のロームブロックを多量に含む。粘性・締まりがあり、層厚は15～30cmである。

第5層は褐色のハードローム層で、ロームブロックを多量に含んでいる。粘性・締まりが強く、層厚は10～25cmである。

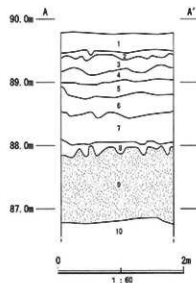
第6層は暗褐色の黒色帯層で、ロームブロックを微量含んでいる。粘性・締まりが強く、層厚は25～40cmである。

第7層は灰黄褐色のハードローム層で、ローム粒子を多量、鹿沼バミスを少量含んでいる。粘性・締まりが強く、層厚は40～50cmである。

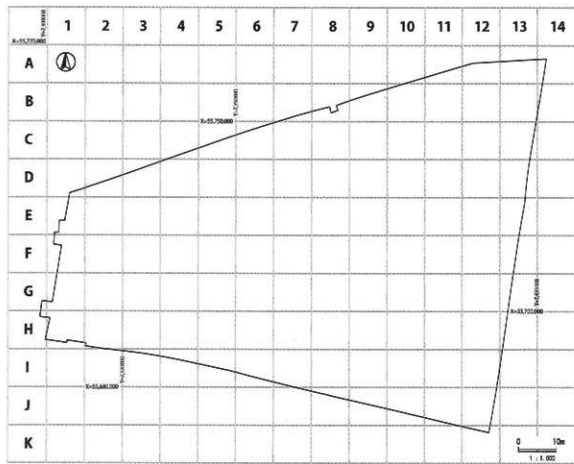
第8層は橙色のハードローム層から鹿沼バミス層への漸移層で、粘土粒子を含む。粘性・締まりは強く、層厚は5～25cmである。

第9層は明黄褐色の鹿沼バミス層である。粘性は弱いが、締まりが強く、層厚は105～120cmである。

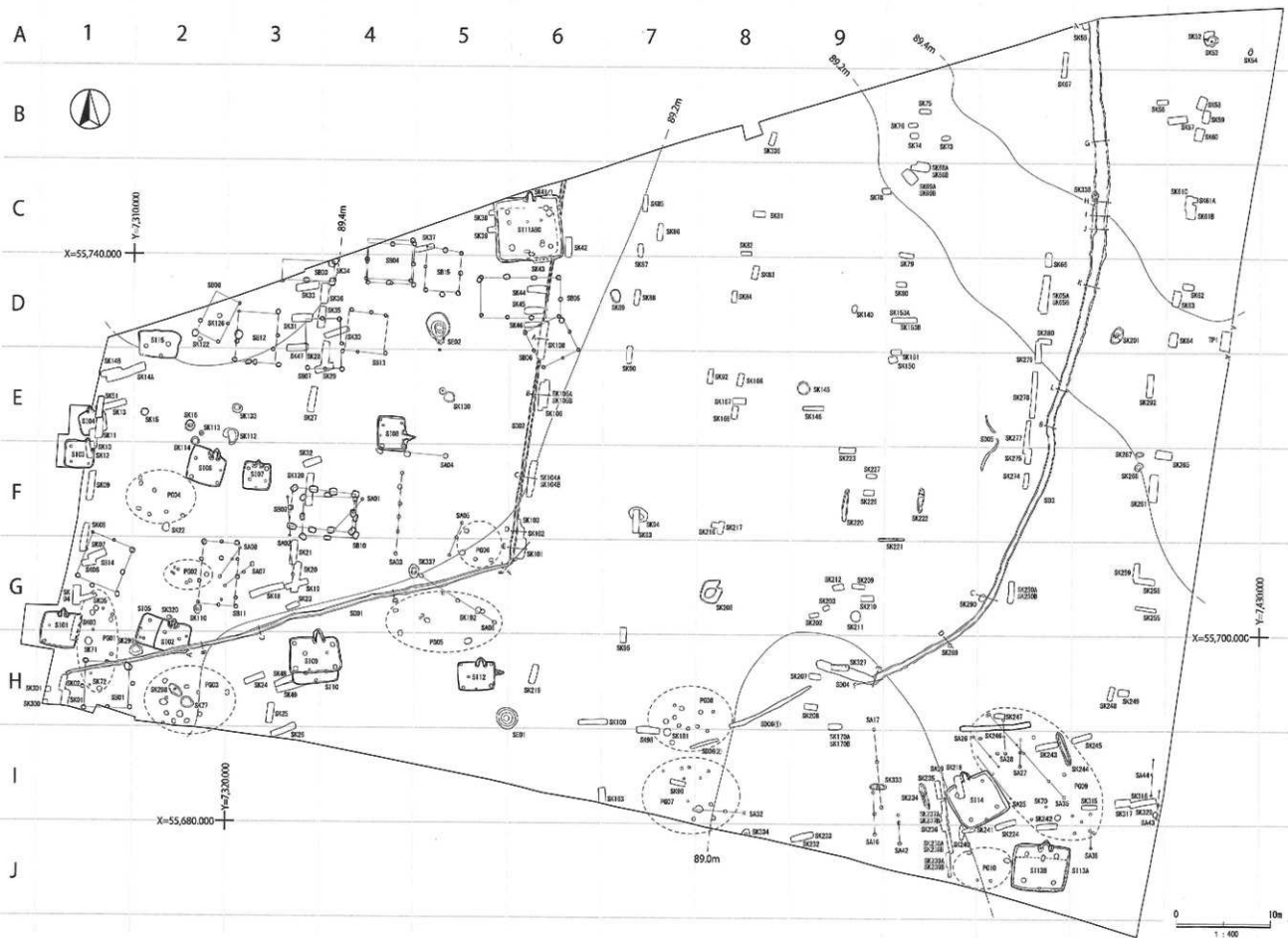
第10層は黒褐色の粘土層で、砂と礫が微量に混じっている。



第3図 基本土層図



第4図 グリッド設定図 (1 / 1,000)



第5图 全体图 (1/400)

### 第3節 遺構と遺物

#### 1 縄文時代の遺構と遺物

当該時代の遺構は土坑 21 基で、内 3 基は陥し穴である。以下、確認した遺構について記載する。

##### (1) 陥し穴

第 234 号土坑 (SK234) (第 6 図、第 3 表、図版 2)

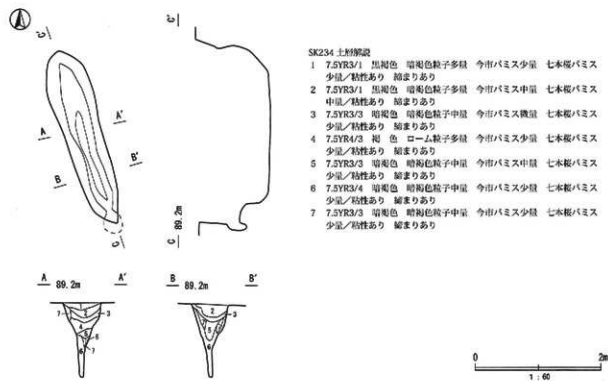
位置 調査区南東部。I 10 グリッド、標高 89 m 地点にある。

規模と形状 開口部は長径 2.80 m、短径 0.60 m、底部は長径 2.00 m、短径 0.30 m の長楕円形で、長径方向は N - 20° - W である。深さ 120cm で、底面は平坦である。壁は鋭角に立ち上がっている。

土層 自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 遺物は出土しなかったが、覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色パミス（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる



第 6 図 第 234 号土坑実測図

第 244 号土坑 (SK244) (第 7 図、第 3 表、図版 2)

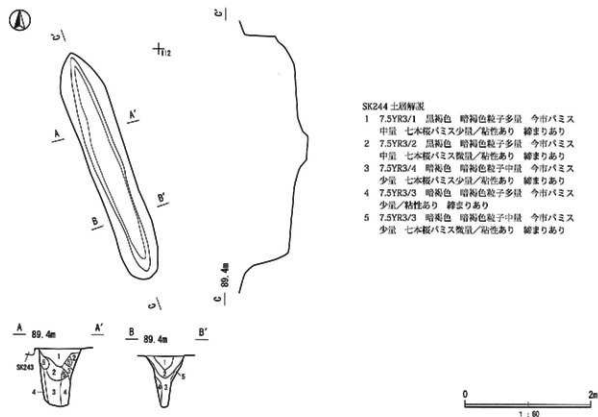
位置 調査区南東部。I 11 グリッド 標高 89 m 地点にある。

規模と形状 開口部は長径 3.70 m、短径 0.70 m、底部は長径 3.20 m、短径 0.30 m の長楕円形で、長径方向は N - 20° - W である。深さ 130cm で、底面は凸凹である。壁は鋭角に立ち上がっている。

土層 自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 遺物は出土しなかったが、覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

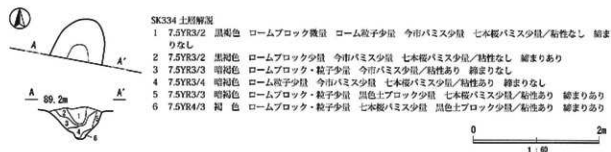


第7図 第244号土坑実測図

第334号土坑（SK334）（第8図、第3表、図版2）

位置 調査区南部。J 8グリッド、標高89 m地点にある。

規模と形状 南部が調査区外に延びており、開口部は長径0.68 m、短径0.76 m、底部は長径0.25 m、短径0.34 mの楕円形と推測され、長径方向はN-20°-Eである。深さ50cmの確認した底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。



第8図 第334号土坑実測図

土層 自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 遺物は出土しなかったが、覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。全容は確認できなかったが、形状と覆土から陥し穴と考えられる。

第3表 縄文時代陥し穴一覧

番号	位置	長径(軸)方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	時代	陥し穴 図版2
				長径×短径 (m)	深さ (cm)						
234	110	N-20°-W	長楕円形	2.80×0.60	120	直立	平組	自然	—	縄文	陥し穴 図版2
244	111	N-20°-W	長楕円形	3.70×0.70	130	直立	凸凹	自然	—	縄文	陥し穴 図版2
334	J 8	N-20°-E	楕円形	(0.68)×(0.76)	50	外傾	平組	自然	—	縄文	陥し穴 図版2

## (2) 土坑

### 第16号土坑 (SK16) (第9図、第4表)

位置 調査区西部。E 2グリッド、標高89mほどに位置している。

規模と形状 長径1.14m、短径1.10mの円形である。長径方向はN-10°-Wである。深さ30cmで底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

### 第53号土坑 (SK53) (第9図、第4表、図版2)

位置 調査区北東部。A13グリッド、標高89mほどに位置している。

重複関係 第52号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.40m、短径1.20mの不整楕円形である。長径方向はN-60°-Eである。深さ50cmで底面は凸凹で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

### 第54号土坑 (SK54) (第9図、第4表、図版2)

位置 調査区北東部。A13グリッド、標高89mほどに位置している。

規模と形状 長径0.80m、短径0.45mの楕円形である。長径方向はN-10°-Eである。深さ28cmで底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

#### 第89号土坑（SK89）（第9図、第4表、図版2）

位置 調査区西部。D7グリッド、標高89mほどに位置している。

規模と形状 長径1.46m、短径0.98mの楕円形で、長径方向はN-25°-Wである。深さ30cmで底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

#### 第94号土坑（SK94）（第9図、第4表）

位置 調査区中央部。F7グリッド、標高89mほどに位置している。

重複関係 第93号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.08m、短径1.42mの楕円形で、長径方向はN-60°-Wである。深さ28cmで底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

#### 第110号土坑（SK110）（第9図、第4表、図版2）

位置 調査区中央部。G2グリッド、標高89mほどに位置している。

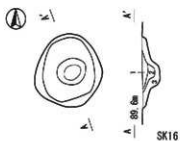
規模と形状 長径1.04m、短径0.86mの楕円形であり、長径方向はN-0°である。深さ40cmで底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

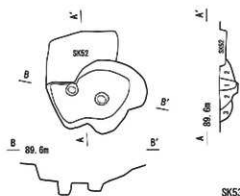
所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。





SK16 土器解説

- 1 7.5YR2/3 赭褐色 暗褐色粒子多量 今市バミス少量 七本板バミス少量/粘性あり 締まりあり
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 暗褐色粒子多量 今市バミス少量 七本板バミス微量/粘性あり 締まりあり
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 暗褐色粒子多量 今市バミス微量 七本板バミス微量/粘性あり 締まりあり



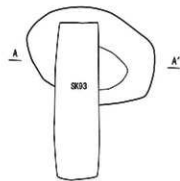
SK53 土器解説

- 1 7.5YR2/3 赭褐色 ローム粒子少量 暗褐色粒子多量 今市バミス少量 七本板バミス少量/粘性あり 締まりあり
- 2 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒子少量 暗褐色粒子中量 今市バミス少量 七本板バミス中量/粘性あり 締まりあり
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子中量 暗褐色粒子中量 今市バミス少量 七本板バミス少量/粘性あり 締まりあり



SK54 土器解説

- 1 7.5YR2/3 赭褐色 暗褐色粒子多量 今市バミス少量 七本板バミス少量/粘性あり 締まりあり
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 暗褐色粒子多量 今市バミス少量 七本板バミス微量/粘性あり 締まりあり



SK53

SK89 土器解説

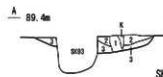
- 1 7.5YR5/6 暗褐色 ローム粒子中量 今市バミス多量 七本板バミス多量/粘性なし 締まりあり
- 2 7.5YR4/6 褐色 ローム粒子中量 今市バミス少量 七本板バミス少量/粘性あり 締まりあり
- 3 7.5YR4/4 褐色 ローム粒子多量 今市バミス少量/粘性あり 締まりあり
- 4 7.5YR4/3 褐色 ローム粒子多量 今市バミス微量/粘性あり 締まりあり



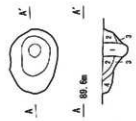
SK89

SK94 土器解説

- 1 7.5YR3/2 黒褐色 暗褐色粒子多量 今市バミス少量 七本板バミス微量/粘性あり 締まりあり
- 2 7.5YR3/3 暗褐色 暗褐色粒子多量 今市バミス少量 七本板バミス少量/粘性あり 締まりあり
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 暗褐色粒子中量 今市バミス微量 ローム粒子中量/粘性あり 締まりあり



SK94



SK110 土器解説

- 1 5YR2/4 赭褐色 暗褐色粒子多量 今市バミス中量 七本板バミス少量/粘性あり 締まりあり
- 2 5YR2/3 赭褐色 暗褐色粒子多量 今市バミス少量 七本板バミス多量/粘性あり 締まり強い
- 3 5YR2/2 暗褐色 暗褐色粒子多量 今市バミス少量 七本板バミス少量 黄色土ブロック少量/粘性あり 締まり強い
- 4 7.5YR4/3 褐色 暗褐色粒子少量 ロームブロック多量/粘性あり 締まりあり



第9図 縄文時代その他の土坑(1)

第 112 号土坑 (SK112) (第 10 図、第 4 表、図版 2)

位置 調査区中央部。E 3 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.74m、短径 1.56m の不整楕円形で、長径方向は  $N-0^\circ$  である。深さ 28cm で底面は凸凹で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 113 号土坑 (SK113) (第 10 図、第 4 表)

位置 調査区東部。F 2 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 0.50m、短径 0.50m の円形で、深さ 30cm である。底面は凸凹で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 114 号土坑 (SK114) (第 10 図、第 4 表)

位置 調査区中央部。E 2 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 0.90m、短径 0.82m の円形で、長径方向は  $N-40^\circ-E$  である。深さ 20cm で底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 113 号土坑 (SK133) (第 10 図、第 4 表)

位置 調査区中央部。E 3 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

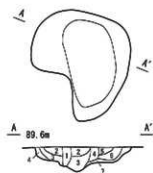
規模と形状 長径 1.08m、短径 0.98m の円形で、長径方向は  $N-40^\circ-W$  である。深さ 40cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期

④



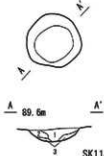
SK112

SK112 土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐色 暗褐色粘土粒子多量 七本塚バミス少量/粘性あり 跡まりあり
- 2 10YR3/2 黒褐色 暗褐色粘土粒子多量 今市バミス少量 七本塚バミス少量/粘性あり 跡まりあり
- 3 10YR3/1 黒褐色 暗褐色粘土粒子多量 今市バミス微量 ローム粒子少量/粘性あり 跡まりあり
- 4 10YR4/3 灰赤い黄褐色 暗褐色粘土粒子少量 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 跡まりあり
- 5 10YR4/4 褐色 暗褐色粘土粒子少量 ロームブロック中粒・粒子少量/粘性あり 跡まりあり
- 6 10YR3/2 黒褐色 暗褐色粘土粒子中粒 ロームブロック・粒子少量 炭化物微量/粘性あり 跡まりあり
- 7 10YR4/4 褐色 ロームブロック中粒・粒子多量/粘性あり 跡まりあり

SK113 土層解説

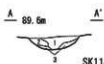
- 1 10YR3/2 黒褐色 暗褐色粘土多量 今市バミス少量 炭化粒子少量/粘性あり 跡まりあり
- 2 10YR3/4 暗褐色 暗褐色粘土中量 今市バミス微量 七本塚バミス少量/粘性あり 跡まりあり



SK113

SK114 土層解説

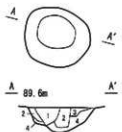
- 1 10YR3/2 黒褐色 暗褐色粘土多量 今市バミス微量 七本塚バミス少量/粘性あり 跡まりあり
- 2 10YR3/3 暗褐色 暗褐色粘土多量 今市バミス微量 七本塚バミス微量/粘性あり 跡まりあり
- 3 7.5YR4/4 褐色 粘土ロームブロック中粒・粒子多量/粘性あり 跡まりあり



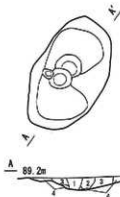
SK114

SK133 土層解説

- 1 7.5YR4/2 灰褐色 暗褐色粘土粒子多量 今市バミス少量 炭化粒子少量/粘性あり 跡まりあり
- 2 7.5YR4/3 褐色 暗褐色粘土粒子多量 今市バミス少量 七本塚バミス少量/粘性あり 跡まりあり
- 3 7.5YR4/1 灰褐色 暗褐色粘土粒子多量 今市バミス微量 七本塚バミス少量/粘性あり 跡まりあり
- 4 7.5YR4/4 褐色 暗褐色粘土粒子多量/粘性あり 跡まりあり



SK133



SK201

SK201 土層解説

- 1 7.5YR4/2 灰褐色 暗褐色粘土多量 今市バミス中量 炭化粒子少量/粘性あり 跡まりあり
- 2 7.5YR3/3 暗褐色 暗褐色粘土多量 今市バミス少量 七本塚バミス少量/粘性あり 跡まりあり
- 3 7.5YR3/4 暗褐色 暗褐色粘土多量 今市バミス微量 ローム粒子中量/粘性あり 跡まりあり
- 4 7.5YR4/4 褐色 暗褐色粘土中粒 粘土ロームブロック・粒子中量/粘性あり 跡まりあり

SK289 土層解説

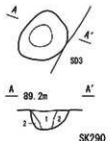
- 1 10YR3/1 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量 炭化粘土粒子多量/粘性あり 跡まりなし
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 暗褐色粘土中粒 今市バミス微量/粘性あり 跡まりあり
- 3 7.5YR3/2 黒褐色 暗褐色粘土多量 今市バミス少量/粘性あり 跡まりあり



SK289

SK290 土層解説

- 1 7.5YR3/1 黒褐色 暗褐色粘土多量 今市バミス微量 七本塚バミス少量/粘性あり 跡まりあり
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 暗褐色粘土多量 七本塚バミス微量/粘性あり 跡まりあり



SK290



第 10 図 縄文時代その他の土坑 (2)

期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 201 号土坑 (SK201) (第 10 図、第 4 表、図版 2)

位置 調査区東部。D12 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.86m、短径 1.16m の楕円形で、長径方向は  $N-30^{\circ}-E$  である。深さ 50cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）は、ザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 289 号土坑 (SK289) (第 10 図、第 4 表)

位置 調査区東部。H10 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 0.40m、短径 0.40m の円形である。深さ 14cm で、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス（今市軽石）は、ザクザクしたブロックである。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 290 号土坑 (SK290) (第 10 図、第 4 表)

位置 調査区東部。H10 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

重複関係 第 3 号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長径 0.82m、短径 0.64m の楕円形で、長径方向は  $N-40^{\circ}-E$  である。深さ 40cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色パミス・赤褐色パミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 298 号土坑 (SK298) (第 11 図、第 4 表、図版 2)

位置 調査区西部。H 2 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.76m、短径 0.92m の楕円形で、長径方向は  $N-45^{\circ}-W$  である。深さ 20cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

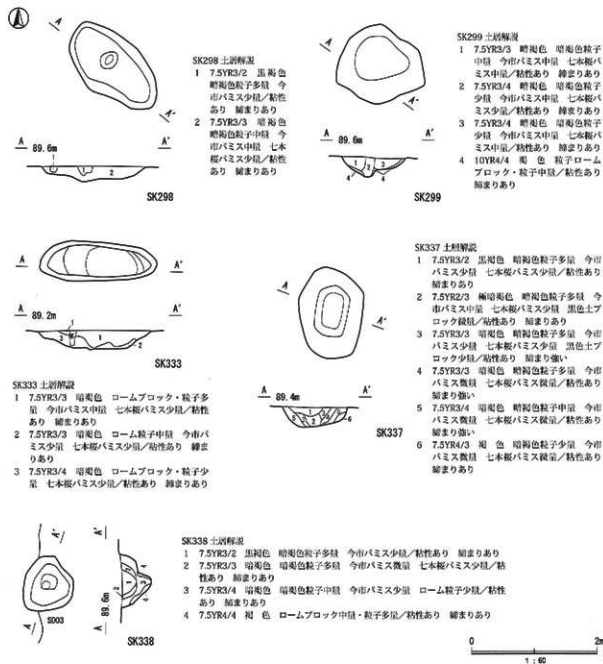
所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 299 号土坑（SK299）（第 11 図、第 4 表、図版 2）

位置 調査区西部。H 2 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.42m、短径 1.12m の不整形円形で、長径方向は N - 60° - W である。深さ 32cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4 層に分層でき、自然堆積状況を示している。



第 11 図 縄文時代その他の土坑（3）

遺物 出土しなかった。

所見 遺物は出土しなかったが、覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロック、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 333 号土坑 (SK333) (第 11 図、第 4 表)

位置 調査区南部、I 9 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.76m、短径 0.64m の楕円形で、長径方向は  $N-90^{\circ}-E$  である。深さ 30cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 337 号土坑 (SK337) (第 11 図、第 4 表、図版 2)

位置 調査区西部、G 4～G 5 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.46m、短径 0.90m の楕円形で、長径方向は  $N-0^{\circ}$  である。深さ 54cm で底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 6 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第 338 号土坑 (SK338) (第 11 図、第 4 表)

位置 調査区東部、C12 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

重複関係 第 3 号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 第 3 号溝跡に掘り込まれ、長径 0.90m、短径 0.80m しか確認できず、平面形は楕円形と推測される。長径方向は  $N-60^{\circ}-E$  である。深さ 48cm で底面は凸凹で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4 層に分層でき、自然堆積状況を示している。

遺物 出土しなかった。

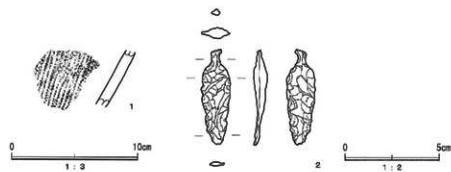
所見 覆土の白色バミス・赤褐色バミス（今市・七本桜軽石）はザクザクしたブロックで、下層部に赤褐色粒子（七本桜軽石）が堆積している。土壌化が進んでいないことから、今市・七本桜テフラの降灰後間もない時期に埋没したものと推定され、草創期から早期と考えられる。

第4表 縄文時代その他の土坑一覧

番号	位置	長横(軸)方向	平面形	形状		壁面	底面	甍土	主な 出土遺物	時代	備考 追加図版 (頁→版)
				長横×短横 (m)	高さ (c.m)						
16	E 2	N - 10° - W	円形	1.14 × 1.10	30	外傾	平坦	自然	—	縄文	
53	A13	N - 60° - E	不規則円形	1.40 × 1.20	50	外傾	凸凹	自然	—	縄文	本誌→SK52
54	A13	N - 10° - E	楕円形	0.80 × 0.45	28	外傾	平坦	自然	—	縄文	
89	D 7	N - 25° - W	楕円形	1.46 × 0.98	30	外傾	平坦	自然	—	縄文	
94	F 7	N - 60° - W	楕円形	2.08 × 1.42	28	緩傾	皿状	自然	—	縄文	本誌→SK93
110	C 2	N - 0°	楕円形	1.04 × 0.86	40	緩傾	凸凹	自然	—	縄文	
112	E 3	N - 0°	不規則円形	1.74 × 1.56	28	外傾	凸凹	自然	—	縄文	
113	F 2	N - 0°	円形	0.50 × 0.50	30	外傾	凸凹	自然	—	縄文	
114	E 2	N - 40° - E	円形	0.90 × 0.82	20	外傾	平坦	自然	—	縄文	
133	E 3	N - 40° - W	円形	1.08 × 0.98	40	外傾	凸凹	自然	—	縄文	
201	D12	N - 30° - E	楕円形	1.86 × 1.16	50	緩傾	凸凹	自然	—	縄文	
289	H10	N - 0°	円形	0.40 × 0.40	14	外傾	平坦	自然	—	縄文	
290	H10	N - 40° - E	楕円形	0.82 × 0.54	40	緩傾	凸凹	自然	—	縄文	本誌→SD3
298	H 2	N - 45° - W	楕円形	1.76 × 0.92	20	緩傾	凸凹	自然	—	縄文	
299	H 2	N - 60° - W	不規則円形	1.42 × 1.12	32	緩傾	凸凹	自然	—	縄文	
333	I 9	N - 90° - E	楕円形	1.76 × 0.64	30	緩傾	凸凹	自然	—	縄文	
337	C 4 ~ C 5	N - 0°	楕円形	1.46 × 0.80	54	緩傾	平坦	自然	—	縄文	
338	C12	N - 60° - E	(楕円形)	(0.90) × (0.80)	48	緩傾	凸凹	自然	—	縄文	本誌→SD3

(3) 遺構外遺物

縄文時代の遺構に附属しない遺物について、実測図と観察表(第12図、第5表、図版12)を示す。



第12図 縄文時代遺構外出土遺物実測図

第5表 縄文時代遺構外出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色相	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(4.4)	—	粘土・石英・炭 に灰・燧石	青黒	焼成不明	製法の1R 半田縄文 器の形状による推定	SD02 上層	図版式 図版12
番号	器種	長さ	幅	厚さ	材質	手法の特徴			出土位置	備考	
2	石函	5.0	1.5	0.7	4.0	チャークト	両面押付刺蝟			SH11 中央層 甍土下層	100% 図版12

## 2 古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構は、竪穴建物跡3棟、土坑1基、溝跡1条を確認した。以下、確認した遺構と遺物について記載する。

### (1) 竪穴建物跡

第13A号竪穴建物跡(SI13A) (第13～16図、第6・8表、図版3・12・13)

位置 調査区南東部J11グリッド、標高89mに位置する。

確認状況 ローム層上面で確認した。第13B号竪穴建物跡の覆土上に構築されている。

規模と形状 長軸5.95m、短軸4.90mで、平面形は方形である。主軸方位はN-10°-Eである。壁は確認面から最大高50cmで、ほぼ直立している。壁溝は、上幅30～40cm、下幅5～10cm、深さ10cmで、ほぼ全周している。断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦な貼床で、カマドから中央部が固く締まっている。カマド手前の床面から検出した焼土範囲は掘方調査により、第13B号竪穴建物跡のカマドの痕跡と考えられる。

カマド 北壁中央東寄りであり、灰白色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは140cmである。袖部の基部の最大幅は約140cmで、両袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。なお、煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。

土層 10層に分層できる。ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。11～16層は貼床の構築土であるが、第13B号竪穴建物跡の覆土とする。

ピット 床面から、ピット5か所が検出された。P1～P4は主柱穴、P5は出入口施設と考えられる。P1:50×50cm、深さ60cm、P2:45×40cm、深さ40cm、P3:60×50cm、深さ50cm、P4:50×40cm、深さ60cm、P5:25×25cm、深さ20cmである。

遺物出土状況 土師器片663点[環258点(2,284g)、高坏2点(29g)、甕台1点(163g)、壺1点(37g)、甕401点(11,528g)]、須恵器片12点[環6点(27g)、蓋2点(111g)、甕4点(105g)]、石7点(1,900g)。

1の土師器環はカマドの東側、3の土師器環は西部、16・19・21の土師器環はカマド前の覆土下層から出土している。2の土師器環は南西部の床面から覆土中層に散在している。4の土師器環、7の土師器甕台は西部、9の土師器直口壺はカマド前、24の土師器甕は北東部の覆土中層から出土している。5の須恵器蓋、13・15の土師器甕、27の須恵器甕はカマド右袖内から出土している。6の須恵器蓋、8の土師器壺、10～12・18・22・23の土師器甕はカマド内から出土している。14の土師器甕はカマド前の床面、17の土師器甕はP1西側壁の床面から出土している。20の土師器甕は中央部の覆土下層から覆土中層、25の土師器甕は覆土中層、26の土師器甕はカマド左袖内から出土している。

所見 13の土師器甕は掘方内や袖内から出土していることから、建て替え時に、第13B号竪穴建物跡の土器を再利用した可能性も考えられる。時期は、出土土器から7世紀後半と推定される。

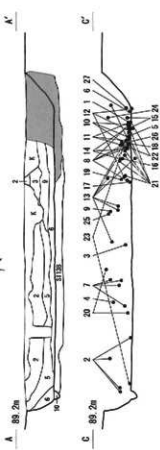
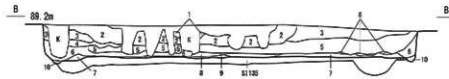
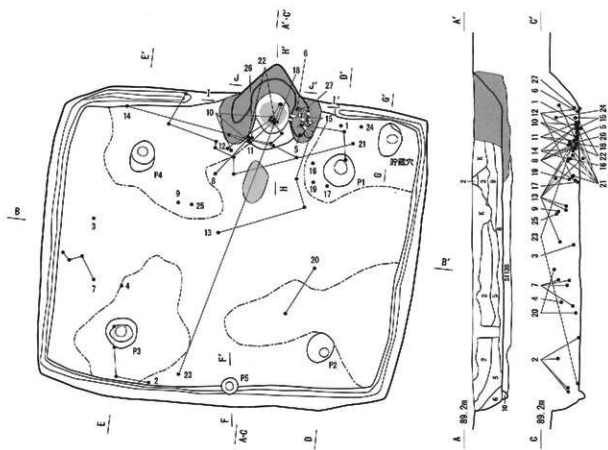
#### SI13A 土師器類

1	7.5YR3/1 黒褐色	ロームブロック微量・粘土少量	炭化種子多量/粘性あり 締まりなし	5	7.5YR3/3 暗褐色	ローム粘土少量	焼土粒子微量	炭化種子中量/粘性あり 締まりあり	
2	7.5YR3/3 暗褐色	ロームブロック・粘土少量	炭化種子多量	黒色土	6	7.5YR3/2 暗褐色	ローム粘土少量	炭化種子中量	黒色土粒子中量/粘性あり 締まりあり
3	7.5YR3/3 暗褐色	ロームブロック・粘土中量	炭化種子中量	黒色土	7	7.5YR3/3 暗褐色	ロームブロック・粘土中量	焼土粒子微量	炭化種子少量/粘性あり 締まりあり
4	7.5YR3/4 暗褐色	ロームブロック多量	粘土中量	炭化種子中量	黒	8	7.5YR3/1 黒褐色	ローム粘土微量	炭化種子多量/粘性あり 締まりあり





1:100



B'

F F'

G G'

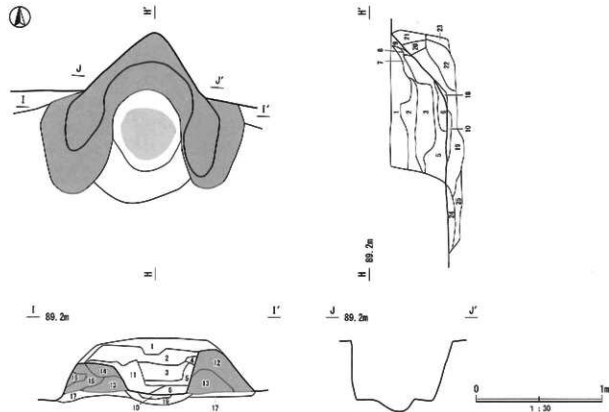


第13图 第13A号聚穴建物跡実測图

- 9 7.5YR4/2 灰褐色 ローム粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量 黒色土ブロック少量 暗褐色粘土粒子中量/粘性あり 粘りあり  
 10 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量 ローム粒子少量 炭化粒子少量/粘性あり 粘りありなし

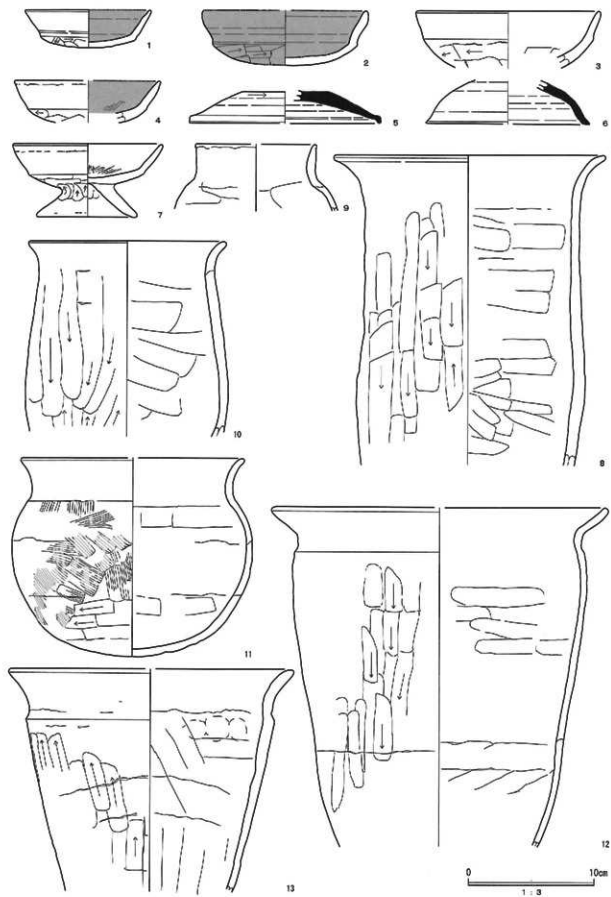
SI13A ヒット土層解説 (P1~5)

- 1 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性あり 粘りありなし  
 2 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子中量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 粘りありなし  
 3 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量 炭化粒子中量/粘性あり 粘りありなし  
 4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性あり 粘りあり

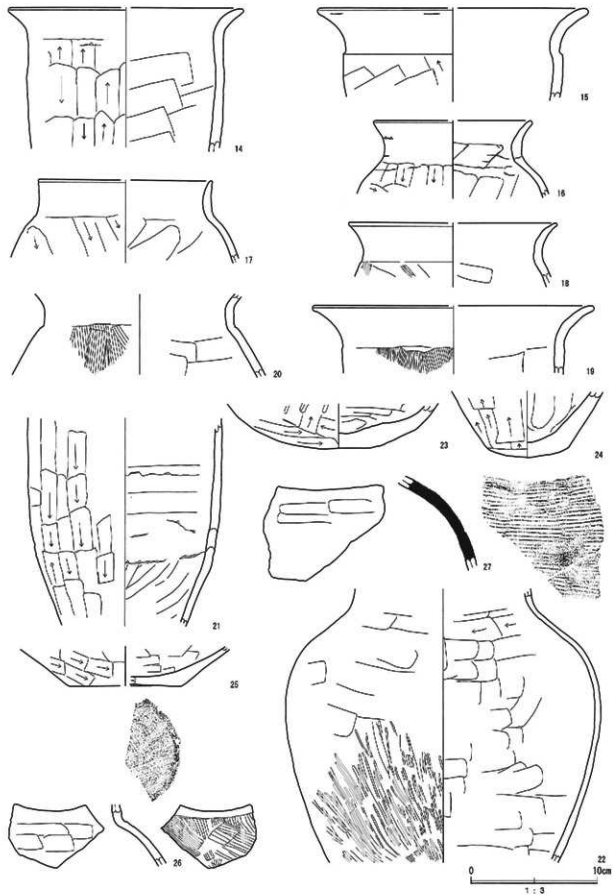


第14図 第13A号壁穴建物跡カマド実測図

- SI13A カマド土層解説
- 1 7.5YR3/1 黒褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 粘りありなし  
 2 7.5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 粘土粒子少量/粘性あり 粘りありなし  
 3 7.5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子少量 粘土粒子中量/粘性あり 粘りありなし  
 4 7.5YR4/2 灰褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 粘土粒子中量/粘性あり 粘りありなし  
 5 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化物少量 炭化粒子多量 粘土粒子少量/粘性あり 粘りありなし  
 6 2.5YR3/4 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子少量 粘土粒子少量/粘性あり 粘りありなし  
 7 2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土ブロック中量・粒子中量 灰白色粘土粒子少量/粘性なし 粘りあり  
 8 2.5YR4/1 赤灰色 焼土粒子少量 灰白色粘土粒子多量/粘性あり 粘りあり  
 9 2.5YR4/6 赤褐色 焼土ブロック多量・粒子中量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 粘りありなし  
 10 2.5YR4/6 赤褐色 焼土ブロック微量・粒子中量 炭化粒子少量/粘性なし 粘りありなし (穴周囲)  
 11 2.5YR3/1 暗赤褐色 焼土粒子少量 粘土粒子少量 灰白色粘土粒子中量/粘性なし 粘りありなし  
 12 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 粘土粒子中量/粘性あり 粘りありなし  
 13 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子中量 灰白色粘土粒子多量/粘性あり 粘りありなし  
 14 2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 粘土粒子中量 灰白色粘土粒子中量/粘性なし 粘りありなし  
 15 7.5YR4/2 灰褐色 焼土粒子少量 灰白色粘土粒子中量/粘性あり 粘りありなし  
 16 7.5YR3/1 黒褐色 炭化粒子多量 焼土粒子微量/粘性あり 粘りあり  
 17 7.5YR4/3 濃い赤褐色 焼土ブロック中量・粒子少量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 粘りあり  
 18 2.5YR3/1 暗赤褐色 焼土粒子少量 灰白色粘土粒子多量/粘性なし 粘りありなし  
 19 2.5YR4/3 濃い赤褐色 焼土ブロック微量・粒子中量 炭化粒子少量 粘土粒子少量/粘性あり 粘りあり  
 20 2.5YR3/4 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 粘土粒子少量/粘性あり 粘りあり  
 21 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック・粒子中量 炭化粒子少量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 粘りあり  
 22 2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子微量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 粘りあり  
 23 5YR3/6 暗赤褐色 焼土粒子中量 ローム粒子中量/粘性あり 粘りあり  
 24 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土ブロック・粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 粘りあり  
 25 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック・粒子中量 焼土粒子少量/粘性あり 粘りあり



第15图 第13A号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第16图 第13A号窑穴建物跡出土遺物実測図(2)

第6表 第13A号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	出土	色澤	焼成	手法の特徴	出土位置	備考		
1	土罽	杯	9.9	2.9	—	羅砂	に灰・硝	普通	口縁部縮ナデ 底部不定方向のヘラ削り	カマド裏面	75% 図版12		
2	土罽	杯	(13.0)	4.3	—	灰石・石英・ス コリア	浅灰緑	普通	口縁部縮ナデ 底部縦位のヘラ削り	内外面	50% 図版12		
3	土罽	杯	(14.4)	(4.4)	—	灰黄緑	普通	口縁部縮ナデ 底部不定方向のヘラ削り	内面	底面 覆土下流	30% 図版12		
4	土罽	杯	(11.4)	(3.3)	—	羅砂・スコリア	橙	普通	口縁部縮ナデ 底部不定方向のヘラ削り	内面	底面 覆土中流	10% 図版12	
5	瓦器	蓋	(15.0)	(2.8)	—	灰石・石英・雲 母	灰白	普通	天井部口コナデ 頂部斜転ヘラ削り	構内部	カマド 右袖内	45% 図版12 新発見	
6	瓦器	蓋	(13.0)	(3.4)	—	羅砂	灰	普通	天井部口コナデ 頂部斜転ヘラ削り	構内部	カマド内	10% 図版12 三倉山調査	
7	土罽	都合	11.5	5.8	7.7	羅砂・スコリア	橙	普通	杯部口縁部縮ナデ 内面縦位のヘラ削り	壁 腹土中層	西部 腹土中層	70% 図版12	
8	土罽	皿	21.4	(24.4)	—	灰石・石英・雲 母・チャート・ スコリア	橙	普通	口縁部縮ナデ 体部外部縦位のヘラ削り	内面	カマド内	40% 図版12	
9	土罽	皿口	9.41	(5.2)	—	羅砂・スコリア	橙	普通	口縁部縮ナデ 外面縦位のヘラ削り	体部内面	中央部 腹土中層	10% 図版12	
10	土罽	裏	15.4	(15.4)	—	灰石・石英・雲 母・チャート・ スコリア	橙	普通	口縁部縮ナデ 体部外部縦位のヘラ削り	内面	カマド内	50% 図版12	
11	土罽	裏	(17.4)	(15.7)	—	灰石・石英・羅 砂・スコリア	に灰・硝	普通	口縁部縮ナデ 体部外部縦位の斜低目調整	内 面縦位のヘラナデ	カマド内	25% 図版12	
12	土罽	裏	(26.0)	(26.7)	—	灰石・石英・雲 母	灰	普通	口縁部縮ナデ 体部外部縦位のヘラ削り	内面	カマド内・ カマド前 覆土下流	15% 図版12	
13	土罽	裏	(22.0)	(17.5)	—	灰石・石英・角 閃石・チャート・ スコリア	に灰・硝	普通	口縁部縮ナデ 体部外部縦位のヘラ削り	内面	カマド右袖 内・中央部 覆土下流	10% 図版13	
14	土罽	裏	(18.3)	(11.4)	—	灰石・石英・角 閃石・チャート・ スコリア	橙	普通	口縁部縮ナデ 体部外部縦位のヘラ削り	内面	カマド縁部 面・北西部 覆土下流	10% 図版13	
15	土罽	裏	(21.0)	(7.3)	—	灰石・石英・角 閃石・スコリア	に灰・硝	普通	口縁部縮ナデ 体部外部縦位のヘラ削り	内面	カマド	5% 図版13	
16	土罽	裏	(12.5)	(6.8)	—	灰石・石英・ス コリア	橙	普通	口縁部縮ナデ 体部外部縦位のヘラ削り	内面	カマド前 覆土中層	5% 図版13	
17	土罽	裏	(13.8)	(6.3)	—	灰石・石英・チ ャート・スコリ ア	に灰・硝	普通	口縁部縮ナデ 体部外部縦位のヘラ削り	内面	P1付記縁面	5% 図版13	
18	土罽	裏	(16.4)	(5.0)	—	灰石・石英・羅 砂	灰黄緑	普通	口縁部縮ナデ 体部外部縦位の刷毛目調整	内 面縦位のヘラナデ	カマド内	5% 図版13	
19	土罽	裏	(22.0)	(5.4)	—	灰石・石英・ス コリア	に灰・硝	普通	口縁部縮ナデ 体部外部縦位の刷毛目調整	内 面縦位のヘラナデ	カマド前 覆土下流	5% 図版13	
20	土罽	裏	—	(5.4)	—	灰石・石英・角 閃石・スコリア	橙	普通	口縁部縮ナデ 体部外部縦位の刷毛目調整	内 面縦位のヘラナデ	中央部腹 土下層・上流	5% 図版13	
21	土罽	裏	—	(38.8)	—	灰石・石英・羅 砂	灰黄緑	普通	体部外部上位縦位のヘラナデ 外面下流調整の ヘラ削り	内面下流調整 のヘラナデ	カマド前上 下層・中流	30% 図版13	
22	土罽	裏	—	(16.4)	—	灰石・石英・雲 母・チャート	に灰・硝	普通	体部内面ナデ 外部縦位のヘラ削り	内面上位 縦位のナデ	内面下流調整のヘラ削り	カマド内	15% 図版13
23	土罽	裏	—	(3.8)	—	灰石・石英・雲 母・チャート・ スコリア	明灰緑	普通	体部外部縦位のヘラ削り	内面ヘラナデ	カマド内・ 南部縁面	10% 図版13	
24	土罽	裏	—	(5.2)	6.3	灰石・石英・雲 母・チャート・ スコリア	に灰・硝	普通	体部外部縦位のヘラ削り	内面縦位のヘラナデ	北西部 腹土中層	10% 図版13	
25	土罽	裏	—	(3.1)	(8.0)	灰石・石英・角 閃石	に灰・硝	普通	体部下部縦位のヘラ削り	内面縦位のヘラナデ	腹土中層	5% 図版13	
26	土罽	裏	—	(4.8)	—	灰石・石英・角 閃石	橙	普通	口縁部縮ナデ 体部外部縦位の斜低目調整	内 面縦位のヘラナデ	カマド内	5% 図版13	
27	瓦器	裏	—	(7.0)	—	灰石・石英・雲 母	灰	普通	体部外部縦位の平行叩き	内面縦位のナデ	カマド 右袖内	5% 図版13 新発見	

第 13B 号竪穴建物跡 (SI13B) (第 17・18 図、第 8 表、図版 3)

位置 調査区南東部 J 11 グリッド、標高 89 m に位置する。

確認状況 第 13A 号竪穴建物跡の床下で確認する。

規模と形状 推定長軸 5.40 m、推定短軸 3.40 m で、平面形は長方形と推定される。主軸方位は N - 10° - E である。壁は確認面から最大高 50cm と推定される。

床 ほぼ平坦な粘土床で、全体に固く締まっている。

カマド 第 13A 号竪穴建物跡床下から、長径 66cm、短径 42cm の楕円形のカマドの範囲を確認した。

土層 第 13A 号竪穴建物跡の床下から 6 層に分層できる。ロームブロックで踏み固められており、人為的な埋没状況である。14・15 層は掘方土層、16 層はカマド覆土の残りである。

ピット 床面から、ピット 7 が所が検出された。P 6～P 9 は主柱穴、P10・P11 は出入口施設と考えられる。P 6:50×40cm、深さ 12cm、P 7:32×28cm、深さ 40cm、P 8:60×50cm、深さ 20cm、P 9:62×32cm、深さ 42cm、P10:20×20cm、深さ 32cm、P11:24×24cm、深さ 26cm である。

遺物出土状況 出土しなかった。

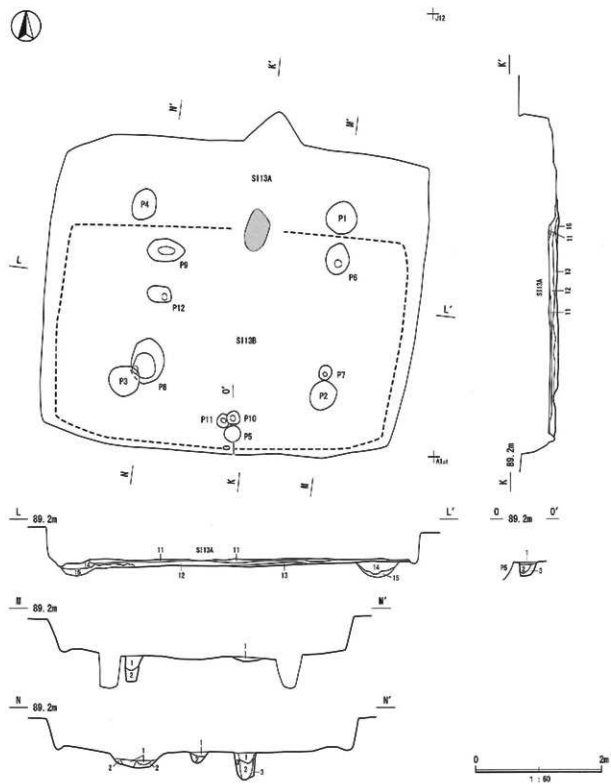
所見 第 13A 号竪穴建物跡出土の土師器類が、構築時にカマド軸内や掘方に埋め込まれていたことを考えると、本跡との廃絶時期の時期差はあまりない可能性がある。時期は、重複関係から 7 世紀後葉以前と考えられる。

SI13B 土層解説

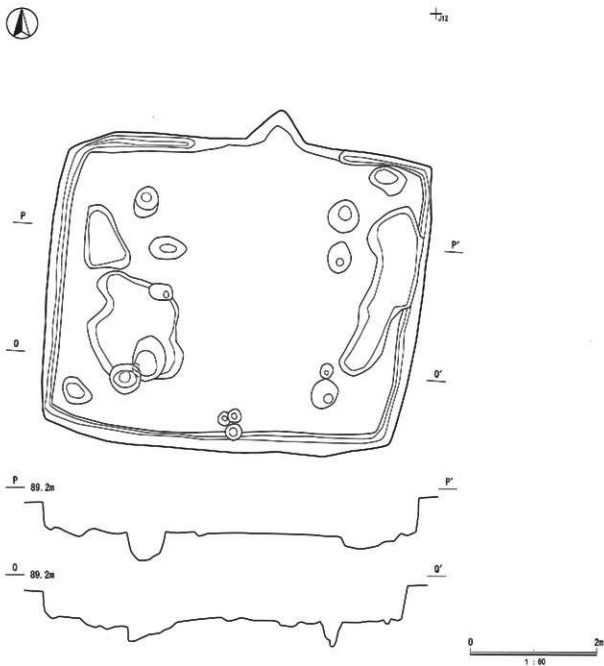
11 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粘土中量 焼土粒子微量 炭化 粒子少量/粘性あり 締まりあり	P9	1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粘土中量 炭化粒子中量/粘性 あり 締まりあり
12 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粘土中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量 珪土粒子少量/粘性あり 締まりあり	2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粘土中量 炭化粒子少量/粘性 あり 締まりあり	
13 7.5YR4/2 灰褐色 ロームブロック微量・粘土中量 炭化粒子中量 粘土粒子中量/粘性あり 締まりあり	3 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粘土中量 炭化粒子微量/粘性 あり 締まりあり	
14 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粘土中量 炭化粒子中量 焼土粒子少量/粘性あり 締まりあり	P10	1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粘土中量 炭化粒子中量/粘性 あり 締まりあり
15 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック多量・粘土中量 炭化粒子少量/ 粘性あり 締まりあり	2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粘土中量 炭化粒子少量/粘性 あり 締まりあり	
16 7.5YR4/6 褐色 ロームブロック・粘土多量 炭化粒子少量/粘性 あり 締まりあり	3 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粘土中量 炭化粒子微量/粘性 あり 締まりあり	

SI13B ピット上層解説

P8	1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粘土中量 炭化粒子中量/粘性 あり 締まりあり	
P7	1 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック・粘土少量 炭化粒子多量/粘性 あり 締まりあり	
2 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック中量・粘土多量 炭化粒子少量/ 粘性あり 締まりあり	P12	1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粘土中量 炭化粒子中量/ 粘性あり 締まりあり
P6	1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粘土中量 炭化粒子少量/粘性 あり 締まりあり	2 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック中量・粘土多量 炭化粒子少量/ 粘性あり 締まりあり
2 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粘土多量 炭化粒子微量/粘性 あり 締まりあり		



第 17 图 第 13B 号整穴建物跡実測图



第18図 第13A・B号竪穴建物跡掘方実測図

第14号竪穴建物跡 (SI14) (第19～21図、第7・8表 図版3・14)

位置 調査区南東部。I 10～I 11 グリッド、標高89mの平地面に位置する。

確認状況 ローム層上面で確認し、第218・241号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.48m、短軸5.22mで、平面形は方形である。主軸方位は $N-30^{\circ}-W$ である。壁は確認面から最大高20cmで、ほぼ直立している。壁溝は、上幅20～40cm、下幅5～10cm、深さ10cmで、ほぼ全周している。断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦な貼床で、カマドから中央部が固く締まっている。

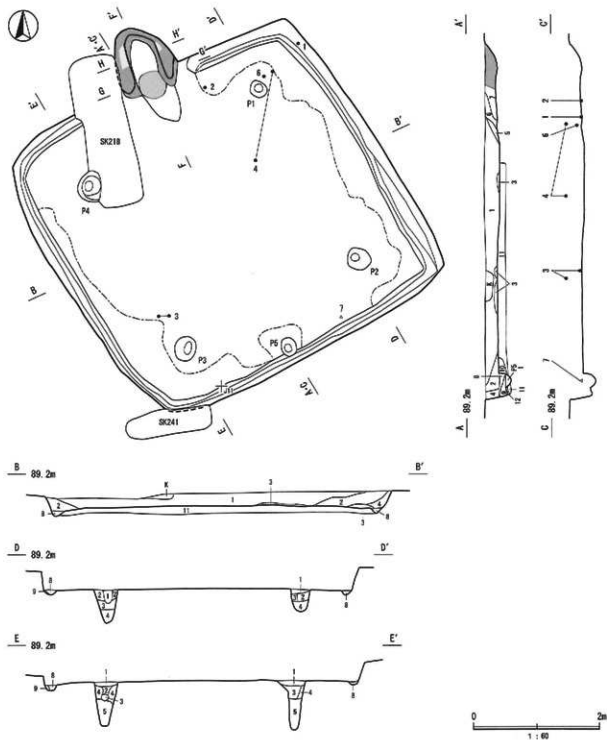
カマド 北壁中央東寄りであり、灰白色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは140cmである。袖部の基部の最大幅は約100cmで、両袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化



している。床面から5cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。なお、煙道は火床面から緩やかに立ち上がっている。

土層 8層に分層できる。炭化材や焼土粒子が含まれており、人為的な埋没状況である。10～12層は粘土の構築土である。

ビット 床面から、ビット5か所を検出した。P1～P4は主柱穴、P5は出入口施設と考えられる。P1：30×24cm、深さ40cm、P2：38×32cm、深さ66cm、P3：36×35cm、深さ90cm、P4：50×38cm、



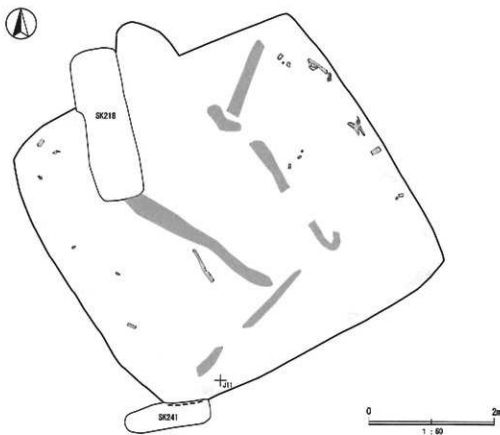
第19図 第14号竪穴建物跡実測図

SI14 土器解説

- |  |  |
|--|--|
| 1 7.5YR2/3 暗褐色 ローム粒子少量 炭土粒子少量 炭化物少量・<br>粒子多量/粘性あり 締まりなし      | 10 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 炭土粒子少量 炭化物中量・粒<br>子多量/粘性あり 締まりなし |
| 2 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒子微量 炭土粒子少量 炭化物少量・粒<br>子多量/粘性あり 締まりなし      | 11 7.5YR3/2 暗褐色 ローム粒子中量 炭化物微量・粒子中量/粘性あ<br>り 締まりなし        |
| 3 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子微量 炭土粒子少量 炭化物中量・粒<br>子多量/粘性あり 締まりなし      | 12 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/<br>粘性あり 締まりなし     |
| 4 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック中量 炭土粒子少量 炭化物・粒<br>子少量/粘性あり 締まりなし       |  |
| 5 5YR2/3 暗赤褐色 炭土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子<br>少量/粘性なし 締まりなし         |  |
| 6 5YR3/2 暗赤褐色 炭土粒子中量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子中<br>量/粘性なし 締まりなし         |  |
| 7 5YR2/4 暗赤褐色 炭土粒子中量 炭化物少量・粒子中量 暗褐色<br>粘土粒子少量/粘性あり 締まりあり     |  |
| 8 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子微量 炭土粒子微量 炭化粒子多量/<br>粘性あり 締まりなし          |  |
| 9 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭土粒子少量 炭化物微量・粒<br>子多量/粘性あり 締まりなし (製方) |  |

SI14 ビット土器解説 (P1～P5)

- |   |
|---|
| 1 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 炭土粒子微量 炭化粒子多量/<br>粘性あり 締まりなし       |
| 2 7.5YR3/2 暗褐色 ロームブロック・粒子少量 炭化粒子中量/粘性<br>あり 締まりあり         |
| 3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子多量 炭化粒子中量<br>粘土粒子微量/粘性あり 締まりあり |
| 4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/<br>粘性少 締まりなし         |
| 5 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/<br>粘性あり 締まりなし        |

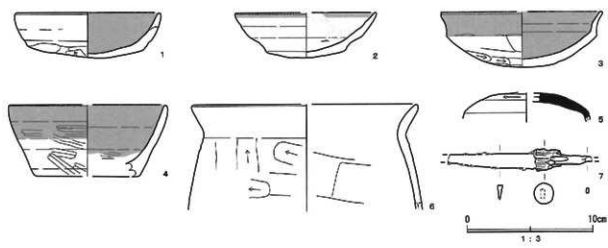
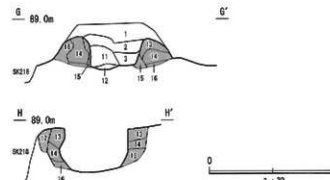
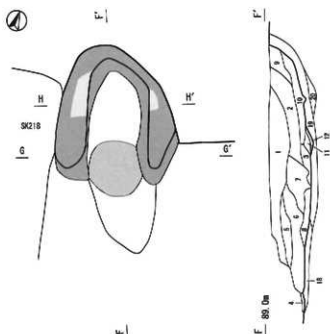


第20図 第14号竪穴建物跡炭化材・焼土範囲実測図

深さ100cm、P5:26×22cm、深さ20cmである。

遺物出土状況 土師器片125点〔坏41点(532g)、塊1点(48g)、甕83点(1,939g)〕、須恵器片3点〔蓋1点(19g)、甕2点(36g)〕、鉄製品1点〔刀子1点(11g)〕、石14点(3,400g)。1の土師器坏は北東コーナ、2の土師器坏はカマド前、7の刀子は南壁の床面から出土している。3の土師器坏は南西部の床面から覆土中層にかけて出土している。5の土師器甕は覆土中、4の土師器塊は北東部の覆土中層、6の土師器甕は北東部の覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀後葉と考えられる。床面から炭化材や焼土が確認されたことから、燃失家屋と推測される。出土している土器類は建物廃絶時に投棄されたものと考えられる。



SI14 カマド土器解説

- 1 5YR2/2 黒褐色 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子中量 灰白色粒子少量/粘性あり 跡まりなし
- 2 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化物微量・粒子中量/粘性あり 跡まりなし
- 3 2.5YR2/3 極暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子多量/粘性あり 跡まりなし
- 4 2.5YR3/4 暗赤褐色 焼土粒子多量 炭化粒子中量/粘性あり 跡まりなし
- 5 5YR4/2 灰褐色 焼土粒子微量 炭化粒子少量 灰白色粘土粒子中量/粘性あり 跡まりあり
- 6 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子少量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 跡まりなし
- 7 5YR3/1 黒褐色 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子中量/粘性あり 跡まりなし
- 8 5YR2/2 黒褐色 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子多量/粘性あり 跡まりなし
- 9 2.5YR2/3 極暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 跡まりなし
- 10 2.5YR5/6 明赤褐色 焼土ブロック・粒子多量/粘性あり 跡まりなし
- 11 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子多量 炭化粒子中量/粘性あり 跡まりなし
- 12 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック少量 焼土粒子多量 炭化粒子中量/粘性なし 跡まりなし
- 13 5YR3/1 暗褐色 焼土粒子微量 炭化粒子少量 灰白色粘土粒子多量/粘性あり 跡まりなし
- 14 5YR4/1 暗褐色 焼土粒子微量 炭化粒子中量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 跡まりなし
- 15 5YR4/1 暗褐色 焼土粒子微量 炭化粒子中量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 跡まりなし
- 16 5YR3/1 黒褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 跡まりあり
- 17 5YR2/3 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 灰白色粘土粒子少量/粘性あり 跡まりなし
- 18 5YR2/2 黒褐色 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子多量/粘性あり 跡まりなし
- 19 2.5YR4/1 赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量 灰少量 灰白色粘土粒子中量/粘性あり 跡まりあり
- 20 2.5YR3/1 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 灰中量 灰白色粘土粒子中量/粘性あり 跡まりなし

第21図 第14号竪穴建物跡カマド・出土遺物実測図

第7表 第14号竪穴建物跡出土土物観察表

番号	種類	器種	口径	高さ	底径	胎土	色澤	焼成	手法の時代		出土位置	備考
									口縁部	内面		
1	土師器	杯	11.3	3.4	—	細砂	にぶい 黄褐色	良好	口縁部粘土質 ヘラナデ	底部不定方向のヘラ削り 内面 内面黒色処理	東塚コーナ 裏面	95% 図版 14
2	土師器	杯	11.0	3.5	—	細砂	にぶい 褐色	良好	口縁部粘土質 ヘラナデ	底部一方斜のヘラ削り 内面 内面黒色処理	カマ下前 裏面	70% 図版 14 保存否
3	土師器	杯	12.8	(4.3)	—	辰石・スコリア	にぶい 褐色	普通	口縁部粘土質 ヘラナデ	外面黒色のヘラ削り 内面 内面黒色処理	南西塚裏面・ 裏土中層	25% 図版 14
4	土師器	碗	12.4	5.6	18.2	細砂	浅黄褐色	普通	口縁部粘土質 ヘラナデ	外面黒色のヘラ削り 内面 内面黒色処理	北塚裏 裏土中層	10% 図版 14
5	新出器	皿	—	(2.3)	—	辰石・石英	黄褐色	普通	天井部ロクロナデ	直線部斜ヘラ削り 指み等 跡	覆土中 不明	15% 図版 14
6	土師器	皿	17.6	(8.2)	—	辰石・石英・雲 母	にぶい 褐色	普通	口縁部粘土質 ヘラナデ	外面黒色と腹縁のヘラ削り 内面 内面黒色のヘラナデ	北塚裏 裏土下層	10% 図版 14
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	仕法の時代		出土位置	備考		
7	刀子	(11.4)	0.42 ~1.2	0.35	(12.0)	鉄	基部長さ 4.5cm	木質遺存	刃部長さ 6.9cm	先端欠損	南塚後面	図版 14

第8表 古墳時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主要方向	平面形	幅長 (m) 〔長軸×短軸〕	壁高 [cm]	基壇	基壇形	内部構造			出土遺物	時代	備考 新旧関係 (旧→新)	
								出入口 位置	ピット	溝				
13A	J11	N-10°-E	方形	5.95 × 4.90	50	平坦	全周	4	1	—	北塚	1 土師器 須臾器	7C 後葉	SK13B→本跡
13B	J11	N-10°-E	長方形	5.40 × 3.40	50	平坦	—	4	2	1	北塚	—	7C 後葉以前	本跡→SK13A
14	I10~I11	N-30°-W	方形	5.48 × 5.22	20	平坦	全周	4	1	—	北西 塚	— 土師器 須臾器	7C 後葉	本跡→SK218・ 241

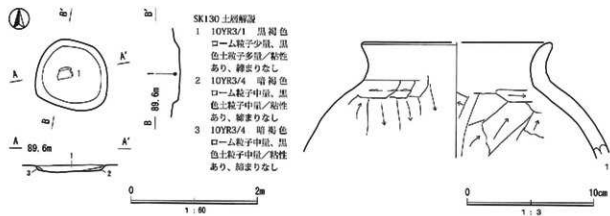
(2) 土坑

第130号土坑 (SK130) (第22図、第9表、図版4・14)

位置 調査区中央部。E 5グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 1.26m、短径 1.16m の円形で、長径方向は N-45°-W である。深さ 10cm で底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。第1層は若干のロームブロックが含まれることから人為堆積と考えられる。



第22図 第130号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片3点〔壺2点(268g)、甕1点(5g)]。1の土師器蓋は、中央部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から7世紀前後と考えられる。

第9表 第130号土坑出土遺物観察表

番号	類別	素材	口径	高さ	底径	蓋土	色調	産地	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	黄	[14.8]	(9.0)	—	粘土・石灰・赤石・チャート・スクリア	黄緑	普通	口縁部斜ナデ 胴部外側縦位のへら削り	内面 中央部 覆土中層	10% 図版14

### (3) 溝跡

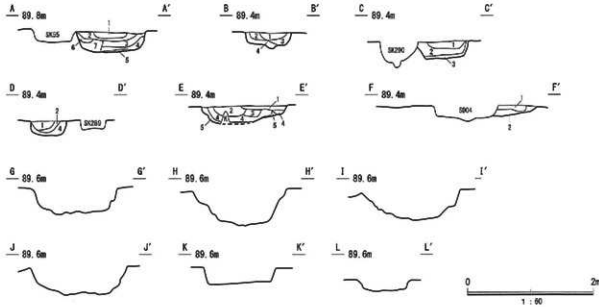
第3号溝跡(SD03)(全体図・第23図、第10表、図版4・14)

位置 調査区中央部A12～H9グリッド、標高89mほどの平坦な台地上に位置している。

重複関係 北部が調査区外に延びており、第55・290・338号土坑を掘り込み、第4号溝跡に掘り込まれている。

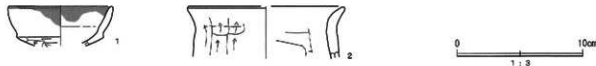
規模と形状 全長80.22mしか確認できなかった。上幅60～80cm、下幅20～40cm、深さは30～40cmである。

G10グリッドから北北東方向(N-15°-E)になだらかに湾曲しながら延びている。断面形は逆台形状である。



#### SD3土師器葉

- |   |   |
|---|---|
| 1 10YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量、黒色土粒子多量/粘性あり、粘まりあり        | 3 10YR4/4 褐色 ロームブロック・粒子多量、黒色土粒子少/粘性あり、粘まりあり     |
| 2 10YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量、黒色土粒子中量/粘性あり、粘まりあり | 4 10YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量、黒色土粒子中量/粘性あり、粘まりあり |



第23図 第3号溝跡・出土遺物実測図

覆土 4層に分層できる。含有物から人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師土器片 13点 [環4点 (27g)、甕9点 (139g)] 出土している。1の土師器環は南東部の覆土下層、2の土師器甕は南東部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から、古墳時代後葉と考えられる。北側延長線上に南原古墳が存在していることから、古墳との関連も推定される。

第10表 第3号溝跡出土遺物観察表

番号	種類	形制	口縁	器高	底径	胎土	色表	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	環	[R.0]	[3.1]	—	長石・石英・ス コリア	にふい地	普通	口縁部位ナデ 体部外周縁位のヘラ削り	南東部 甕土下層	10% 断面 14 内外縦線付着
2	土師器	甕	[12.2]	[4.6]	—	長石・石英・角 長石	にふい地	普通	口縁部位ナデ 体部外周縁位のヘラ削り 内面 底位のヘラナデ	南東部 甕土中層	5% 断面 14

### 3 奈良・平安時代の遺構と遺物

奈良・平安時代の遺構は、竪穴建物跡 15棟、掘立柱建物跡 3棟、井戸跡 2基、土坑 1基を確認した。以下、確認した遺構と遺物について記載する。

#### (1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡 (S101) (第24～27図、第11・24表、図版4・14・15)

位置 調査区西部 C 1～H 1グリッドに位置し、標高 89 mの台地の平坦部に位置する。

確認状況 ローム層上面で確認し、第3号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 3.76 m、短軸 3.70 mで、平面形は方形である。主軸方位は N-10°-E である。壁は確認面から最大高 40 cmで、ほぼ直立している。壁溝は、確認できなかった。

床 カマドから中央部にかけて踏み固められている。

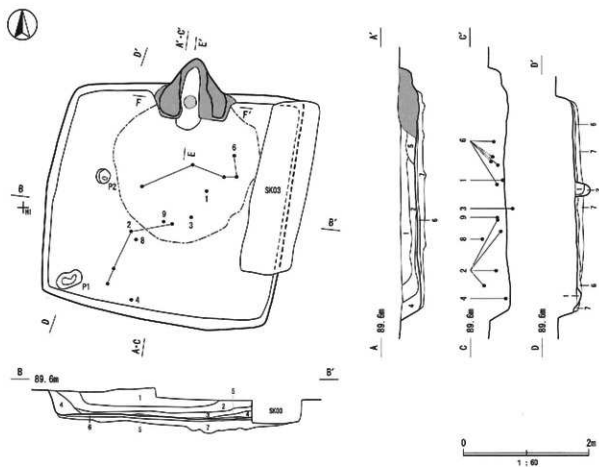
カマド 北壁中央にあり、隠湿じりの暗褐色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは 115 cm である。袖部の基部の最大幅は約 110 cmで、西袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により変質硬化している。床面から 5 cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは縦やかに立ち上がっている。

土層 5層に分層できる。ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。6・7層は貼床の構築土である。

ビット 床面から、ビット 2か所を検出した。P 1:40×28cm、深さ 10cm、P 2:22×22cm、深さ 20cm である。  
遺物出土状況 土師器片 110点 [環 37点 (381g)、手捏土器 1点 (52g)、甕 72点 (766g)]、須恵器片 50点 [環 1点 (52g)、甕 49点 (2,672g)]、石 5点 (2,496g)。1の土師器環、3の須恵器横瓶は中央部の床面と床面下から出土している。2の須恵器環は南部の覆土下層から上層にかけて出土している。4の須恵器長頸

瓶は南壁の覆土下層から、6の須恵器甕はカマド前の覆土下層から中層にかけて、8の須恵器甕は中央部の覆土上層から、9の土師器手檜は中央部の覆土中層から、それぞれ出土している。5・7の須恵器甕は覆土中から出土している。

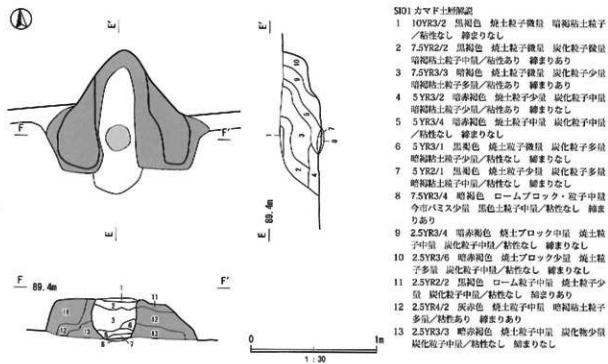
所見 時期は、出土土器から8世紀前葉と考えられる。3の横瓶が床面下から出土していることから、構築時期に入り込んだものと推測される。



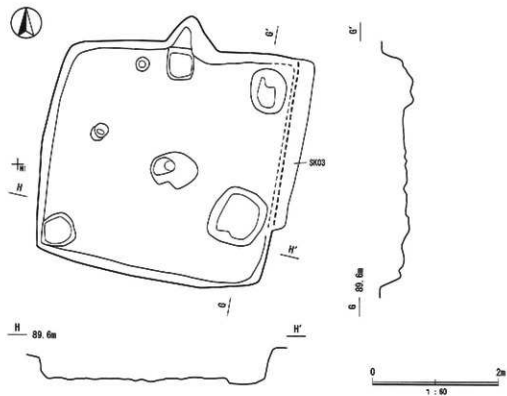
- SI01 土層解説
- 1 7.5YR2/1 黒色 ローム粒子少量 焼土粒子微量/粘性なし 締まりあり
  - 2 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒子少量/粘性なし 締まりややあり
  - 3 7.5YR2/1 黒色 ローム粒子微量/粘性あり 締まりあり
  - 4 7.5YR2/1 黒色 ローム粒子極微量/粘性あり 締まりあり
  - 5 7.5YR2/1 黒色 ロームブロック微量・粒子少量/粘性あり 締まりあり
  - 6 5YR3/1 黒褐色 ローム粒子微量 焼土粒子微量 粘土粒子多量/粘性あり 締まりあり
  - 7 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり (縦方)

- SI01 ビット土層解説
- P1 1 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし
  - P2 1 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子中量 焼土粒子微量/粘性なし 締まりなし
  - 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり

第24図 第1号竪穴建物跡実測図

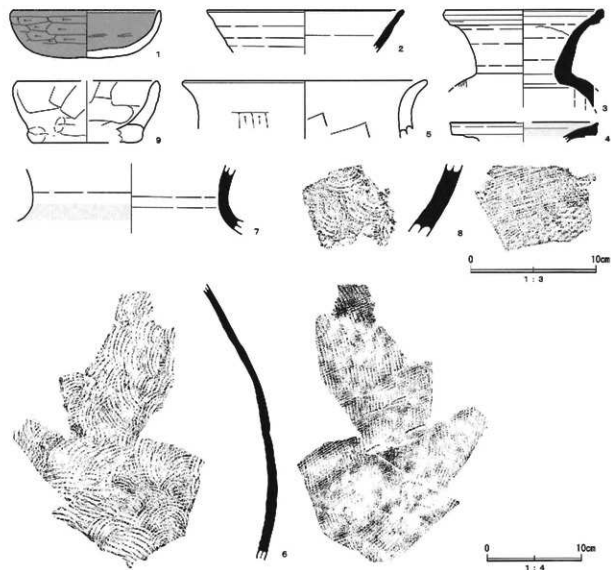


第 25 図 第 1 号竪穴建物跡カマド実測図



第 26 図 第 1 号竪穴建物跡掘方実測図





第27図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

第11表 第1号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色面	特殊	手抄の特徴	出土位置	備考
1	土師器	杯	[11.6]	3.8	—	灰石・石英	明灰胎	不法	口縁部から体部ナデ 体部内面ヘラミガキ 外周縁位のヘラ削り	中央部灰燼	70% 灰燼 14
2	須恵器	杯	[13.6]	(3.3)	—	灰石	灰白	普通	口縁部から体部クロコナデ	南部埋土	10% 灰燼 14 下層～上層 三谷山麓窯
3	須恵器	横瓶	[12.5]	(7.7)	—	灰石・灰分	灰 オリーブ	良好	口縁部クロコナデ	中央部 床下層	5% 灰燼 14 埴子窯
4	須恵器	浅鉢皿	[11.6]	(1.2)	—	灰石・石英	混焼	普通	口縁部クロコナデ 内面自然焼	南壁 覆土下層	5% 灰燼 14 埴子窯
5	土師器	甕	[19.0]	(4.0)	—	灰石・石英・雲母・チャート	粗	普通	口縁部から体部ナデ 内外縁灰ナデ 体部内面縁位のヘラ削り	覆土中	5% 灰燼 15
6	須恵器	甕	—	(31.8)	—	灰石・石英	粗灰	良好	体部口 外周縁から、格子目の平行甲き後縁位のカキ目 内面自然焼 内面同心の当目線	カマ下前覆土 埴子窯 下層～中層	5% 灰燼 14
7	須恵器	甕	—	(5.4)	—	灰石・石英	粗灰	良好	口縁部クロコナデ 頸部下端縁位の平行甲き	覆土中	5% 灰燼 15 埴子窯
8	須恵器	甕	—	(5.6)	—	灰石・石英	灰黄	不良	外周縁位の平行甲き後縁位のカキ目 内面同心 母の当目線	中央部 覆土上層	5% 灰燼 15 埴子窯
9	土師器	手形	[11.0]	4.8	底径	内灰石・石英・スクリヤ	に灰・粗	不良	口縁部ナデ 体部から底部縁位のヘラ削り 輪跡みね 帯状痕あり	中央部 覆土中層	20% 灰燼 15

第2号竪穴建物跡 (SI02) (第28～32図、第12・24表、図版4・5・15・16)

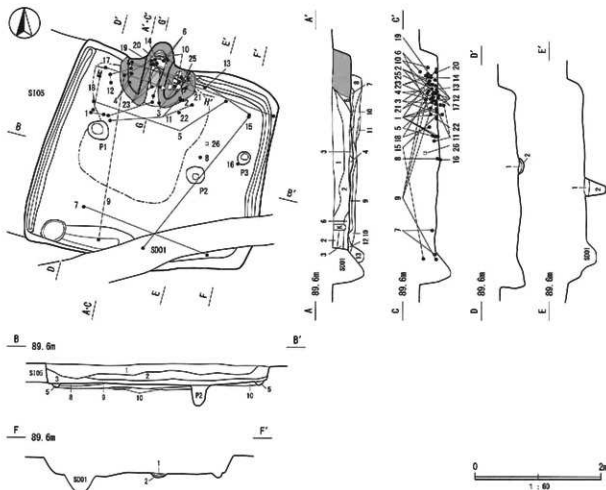
位置 調査区西部G2～H2グリッドに位置し、標高89mの台地の平坦部に立地する。

確認状況 ローム層上面で確認し、第5号竪穴建物跡を掘り込んで、第1号溝跡に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.60m、短軸3.20mで、平面形は長方形である。主軸方位はN-20°-Eである。壁は確認面から最大高28cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、上幅10～20cm、下幅5～10cm、深さ10cmで全周している。断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦で、カマド周辺は硬化している。

カマド 北壁中央左寄りにあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは100cmである。



SI02土層解説

- |  |   |  |
|--|---|--|
| 1 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子微量 焼土粒子少量 炭化粒子多量/粘性なし 跡残りなし        | 9 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック・粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 跡残りあり    |  |
| 2 7.5YR2/3 暗褐色 ロームブロック微量・粒子少量 焼土粒子中量 炭化粒子少量/粘性なし 跡残りなし | 10 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 焼土粒子微量 炭化粒子少量/粘性あり 跡残りあり |  |
| 3 5YR3/3 暗赤褐色 ロームブロック・粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 跡残りなし    | 11 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック・粒子中量/粘性あり 跡残りあり                  |  |
| 4 5YR3/4 暗赤褐色 ロームブロック少量・粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子少量/粘性あり 跡残りあり  | 12 7.5YR4/6 赤色 ロームブロック中量 ローム粒子多量/粘性あり 跡残りあり             |  |
| 5 5YR3/2 暗赤褐色 ロームブロック微量・粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量/粘性なし 跡残りなし  | 13 5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 跡残りなし                 |  |
| 6 5YR3/6 暗赤褐色 ローム粒子少量 焼土粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 跡残りなし         | SI-02ピット土層解説 (P1～P3)                                    |  |
| 7 5YR3/7 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子中量 (層方)             | 1 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 跡残りなし                |  |
| 8 5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子多量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 跡残りあり       | 2 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 跡残りあり                |  |

第28図 第2号竪穴建物跡実測図

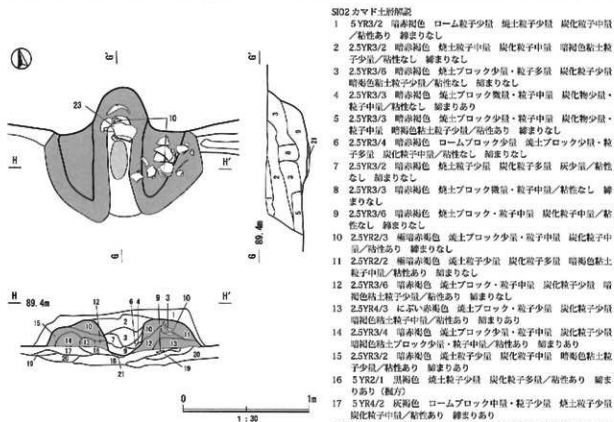
袖部の基部の最大幅は約 120cm で、両袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 7 cm ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がっている。

土層 5 層に分層できる。ロームブロックと焼土・炭化粒子が含まれており、人為的な埋没状況である。7～12 層は貼床の構築土である。

ピット 床面から、ピット 3 か所を検出した。P 1 : 35 × 30cm、深さ 10cm、P 2 : 30 × 24cm、深さ 34cm、P 3 : 22 × 20cm、深さ 8 cm である。

遺物出土状況 土師器片 200 点 [ 坏 70 点 (1,503g)、甕 1 点 (125g)、甕 129 点 (2,722g) ]、須恵器片 38 点 [ 坏 9 点 (74g)、高台付坏 6 点 (892g)、蓋 3 点 (179g)、長頸瓶 1 点 (63g)、甕 4 点 (50g) ]、粘土塊 3 点 (44g)、石 6 点 (2,000g)。1・3 の土師器坏、11 の須恵器高台付坏、17・22 の土師器甕はカマド前の床面、7 の土師器坏は南部、8 の須恵器高台付坏は中央部の床面から出土している。2・6 の土師器坏、9・10・12・14 の須恵器高台付坏、19・20・23 の土師器甕はカマド内から出土している。4 の土師器坏はカマド左袖内、13 の須恵器高台付坏、21 の土師器甕と 25 の須恵器甕はカマド右袖内からそれぞれ出土している。15 の須恵器蓋は北東コーナー部の床面、16 の須恵器長頸瓶は東部の床面、5 の土師器坏はカマド前の覆土中層、18 の土師器甕は北西部の覆土中層、26 の石製紡錘車は北東部上層、24 の土師器甕は覆土中から出土している。

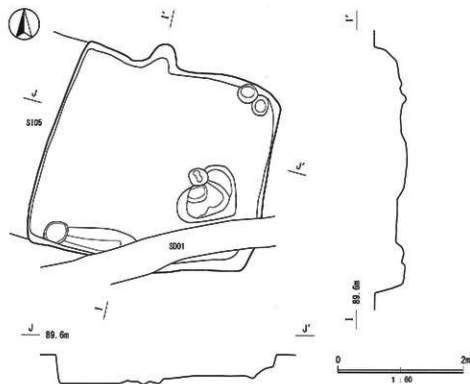
所見 時期は、出土土器から 8 世紀前葉と考えられる。第 5 号竈穴建物跡と同規模で、床面の高さも同じであ



第 29 図 第 2 号竈穴建物跡カマド実測図

- S102 カマド土層解説
- 1 5YR3/2 暗赤褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子中量 / 粘性あり 締まりなし
  - 2 2.5YR3/2 暗褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量 / 粘性なし 締まりなし
  - 3 2.5YR3/6 暗褐色 焼土ブロック少量・粒子少量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子少量 / 粘性なし 締まりなし
  - 4 2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土ブロック微量・粒子中量 炭化粒子少量・粒子中量 / 粘性なし 締まりあり
  - 5 2.5YR3/3 暗褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子少量・粒子中量 暗褐色粘土粒子少量 / 粘性あり 締まりなし
  - 6 2.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量 焼土ブロック少量・粒子少量 炭化粒子中量 / 粘性なし 締まりなし
  - 7 2.5YR3/2 暗褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 炭少量 / 粘性なし 締まりなし
  - 8 2.5YR3/3 暗褐色 焼土ブロック微量・粒子中量 / 粘性なし 締まりなし
  - 9 2.5YR3/6 暗褐色 焼土ブロック・粒子中量 炭化粒子中量 / 粘性なし 締まりなし
  - 10 2.5YR2/3 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量 / 粘性あり 締まりなし
  - 11 2.5YR2/2 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 暗褐色粘土粒子中量 / 粘性あり 締まりなし
  - 12 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック・粒子中量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子少量 / 粘性あり 締まりなし
  - 13 2.5YR4/3 暗褐色 焼土ブロック少量 焼土粒子少量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子少量 / 粘性あり 締まりあり
  - 14 2.5YR3/4 暗褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子少量 / 粘性あり 締まりあり
  - 15 2.5YR3/2 暗褐色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量 / 粘性あり 締まりあり
  - 16 5YR2/1 黒褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 / 粘性あり 締まりあり (覆土)
  - 17 5YR4/2 暗褐色 ロームブロック中量・粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子中量 / 粘性あり 締まりあり
  - 18 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量 / 粘性あり 締まりあり
  - 19 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック中量・粒子少量 炭化粒子中量 / 粘性あり 締まりあり
  - 20 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量 / 粘性あり 締まりあり
  - 21 2.5YR3/6 暗赤褐色 焼土ブロック中量・粒子少量 炭化粒子少量 / 粘性なし 締まりあり

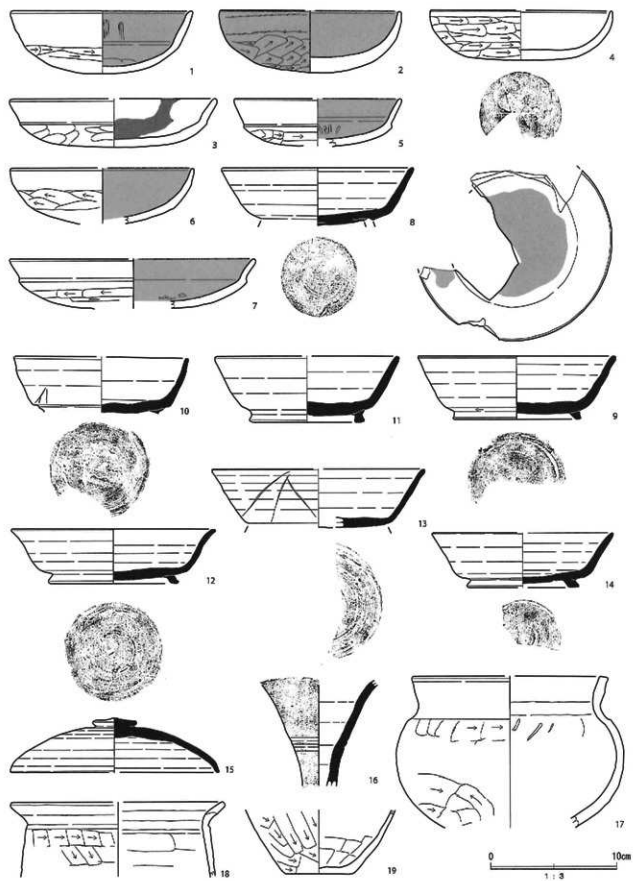
ることから、本跡は第5号竪穴建物跡を建て替えて構築された可能性が高い。



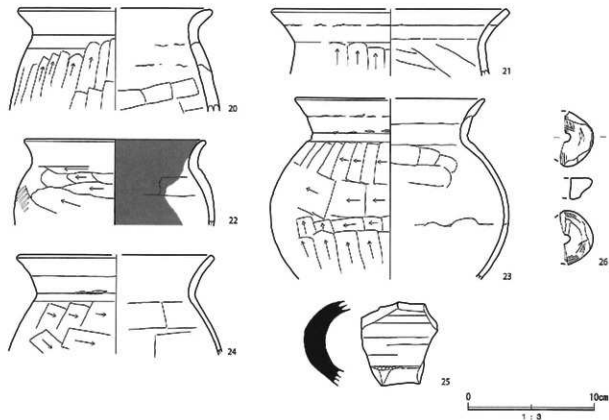
第30図 第2号竪穴建物跡掘方実測図

第12表 第2号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種類	口径	高さ	底径	形状	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土状況	備考
1	土師器	杯	14.2	4.9	—	長石・石英	にぶい 黄緑	不良	口縁部から体部順ナデ 体部内部へラミガキ 外周縁位のへら削り 内周黒色逸理	カマド前 底面	80% 図版 15
2	土師器	杯	[14.2]	4.9	—	石英・赤色胎子・ 黒砂・スゴリア・ 赤色胎子	にぶい煙	普通	口縁部順ナデ 体部内面順ナデ 体部外周縁位 のへら削り 内外周黒色逸理	カマド内	60% 図版 15
3	土師器	杯	16.1	3.7	—	黒砂・スゴリア・ 赤色胎子	にぶい煙	良好	口縁部順ナデ 体部内面順ナデ 体部外周縁位 のへら削り	カマド前 底面	50% 図版 15 内周縁部付着
4	土師器	杯	[14.4]	3.5	—	長石・チキート・ 赤色胎子	粗	良好	口縁部順ナデ 体部内面順ナデ 体部外周縁位 のへら削り	カマド 左壁内	45% 図版 15 底部「一」の へら削り
5	土師器	杯	[13.2]	(3.6)	—	石英・黒砂	黄緑色	不良	口縁部から体部順ナデ 体部内面順ナデのへら ミガキ 外周縁位のへら削り 内周黒色逸理	カマド前 覆土中底	40% 図版 15
6	土師器	杯	[14.4]	(4.3)	—	長石・黒砂	粗	良好	口縁部から体部順ナデ 体部内部へラミガキ 外 周縁位のへら削り 内周黒色逸理	カマド内	30% 図版 15
7	土師器	杯	[19.3]	3.9	—	長石・石英	にぶい粒	不良	口縁部から体部順ナデ 口縁部内面順ナデ 体部内 面へラミガキ 外周縁位のへら削り 内周黒色 逸理	南壁床面	30% 図版 15
8	須恵器	高台付 杯	15.1	(4.6)	—	長石・石英・チ キート	灰	普通	口縁部から体部口クロナデ 底縁縁へら切り 後高台削り付着	中央部床面	80% 図版 15 底部「甲」へ ラミガキ 胎子窯
9	須恵器	高台付 杯	15.6	5.0	10.0	長石・石英	灰黄	良好	口クロナデ 体部下縁縁へら削り 底縁縁 へら切り後高台削り付着	カマド内・ 南壁床面	50% 図版 15 胎子窯 内周縁部付着
10	須恵器	高台付 杯	[12.6]	(4.3)	—	長石・石英・黒 砂	灰	普通	口縁部から体部口クロナデ 体部内面順ナデの へら削り 底縁縁へら削り後中央部一方向の へら削り	カマド内	50% 図版 15 体部内面「L」 へら削り
11	須恵器	高台付 杯	[14.4]	5.2	8.5	長石・黒分	純灰	普通	口縁部から体部口クロナデ 高台縁へら削り 底縁縁へら削り	カマド内縁内 壁子窯	50% 図版 15
12	須恵器	高台付 杯	[16.0]	(4.3)	[10.0]	長石・石英・黒 分	灰	良好	口縁部から体部口クロナデ 体部下縁縁へら削り 底縁縁へら削り	カマド内・北 壁子窯	40% 図版 15
13	須恵器	高台付 杯	[16.8]	(4.6)	—	長石・石英	黄灰	不良	口縁部から体部口クロナデ 底縁縁へら削り	カマド右袖 付着床面	30% 図版 15 へら削り 胎子窯



第31图 第2号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第32図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

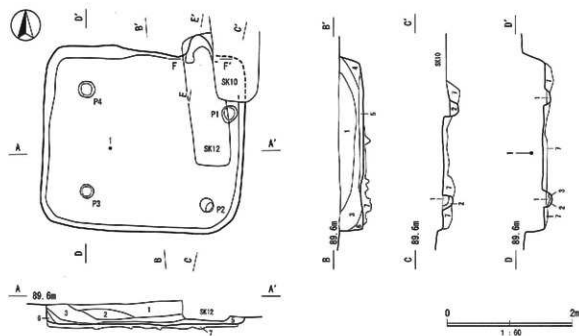
番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	胎皮	手法の特徴	出土位置	備考
14	須恵器	高台付 杯	[14.2]	4.5	[8.7]	長石・石英	灰	良好	口縁部から体部ロクロナデ 底部縦線ヘラ削り	カマド内	30% 図版 15 体部内面(一) ヘラ削り 磁子窯
15	須恵器	盥	[16.3]	4.3	—	長石・石英	灰	普通	つまみ部・天井部ロクロナデ 頂部縦線ヘラ削り	北東コーナー 前部床面	20% 図版 16
16	須恵器	長頸瓶	—	(8.3)	—	長石・石英・白 色粒子	灰	良好	別部ロクロナデ 外面7本の磨製瓦工具による 波状文	東部床面	5% 図版 16 磁子窯
17	土師器	甕	[15.5]	(11.9)	—	長石・石英・チ ャート	明赤褐色	不良	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面 横位のヘラ削り 下部斜位のヘラ削り	カマド前床面 カマド右室内	15% 図版 16
18	土師器	甕	[16.6]	(9.9)	—	長石・石英・金 色粒子	褐色	良好	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面横位 のヘラ削り	北西部 覆土中層	10% 図版 16
19	土師器	甕	—	(8.0)	5.4	長石・石英・器 母	にぶい 赤褐色	普通	体部外面斜位のヘラ削り 内面縦位のヘラナデ	カマド内	10% 図版 16
20	土師器	甕	[15.0]	(8.0)	—	長石・石英・チ ャート・スズコ リア・角閃石	にぶい 赤褐色	普通	口縁部から体部片 口縁部横位のナデ 体部内 面縦位のヘラ削り 外面縦位のヘラ削り	カマド内	10% 図版 16
21	土師器	甕	[18.0]	(5.2)	—	長石・石英・赤 色粒子	にぶい 赤褐色	良好	口縁部横ナデ 体部内面横ヘラナデ 体部外面 斜位のヘラ削り	カマド 右室内	10% 図版 16
22	土師器	甕	[14.0]	(6.7)	—	長石・石英	にぶい 赤褐色	普通	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面横位 のヘラ削り後ナデ	カマド 前床面	10% 図版 16 内面縦線削り
23	土師器	甕	[14.8]	(14.2)	—	長石・石英・ス ズコリア・角閃石	褐色	普通	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面上部 縦位のヘラ削り 下部斜位のヘラ削り	カマド内	5% 図版 16
24	土師器	甕	[15.1]	(7.8)	—	長石・石英	褐色	不良	口縁部横ナデ 体部内面横ナデ 体部外面斜位 のヘラ削り	覆土中	5% 図版 16
25	須恵器	甕	—	(6.6)	—	長石・石英・白 色粒子	灰	普通	頸部片 口クロナデ 頸部下端横位の平行手 削り	カマド 右室内	5% 図版 16 磁子窯
番号	種別	径	幅	高さ	材質	石法の特徴			出土位置	備考	
26	埴師土	4.3	3.7	1.7	粘土	孔径 0.6cm	各面研削		北東部 覆土上層	50% 図版 16	

第3号壑穴建物跡 (S103) (第33・34図、第13・24表、図版5・16)

位置 調査区西部F1グリッドに位置し、標高89mの台地の平坦部に立地する。

確認状況 ローム層上面で確認し、第10・12号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸3.14m、短軸2.86mで、平面形は方形である。主軸方位はN-5°-Eである。壁は確認

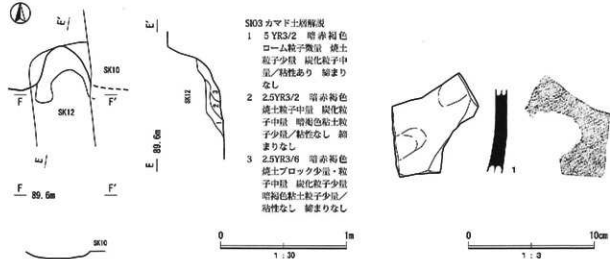


S103 土層解説

- |               |                |              |             |       |
|---------------|----------------|--------------|-------------|-------|
| 1 10YR3/3 暗褐色 | ローム粒子少量        | 焼土粒子微量       | 炭化粒子中量/粘性なし | 跡まりなし |
| 2 10YR4/3 褐色  | ロームブロック少量・粒子多量 | 黒色土粒子少量/粘性なし | 跡まりなし       |       |
| 3 10YR3/2 黒褐色 | ローム粒子少量        | 焼土粒子少量       | 炭化粒子中量/粘性あり | 跡まりなし |
| 4 10YR3/4 暗褐色 | ロームブロック中量・粒子少量 | 炭化粒子少量/粘性あり  | 跡まりなし       |       |
| 5 10YR2/3 黒褐色 | ローム粒子微量        | 焼土ブロック・粒子少量  | 炭化粒子中量/粘性あり | 跡まりなし |
| 6 10YR3/3 暗褐色 | ローム粒子少量        | 炭化粒子中量/粘性なし  | 跡まりなし       |       |
| 7 10YR3/2 黒褐色 | ローム粒子少量        | 焼土粒子微量       | 炭化粒子中量/粘性あり | 跡まりあり |

S103 ビット土層解説

- |                |                     |             |       |
|----------------|---------------------|-------------|-------|
| 1 7.5YR3/1 黒褐色 | ローム粒子微量             | 炭化粒子多量/粘性なし | 跡まりなし |
| 2 7.5YR3/3 暗褐色 | ロームブロック微量・粒子中量/粘性なし | 跡まりあり       |       |
| 3 7.5YR4/3 褐色  | ロームブロック・粒子中量        | 炭化粒子少量/粘性あり | 跡まりあり |



S103 カマド土層解説

- |                 |               |        |             |       |
|-----------------|---------------|--------|-------------|-------|
| 1 5YR3/2 暗赤褐色   | ローム粒子微量       | 焼土粒子少量 | 炭化粒子中量/粘性あり | 跡まりなし |
| 2 2.5YR3/2 暗赤褐色 | 焼土粒子中量        | 炭化粒子少量 | 暗褐色粘土粒子中量   | 粘性なし  |
| 3 2.5YR3/5 暗赤褐色 | 焼土ブロック少量・粒子中量 | 炭化粒子少量 | 暗褐色粘土粒子少量   | 粘性なし  |

第33図 第3号壑穴建物跡・出土遺物実測図

面から最大高 40cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部を中心に全体が硬化している。

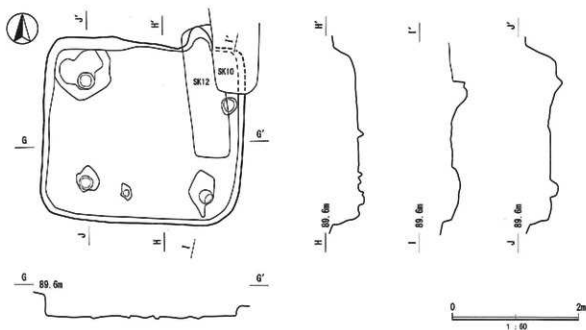
カマド 第 10・12 号土坑に掘り込まれ、北壁中央右寄りにあり、暗褐色粘土で構築されているのを確認する。

土層 6層に分層できる。ロームブロックと焼土ブロックが含まれており、人為的な埋設状況である。7層は貼床の構築土である。

ビット 床面から、ビット4か所が検出された。P 1:20×20cm、深さ22cm、P 2:20×20cm、深さ15cm、P 3:25×25cm、深さ15cm、P 4:25×25cm、深さ10cmである。

遺物出土状況 土師器片25点[環5点(21g)、甕20点(107g)]、須恵器片160点[環1点(7g)、甕1点(48g)]、石1点(402g)。1の須恵器甕は中央部の覆土中層から出土している。

所見 図化できる出土遺物が少なく時期決定は難しいが、9世紀前半と推測される。



第 34 図 第 3 号竪穴建物跡掘方実測図

第 13 表 第 3 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	甕	—	(8.1)	—	石灰・蛭石	暗灰黄	普通	体部外周平行叩き 内周縁文の当て具成	中央部 覆土中層	5% 図版 16 新発見

第 4 号竪穴建物跡 (S104) (第 35・36 図、第 14・24 表、図版 5・16・17)

位置 調査区西部 E 1 グリッドに位置し、標高 89m の台地の平坦部に立地する。

確認状況 ローム層上面で確認し、第 10・11・51 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 2.78m、短軸 2.40mで、平面形は方形である。主軸方位は N-15°-W である。壁は確認面から最大高 18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、カマド前から中央部が硬化している。

カマド 北壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。右袖部は損乱を受け現存していないが、左袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 5cm ほど掘りくぼめて火床面

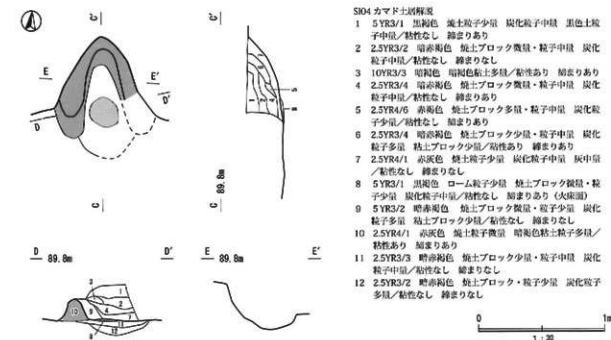
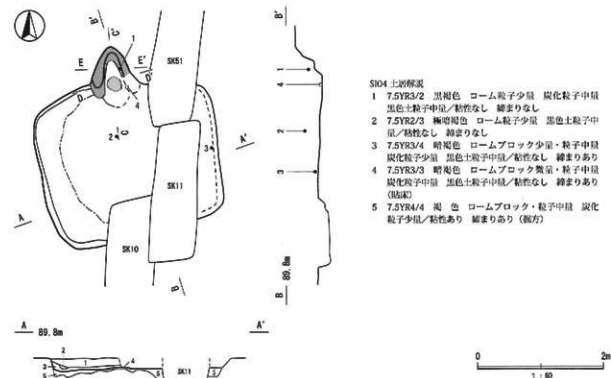


が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がっている。

土層 3層に分層できる。ロームブロックと焼土・炭化粒子が含まれており、人為的な埋没状況である。4層は貼床の構築土で、5層は掘方への埋土である。

ピット 確認できなかった。

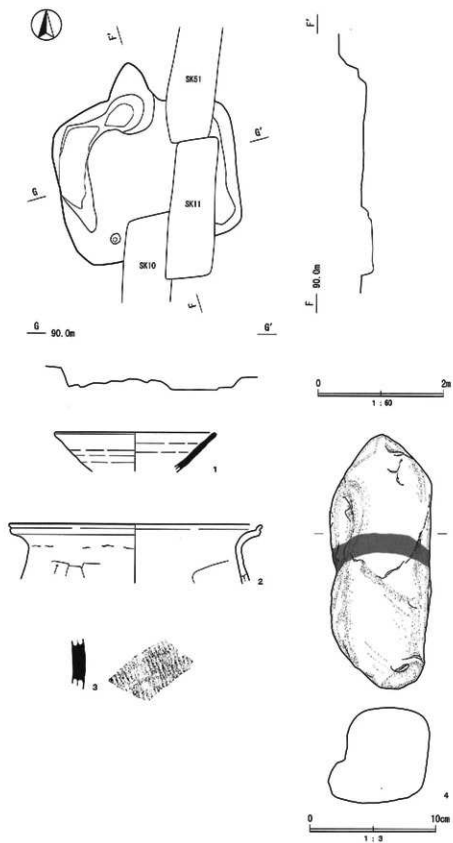
遺物出土状況 土師器片 25点 [環9点 (29g)、甕16点 (282g)]、須恵器片 238点 [環3点 (30g)、高台付環1点 (28g)、甕2点 (120g)]、石1点 (1,946g)。1の須恵器環と4の支脚転用礎はカマド内、2の土



第35図 第4号竪穴建物跡実測図

師器表はカマド前覆土中層、3の須恵器表は東壁部の掘方内から出土している。

所見 今回の調査で一番小形の建物である。時期は、出土遺物から9世紀中葉と考えられる。



第36図 第4号壁穴建物跡掘方・出土遺物実測図

第14表 第4号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	形別	型種	口径	高さ	底径	胎土	色調	産地	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	坏	[12.6]	(3.2)	—	長石・石英・緑 礫	緑灰	普通	口縁部から体部ロクロナデ	カマド内	10% 図版16 様子写
2	土師器	甕	[19.6]	(4.6)	—	長石・石英・雲 母・クマート	黄	普通	口縁部輪ナデ 体部内面輪ナデ 体部外面輪位 のへろ削り	カマド内 覆土中層	5% 図版16
3	須恵器	甕	—	(4.0)	—	長石・石英	灰	普通	体部外面平行引き	東壁面内方	5% 図版17 様子写

番号	形別	長さ	幅	厚さ	重量	材質	仕法の特徴	出土位置	備考
4	支脚 転用	20.0	8.0	7.5	1946.0	凝結岩	火焼面	カマド内	中央部に浮法 に定着 図版17

第5号竪穴建物跡 (SI05) (第37図、第15・24表、図版5・17)

位置 調査区西部C 2～H 2グリッドに位置し、標高89 mの台地の平坦部に立地する。

確認状況 ローム層上面で確認し、第2号竪穴建物跡に掘り込まれている。

規模と形状 南北軸3.30 m、東西軸2.00 mだけ確認でき、平面形は方形と推測される。主軸方位はN-20°-Wである。壁は確認面から最大高28 cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、上幅20～35 cm、下幅5～8 cm、深さ10 cmで確認内で全開する。断面形はU字形である。

床 ほぼ平坦で、中央部を中心に全体が硬化している。

カマド 東壁中央にあったと考えられ、第2号竪穴建物跡の床下から長径65 cm、短径40 cm楕円形の範囲を確認した。

土層 9層に分層できる。ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。10～13層は貼床の構築土である。

ビット 床面から、ビット3か所が検出された。P 1:25×30 cm、深さ15 cm、P 2:30×30 cm、深さ12 cm、P 3:25×20 cm、深さ15 cmである。

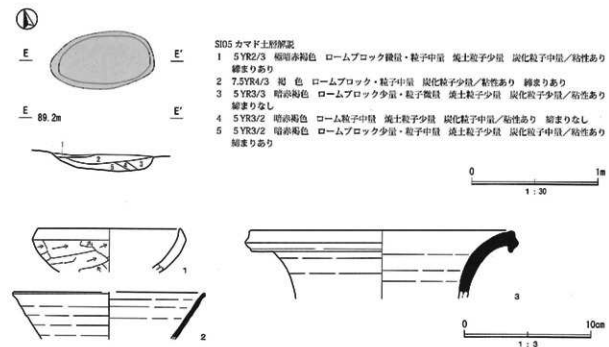
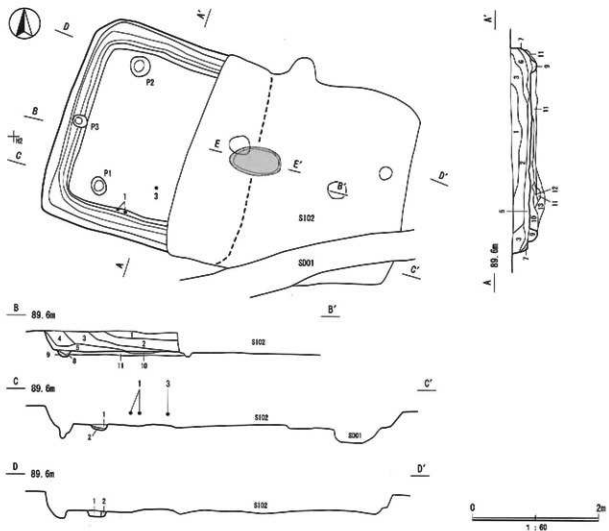
遺物出土状況 土師器片35点 [坏12点 (94g)、甕23点 (372g)]、須恵器片160点 [坏8点 (63g)、甕1点 (57g)]、粘土塊1点 (5g)、石1点 (353g)。1の土師器坏は南壁、3の須恵器甕は南部の覆土中層から出土している。2の須恵器坏は覆土中から出土しているが、流れ込みと考えられる。

SI05 土師器類

1	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子少量	焼土粒子少量	炭化粒子多量/粘	11	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子少量/粘性あり	締まり 性なし 加まりなし
2	7.5YR3/3	暗褐色	ローム粒子中量	焼土粒子中量	炭化粒子中量/粘	12	7.5YR4/3	褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子少量/粘性あり	加まりあり
3	5YR3/3	暗褐色	ローム粒子少量	焼土粒子中量	炭化粒子中量/粘	13	7.5YR4/4	褐色	ロームブロック中量・粒子多量	粘性あり	加まりあり
4	7.5YR3/3	暗褐色	ローム粒子少量	焼土粒子微量	炭化粒子中量/粘						

SI05 ビット土師器類

5	7.5YR3/4	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子少量/粘	P1	1	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子少量	焼土粒子微量	炭化粒子多量/粘	加まりあり
6	7.5YR3/3	暗褐色	ローム粒子中量	焼土粒子少量	炭化粒子中量/粘	2	7.5YR3/2	暗褐色	ローム粒子少量	焼土粒子微量	炭化粒子多量/粘	加まりあり
7	7.5YR3/4	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘								
8	7.5YR3/3	暗褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	加まりあり	1	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子少量	焼土粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	加まりあり
9	7.5YR3/4	暗褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	加まりあり	2	7.5YR3/2	暗褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	加まりあり	
10	7.5YR4/4	褐色	ロームブロック・粒子中量	黒色土粒子少量/粘性あり	加まりあり (掘方)							



S105 カマド土彫彫説

- 1 5.YR2/3 暗赤褐色 ロームブロック・炭子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり
- 2 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・炭子中量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり
- 3 5.YR3/3 暗赤褐色 ロームブロック少量・炭子微量 焼土粒子少量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりなし
- 4 5.YR3/2 暗赤褐色 ローム・炭子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりなし
- 5 5.YR3/2 暗赤褐色 ロームブロック少量・炭子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり

第 37 図 第 5 号堅穴建物跡・出土遺物実測図

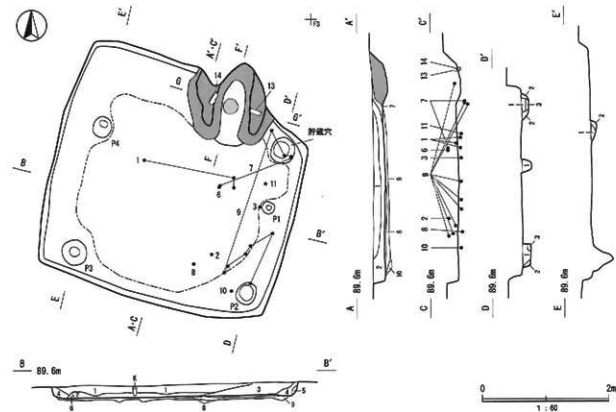
所見 時期は、重複関係と出土遺物から8世紀前半の第2号竪穴建物跡より前と考えられる。規模・床面の高さなどがほぼ同一なため、本跡を建替えて第2号竪穴建物跡が構築された可能性が高い。

第15表 第5号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	類別	容積	口径	器高	底径	蓋土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土器類	環	[11.2]	(2.4)	—	灰石・石英	に濃い黄緑	普通	口縁部絞ナデ 体部外面横位のヘラ削り	南席 覆土中層	10% 図版17
2	須臾器	環	[15.0]	(3.6)	—	細砂	灰質	普通	口縁部から体部口クロナデ	覆土中	5% 図版17 3面1枚写
3	須臾器	貫	[20.6]	(5.4)	—	灰石・石英	黄灰	普通	口縁部片 口クロナデ 自然継付首	南席 覆土中層	5% 図版17 様子写

第6号竪穴建物跡 (SI06) (第38～42図、第16・24表、図版5・17)

位置 調査区西部F2グリッドに位置し、標高89mの平坦部に立地する。



SI06 土器解説

- |  |   |
|--|---|
| 1 7.5YR2/1 黒色 焼土粒子微細 炭化粒子多量/粘性なし 跡ありなし               | 8 7.5YR3/2 黒褐色 焼土粒子微細 炭化粒子中量/粘性なし 跡ありあり               |
| 2 7.5YR2/3 暗褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化物少量・粒子中量/粘性なし 跡ありなし  | 9 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微細 炭化粒子中量/粘性なし 跡ありあり       |
| 3 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子少量 焼土ブロック・粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 跡ありなし | 10 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量 焼土粒子微細 炭化粒子少量/粘性あり 跡ありなし |
| 4 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 跡ありなし             |   |
- SI06 ビット土器解説
- |   |  |
|---|--|
| 1 7.5YR2/3 暗褐色 ローム粒子微細 焼土粒子微細 炭化粒子多量/粘性なし 跡ありなし | 2 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 跡ありあり |
| 3 7.5YR4/3 褐色 ローム粒子中量 炭化粒子中量 黒色土粒子少量/粘性なし 跡ありなし |  |

第38図 第6号竪穴建物跡実測図

確認状況 ローム層上面で確認した。

規模と形状 長軸3.64 m、短軸2.88 mで、平面形は方形である。主軸方位はN-15°-Eである。壁は確認面から最大高28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部を中心に硬化している。

カマド 北壁中央東寄りであり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは130cmである。袖部の基部の最大幅は約140cmで、袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。両袖部内に凝灰岩を補強材として使用されている。

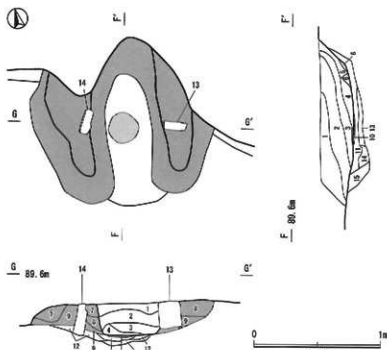
土層 7層に分層できる。ロームブロックと焼土ブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。8～10層は貼床の構築土である。

ピット 床面からピット4か所が検出され、主柱穴と考えられる。P1:20×20cm、深さ22cm、P2:35×34cm、深さ20cm、P3:40×40cm、深さ36cm、P4:36×34cm、深さ22cmである。

貯蔵穴 北東コーナー部で長径40cm、短径35cm、深さ24cmの円形の窪みを確認する。土師器裏片が検出される。

収納施設 カマド右袖脇の壁に比べ、カマド左袖脇が広く奥まっており、幅50cm、長さ180cm程のスペースが確認された。

遺物出土状況 土師器片243点〔環64点(601g)、高台付環1点(7g)、壘178点(1,654g)〕、須恵器片160点〔環12点(179g)、鉢1点(125g)、椀1点(262g)、壘14点(979g)〕、カマド補強材2点(7,264g)、石8点(2,604g)。1の土師器環は中央部の床面、3の土師器環はP1付近の床面、8の須恵器鉢と10の須



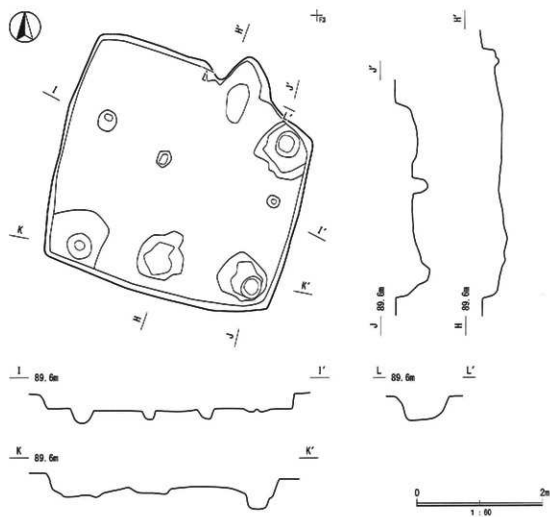
第39図 第6号竈穴建物跡カマド実測図

SI06 カマド土層解説

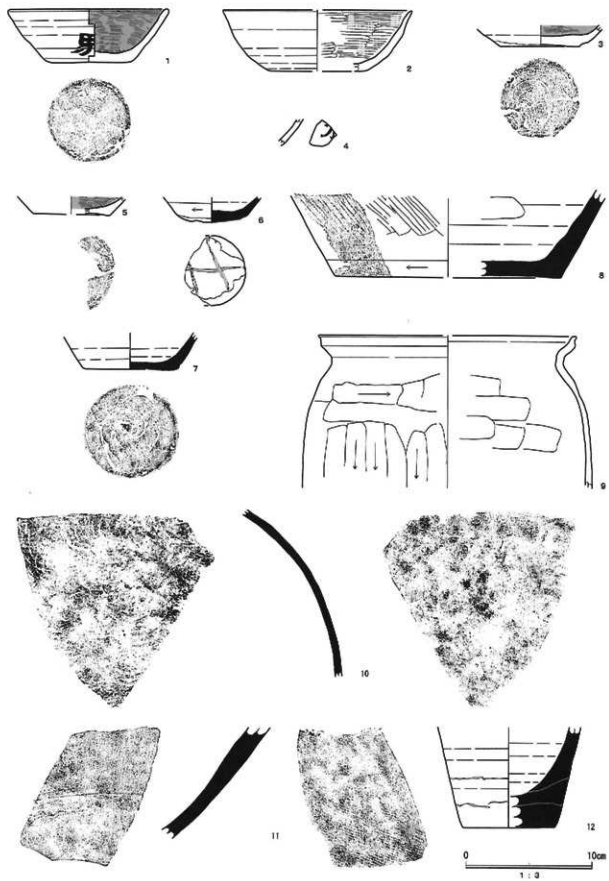
- 1 2.5YR2/3 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子中量/粘性あり 締まりあり
- 2 2.5YR3/4 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし
- 3 2.5YR2/4 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし
- 4 2.5YR2/6 暗赤褐色 焼土ブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性なし 締まりなし
- 5 2.5YR4/6 赤褐色 焼土ブロック少量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性なし 締まりなし
- 6 7.5YR4/3 褐色 コーロブロック・粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子少量/粘性なし 締まりあり
- 7 2.5YR2/3 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子多量 暗褐色粘土粒子少量/粘性なし 締まりなし
- 8 2.5YR3/1 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 暗褐色粘土粒子中量/粘性あり 締まりあり
- 9 2.5YR4/2 灰赤色 焼土粒子微量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 締まりあり
- 10 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子多量/粘性あり 締まりあり
- 11 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりあり
- 12 2.5YR3/3 暗赤褐色 焼土粒子中量 炭化粒子少量/粘性なし 締まりあり
- 13 2.5YR3/1 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子多量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 締まりあり
- 14 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子少量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりなし
- 15 2.5YR3/2 暗赤褐色 焼土ブロック少量・粒子中量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 締まりあり
- 16 2.5YR3/1 暗赤褐色 焼土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 締まりあり

恵器甕は南東部の床面、11の須恵器甕は北東部の床面から出土している。6の須恵器環は中央部覆土中層から出土している。13の補強材は右カマド袖内、14の補強材は左袖内から直立して出土している。13は南北に幅広い面を、14は東西に幅広い面を向けている違いがある。4・5の土師器環、12の須恵器控鉢は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から9世紀中葉から後葉と考えられる。ここでは、墨書土器が2点出土しており、1の土師器環に「男」、4の土師器環に「万」と認められる。同時期に集落を形成していた第12号堅穴建物跡からも墨書土器が出土していることから、関連性が高いと考えられる。

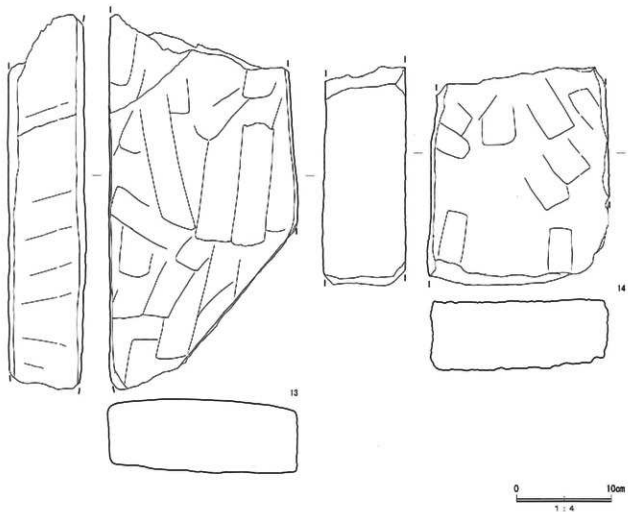


第40図 第6号堅穴建物跡掘方実測図



第 41 图 第 6 号聚穴建物跡出土遺物実測図 (1)





第42図 第6号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第16表 第6号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	112.5	4.2	6.3	石灰・白色粘土	粒	普通	ロクロナデ 底面回転削り 内面黒色地肌内部ヘラ磨き	中央部底面	45% 図版17 体部外面「男」 蓋型
2	土師器	坏	115.0	4.8	7.3	炭石・石英	炭粒粗粒	普通	ロクロナデ 体部下端傾斜のヘラ削り 底のヘラ磨き	南東部 甕土中粒	10% 図版17
3	土師器	坏	—	(1.7)	6.2	炭石・石英	に沢い葉 粒	普通	ロクロナデ 底面回転削り 内面黒色地肌内部ヘラ磨き	P1 付近底面	10% 図版17
4	土師器	坏	—	(2.0)	—	炭石	明赤陶	普通	体部ロクロナデ	甕土中	5% 図版17 体部外面「万」 蓋型
5	土師器	坏	—	(1.4)	(6.0)	炭石・石英	粒	普通	ロクロナデ 底面回転削り 内面黒色地肌内部ヘラ磨き	甕土中	5% 図版17
6	甕器	坏	—	(1.9)	(5.1)	炭石・重礫	灰	普通	ロクロナデ 底面回転削り不調整	中央部 甕土中粒	5% 図版17 底部「年」へ 字記号 蓋子型
7	甕器	坏	—	(2.9)	7.2	炭石・石英・ス コリア・炭礫石	粒	普通	ロクロナデ 底面回転削り	中央部甕土 中粒・炭礫六 蓋子型	5% 図版18
8	甕器	鉢	—	(6.9)	(18.0)	炭石・石英	灰	普通	体部から底部片 体部外面斜削の平行削き 内面黒色のヘラナデ	南東部底面	5% 図版18 蓋子型
9	土師器	実	20.3	(12.0)	—	炭石・石英・泥 母	に沢い粗 粒	普通	口縁部ナデ 体部外面上位傾斜のヘラ削り 下位底位のヘラ削り 内面傾斜のヘラナデ	東部底面 甕土中粒	10% 図版17

番号	類別	素材	口径	部高	底径	胎土	色調	胎成	手法の特徴	出土位置	備考
10	須恵器	灰	—	(13.0)	—	長石・石英・針状炭素	灰濁	作造	体部片 内面同心文の海貝痕	南東部床面	5% 焼灰 18 様子器
11	須恵器	灰	—	(8.8)	—	長石・石英	灰濁	作造	体部外面斜位の刷毛目 内面斜位のヘラ削り	北東部床面	5% 焼灰 18 様子器
12	須恵器	緑釉	—	(7.8)	(7.3)	長石・石英	暗灰濁	作造	体部から底面片 ロクロナデ 内面底面使用痕	履土中	10% 焼灰 18 様子器
番号	器種	長さ	幅	高さ	底径	材質	胎成の特徴		出土位置	備考	
13	カマド 補強材	(39.4)	20.0	7.7	(49.0)	凝灰岩	外面削り肌		カマド 右袖内	焼灰 18	
14	カマド 補強材	(23.0)	(19.3)	(7.5)	(28.4)	凝灰岩	外面削り肌		カマド 左袖内	焼灰 18	

### 第7号竪穴建物跡 (SI07) (第43～45図、第17・24表、図版5・6・18・19)

位置 調査区西部 F3グリッドに位置し、標高 89 m の平坦部に立地する。

確認状況 ローム層上面で確認する。

規模と形状 長軸 2.94 m、短軸 2.90 m で、平面形は方形である。主軸方位は N-10°-E である。壁は確認面から最大高 15 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部を中心に硬化している。

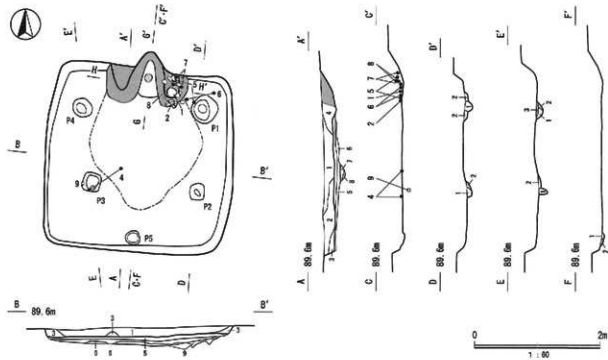
カマド 北壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは 80 cm である。袖部の基部の最大幅は約 120 cm で、袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10 cm ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がっている。

土層 4 層に分層できる。ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況が見られる。5～9 層は貼床の構築土である。

ピット 床面から、ピット 5 か所が検出された。P 1～P 4 は主柱穴、P 5 は出入口施設と考えられる。P 1: 45 × 40 cm、深さ 12 cm、P 2: 30 × 25 cm、深さ 10 cm、P 3: 30 × 30 cm、深さ 20 cm、P 4: 30 × 32 cm、深さ 15 cm、P 5: 20 × 22 cm、深さ 8 cm である。

遺物出土状況 土師器片 50 点 [環 22 点 (240g)、甕 28 点 (720g)]、須恵器片 62 点 [環 3 点 (332g)、高台付環 1 点 (99g)]、石器 1 点 (2,831g)、石 5 点 (2,700g)。1・2 の土師器環、5・7・8 の土師器甕はカマド右袖内、4 の須恵器高台付環は南西部床面、6 の土師器甕は北東部、9 の磨石は P 3 付近の床面から出土している。3 の須恵器環は履土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から 8 世紀前葉から中葉と考えられる。カマドの補強材として 6 世紀後半から 7 世紀前半の土器を再利用している。

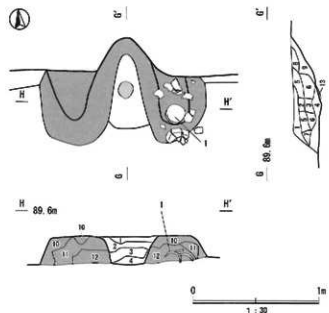


SI07 土層解説

- |   |   |
|---|---|
| 1 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒子微量 炭土粒超微量 炭化物質類・粒子多量/粘性なし 締まりなし | 8 7.5YR3/1 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 締まりあり |
| 2 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし       | 9 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり    |
| 3 7.5YR2/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし     |   |
| 4 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 加まりあり        |   |
| 5 3YR3/3 暗褐色 粘土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子中量/粘性あり 締まりなし     |   |
| 6 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 締まりあり            |   |
| 7 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり     |   |

SI07 ビット土層解説 (P1～P5)

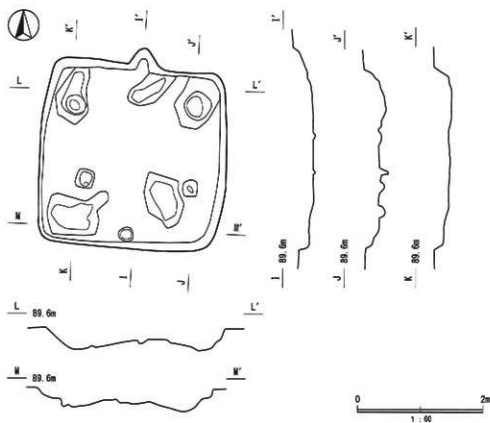
- |   |
|---|
| 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量 ローム粒子少量 炭土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 加まりなし |
| 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック中量 ローム粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 加まりあり        |
| 3 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭土粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし           |



SI07 カマド土層解説

- |   |
|---|
| 1 5YR2/2 黒褐色 炭土粒子微量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし                           |
| 2 2.5YR3/2 暗赤褐色 炭土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子中量/粘性あり 締まりなし              |
| 3 2.5YR4/3 にぶい赤褐色 炭土ブロック中量 粘土粒子中量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 締まりなし   |
| 4 2.5YR2/1 赤褐色 炭土粒子少量 炭化物質中量 炭化粒子多量/粘性なし 加まりなし                  |
| 5 2.5YR4/6 赤褐色 炭土ブロック多量 炭化粒子少量/粘性あり 加まりあり                       |
| 6 5YR4/2 灰褐色 炭土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 締まりなし                 |
| 7 5YR2/1 黒褐色 炭土粒子微量 炭化粒子多量/粘性なし 締まりなし                           |
| 8 7.5YR3/3 暗褐色 炭土粒子微量 炭化粒子少量 暗褐色粘土粒子多量/粘性あり 締まりあり               |
| 9 2.5YR3/6 暗赤褐色 炭土ブロック・粒子中量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子微量/粘性なし 締まりなし         |
| 10 2.5YR2/4 暗赤褐色 炭土粒子中量 炭化物質類 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし                 |
| 11 2.5YR2/2 黒褐色 炭土粒子少量 炭化粒子多量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 締まりあり              |
| 12 2.5YR2/4 暗赤褐色 炭土ブロック少量・粒子多量 炭化粒子中量 炭土少量 暗褐色粘土粒子少量/粘性なし 締まりなし |
| 13 2.5YR3/1 暗赤褐色 炭土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色粘土粒子少量/粘性あり 締まりあり             |

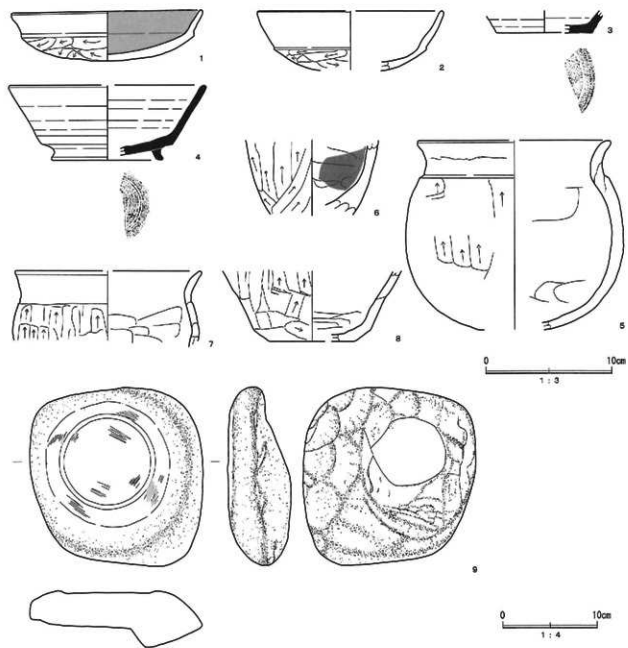
第 43 図 第 7 号竪穴建物跡実測図



第 44 図 第 7 号壑穴建物跡掘方実測図

第 17 表 第 7 号壑穴建物跡出土遺物観察表

番号	種類	形状	口径	器高	底径	胎土	色調	成灰	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	杯	15.0	3.9	—	細砂・スコリア	にふい粉	普通	口縁部絞ナデ 体部外面上位段位のヘラ削り 下位—内側のヘラ削り 内面不定方向のナデ 内面凹曲	カマド 右袖内	95% 図版 18
2	土師器	杯	[14.6]	(4.7)	—	長石・石英・角 閃石・スコリア	にふい 灰粒	普通	口縁部絞ナデ 体部外面段位のヘラ削り	カマド 右袖内	43% 図版 18
3	須恵器	杯	—	(1.8)	(7.6)	長石・石英	黒灰	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ切り	殿土中	5% 図版 18
4	須恵器	高台付 杯	[15.2]	5.9	(8.4)	長石・石英	灰白	普通	ロクロナデ 底部回転ヘラ削り後底台削り付 外面自然釉	南西部屋面	30% 図版 18 盆子堂
5	土師器	盃	[15.2]	(15.0)	—	長石・石英・角 閃石・スコリア	灰黄褐	普通	口縁部絞ナデ 体部外面段位のヘラ削り 内面段位のナデ	カマド右袖内 北東部屋面	10% 図版 18
6	土師器	盃	—	(5.9)	—	長石・石英・角 閃石・スコリア	黒褐	普通	体部内面ナデ 外面段位のヘラ削り	北東部屋面 内面段位付近	10% 図版 19
7	土師器	盃	[14.5]	(6.0)	—	長石・石英・黒 塵	灰黄褐	普通	口縁部絞ナデ 体部外面段位のヘラ削り 内面段位のナデ	カマド 右袖内	10% 図版 19
8	土師器	小半流	—	(5.6)	[6.8]	長石・石英	にふい 灰粒	普通	体部外面段位のヘラ削り 体部下端段位のヘラ 削り 内面段位のヘラナデ	カマド 右袖内	5% 図版 19
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	材質	仕法の特徴		出土位置	備考	
9	漂石	18.8	18.3	6.7	2831.0	砂石	径 10cm の円形の断面		南東部 P3 内	図版 19	



第45図 第7号竪穴建物跡出土遺物実測図

第8号竪穴建物跡 (SI08) (第46～48図、第18・24表、図版6・19・20)

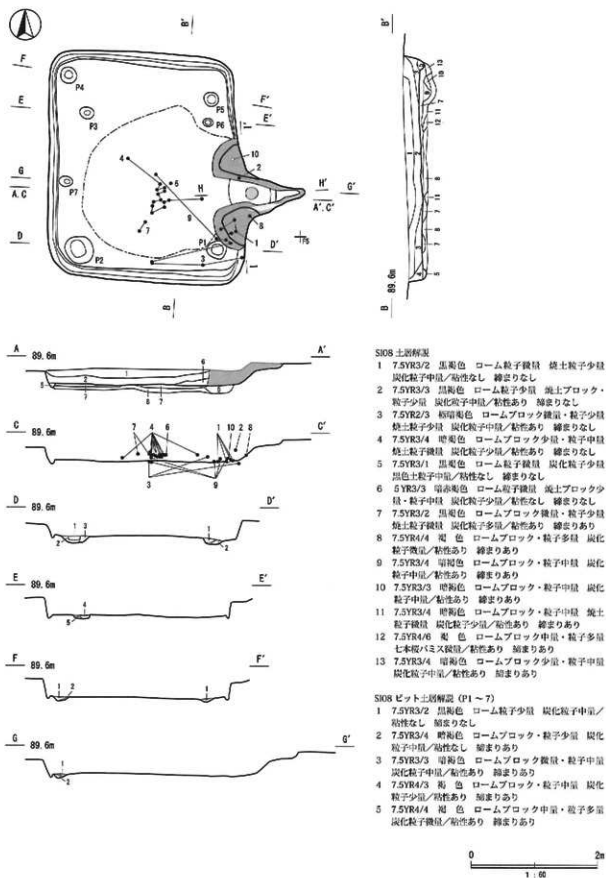
位置 調査区西部 E 4～F 4 グリッドに位置し、台地の平坦部に立地する。

確認状況 ローム層上面で確認する。

規模と形状 長軸 3.62 m、短軸 3.04 m で、平面形は長方形である。主軸方位は N-90°-E である。壁は確認面から最大高 24 cm で、外傾して立ち上がっている。壁溝は、上幅 15～20 cm、下幅 0～10 cm、深さ 10 cm で全周する。断面形は U 字形である。

床 貼床で、カマド前から中央部が固く締まっている。

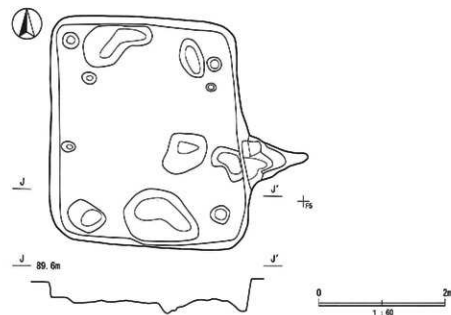
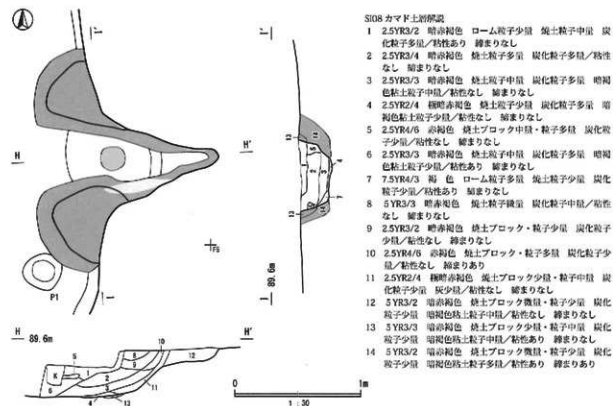
カマド 東壁中央南寄りにあり、暗褐色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは 140 cm である。



第46図 第8号竪穴建物跡実測図

袖部の基部の最大幅は約180cmである。煙道はカマドから緩やかに立ち上がっている。

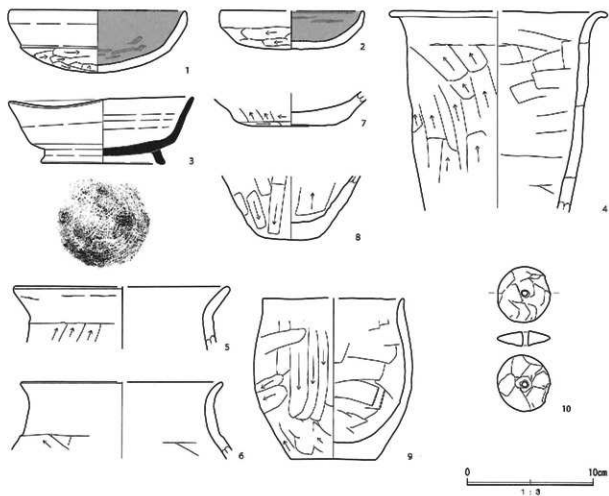
ピット 床面から、ピット7が検出された。P1～P6は主柱穴、P7は出入口施設と考えられる。P1：32×28cm、深さ14cm、P2：48×42cm、深さ12cm、P3：22×20cm、深さ8cm、P4：28×28cm、深さ8cm、P5：22×22cm、深さ8cm、P6：14×14cm、深さ6cm、P7：22×18cm、深さ12cm、である。土層 6層に分層できる。ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。7～13層は貼床の構築土である。



第47図 第8号聚穴建物跡カマド・掘方実測図

遺物出土状況 土師器片 189点 [環 20点 (341g)、甕 1点 (397g)、甕 168点 (3,065g)]、須恵器片 2点 [環 5点 (19g)、高台付環 1点 (247g)、蓋 1点 (20g)]、石 5点 (1,700g)。1の土師器環、8の土師器甕はカマド右袖内、2の土師器環、10の土製紡錘車はカマド左袖内から出土している。3の須恵器高台付環は南壁の床面、4・6・7の土師器甕は中央部の覆土中層、9の土師器小型甕は中央部からカマド前床面にかけて、5の土師器甕は覆土中から、それぞれ出土している。

所見 時期は、僅かな出土遺物から8世紀前半から中葉と考えられる。本跡は、同時期の第7号竪穴建物跡と同様に、カマドの補強材として7世紀代の土師器を再利用している。遺構構築方法などの共通点もみられ、第7号竪穴建物跡との関連性が強いと思われる。



第 48 図 第 8 号竪穴建物跡出土遺物実測図

第 18 表 第 8 号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	形状	器種	口径	高さ	底径	胎土	色気	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	環	13.8	4.9	—	辰石	灰青 黄橙	付造	口縁部灰ナデ 体部外面灰位のヘラ削り 内面 掘込のヘラ削き 内面黒色灰埋	カマド 右袖内	80% 調査 19
2	土師器	環	11.2	3.5	—	辰石・石英・ス コリア	灰青 灰青	付造	口縁部灰ナデ 体部外面灰位のヘラ削り 内面 ヘラ削き 内面黒色灰埋	カマド 左袖内	15% 調査 19
3	須恵器	高台付 環	14.5	3.2	9.6	辰石・石英・輝 砂	灰	良好	口縁部灰ナデ 底部縁へら切り後中央部一方向 のヘラナデ 高台削り付	南壁床面	90% 調査 19 蓋子室 底部「 <input type="checkbox"/> 」 へら削り



番号	種別	高径	口径	高さ	底径	敷土	色調	透視	手法の特徴	出土位置	備考
4	土築器	炭	[16.8]	[15.8]	—	炭石・石英・赤 褐色・スロリア	褐色	普通	口縁部灰ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面 縦位のナデ	中央部 覆土中層	30% 図版 19
5	土築器	炭	[16.8]	[5.0]	—	炭石・石英・赤 褐色	赤褐色	普通	口縁部灰ナデ 体部外面縦位のヘラ削り	覆土中	10% 図版 19
6	土築器	炭	[16.8]	[6.0]	—	炭石・石英	にぶい 褐色	良好	口縁部灰ナデ 体部外面縦位のヘラ削り 内面 縦位のナデ	中央部 覆土中層	5% 図版 19
7	土築器	炭	—	[2.0]	8.8	炭石・石英・黒 褐色・チャート	にぶい 褐色	不良	体部外面縦位のヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	中央部 覆土中層	5% 図版 19
8	土築器	小形炭	—	[5.0]	[4.8]	炭石・石英・黒 褐色	にぶい 褐色	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面縦位のヘラナデ 底部一方向のヘラ削り	カマド 覆土中層	5% 図版 19
9	土築器	小形炭	[11.0]	12.7	6.6	炭石・石英・チ ャート	褐色	不良	口縁部灰ナデ 体部外面上位縦位のヘラ削り 下部縦位のヘラ削り 内面縦位のヘラナデ 底部一方向のヘラ削り	中央部・ カマド前 底面	60% 図版 20
番号	種別	径	幅	高さ	厚さ	材質	仕法の特徴		出土位置	備考	
10	助焼車	4.4	4.2	1.1	15.7	土製土	孔径 06cm.		カマド 左側内	95% 図版 20	

#### 第9号竪穴建物跡 (S109) (第49～56図、第19・24表、図版6・20～22)

位置 調査区中央部 H 3～H 4 グリッドに位置し、標高 89m の台地の平坦部に位置する。

確認状況 ローム層上面で確認し、第 10 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 5.60 m、短軸 3.68 m で、平面形は長方形である。主軸方位は N-5°-W である。壁は確認から最大高 40cm で、ほぼ緩やかに立ち上がっている。

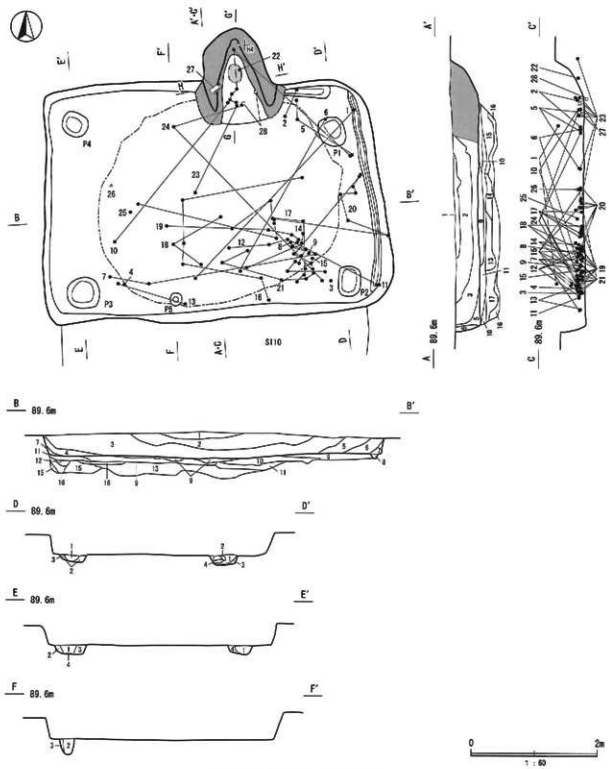
床 カマド前から中央部が踏み固められている。

カマド 北壁中央にあり、暗褐色粘土で構築されている。開口部からカマド外までは 110cm である。袖部の基部の最大幅は約 80cm で、右袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10cm ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは緩やかに立ち上がる。

土層 8層に分層できる。ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。9～17層は粘土の構築土である。

ピット 床面からピット 5か所が検出された。P 1～P 4は主柱穴、P 5は出入口施設と考えられる。P 1：50×42cm、深さ 18cm、P 2：48×38cm、深さ 16cm、P 3：50×48cm、深さ 10cm、P 4：42×40cm、深さ 12cm、P 5：20×18cm、深さ 16cm である。

遺物出土状況 土師器片 560 点 [環 16 点 (190g)、甕 544 点 (6,165g)]、須恵器片 81 点 [環 54 点 (968g)、高台付環 4 点 (497g)、蓋 5 点 (107g)、壺 1 点 (330g)、高壺 1 点 (212g)、短頸壺 3 点 (1,736g)、横頸 1 点 (6,696g)、甕 11 点 (4,219g)]、灰釉長頸壺片 2 点 (169g)、鉄製品 1 点 [刀子 (8g)]、電鍍補材 1 点 (1,836g)、石 5 点 (75g)。1 の土師器環は南部と東部の覆土上層、2 の須恵器環はカマド前床面、3・8 の須恵器環、9 の須恵器高台付環、12 の須恵器壺、14 の須恵器高壺、15 の須恵器短頸壺、25 の須恵器甕は西部の覆土下層、4 の須恵器環、13 の須恵器蓋は南西部の覆土下層、21 の土師器甕は南東部の覆土下層、5 の須恵器環は北東部床面、6 の須恵器環は北東部と南部床面、7 の須恵器環は南部覆土下層から中層にかけて、10 の須恵器高台付環は南西部床面とカマド内、11 の須恵器高台付環は南東コーナー部の覆土下層、16 の須恵器短頸壺は中央部の床面、17 の須恵器短頸壺は南東部の床面、18 の灰釉陶器長頸壺は南部の床面、19 の須恵器横頸は中央部から南東部の覆土下層、20 の土師器甕は中央部から東部の床面、22 の土師器甕、28 の支脚転用甕はカマド内、23 の土師器甕はカマド内と中央部の床面から、24 の土師器甕はカマド前から南東部



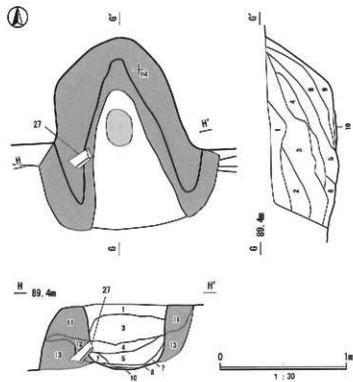
第49図 第9号竪穴建物跡実測図

S308 土質編成

- |                |              |        |        |              |               |              |             |             |       |
|----------------|--------------|--------|--------|--------------|---------------|--------------|-------------|-------------|-------|
| 1 7.5YR3/1 黒褐色 | ローム粒子少量      | 凝土粒子少量 | 炭化物微量  | 粒子           | 6 7.5YR4/3 褐色 | ロームブロック・粒子中層 | 凝土粒子微量      | 炭化粒子中層/粘性あり | 粘まりあり |
| 2 7.5YR3/2 黒褐色 | ローム粒子少量      | 凝土粒子中層 | 炭化物少量  | 粒子           | 7 7.5YR4/4 褐色 | ロームブロック・粒子中層 | 炭化粒子中層/粘性あり | 粘まりあり       |       |
| 3 7.5YR3/3 暗褐色 | ロームブロック少量    | 粒子中層   | 凝土粒子少量 | 炭化物微量        | 7.5YR3/3 暗褐色  | ロームブロック少量    | 粒子中層        | 炭化粒子少量/粘性あり | 粘まりなし |
| 4 7.5YR3/4 暗褐色 | ロームブロック・粒子中層 | 凝土粒子少量 | 炭化粒子   | 7.5YR3/4 暗褐色 | ロームブロック・粒子中層  | 炭化粒子中層/粘性あり  | 粘まりあり       |             |       |
| 5 7.5YR4/2 灰褐色 | ロームブロック・粒子中層 | 凝土粒子少量 | 炭化粒子   | 7.5YR4/2 灰褐色 | ロームブロック・粒子中層  | 炭化粒子中層/粘性あり  | 粘まりあり       |             |       |

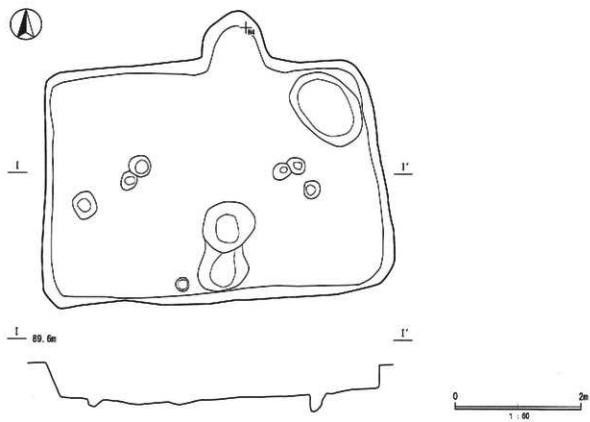
- |                 |                   |             |                      |
|-----------------|-------------------|-------------|----------------------|
| 11 7.5YR3/2 黒褐色 | ロームブロック・粘土少量      | 炭化粒子中量/粘性あり | SI09 ビット土層確認 (P1～P5) |
| 12 7.5YR3/3 暗褐色 | ロームブロック少量・粘土中量    | 炭化粒子中量/粘性なし | 1 7.5YR3/3 暗褐色       |
| 13 7.5YR3/3 暗褐色 | ロームブロック少量・粘土中量    | 炭化粒子中量/粘性あり | 2 7.5YR3/4 暗褐色       |
| 14 7.5YR3/4 暗褐色 | ロームブロック少量・粘土中量    | 粘土粒子微量      | 3 7.5YR3/3 暗褐色       |
| 15 7.5YR3/4 暗褐色 | ロームブロック少量・粘土中量    | 炭化粒子中量/粘性あり | 4 7.5YR4/4 褐色        |
| 16 7.5YR3/4 暗褐色 | ロームブロック・粘土中量/粘性あり | 粘性なし        |                      |
| 17 7.5YR3/4 暗褐色 | ロームブロック・粘土中量      | 炭化粒子微量/粘性あり |                      |

の覆土下層、26の刀子は西部の覆土下層、27のカマド補強材はカマド左袖内から、それぞれ出土している。  
 所見 時期は、出土遺物から8世紀中葉と考えられる。多量に出土した土器類は、8世紀中葉から後葉にかけてのもので、特に南東部で出土した土器群は、建物廃絶後に投棄されたものと考えられる。

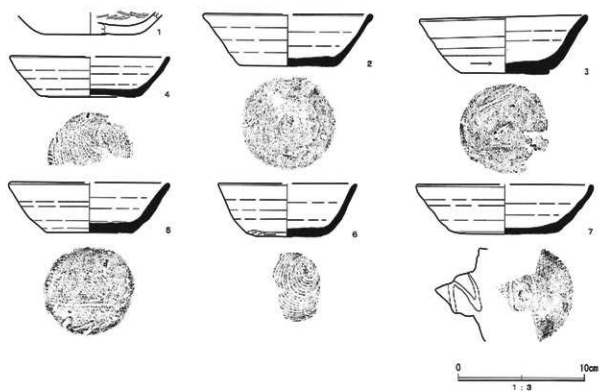


第50図 第9号竪穴建物跡カマド実測図

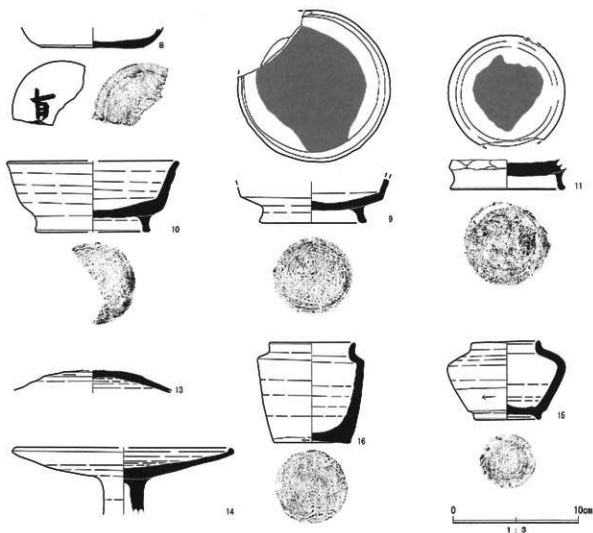
- SI09 カマド土層確認
- |    |                |                     |                |                |          |
|----|----------------|---------------------|----------------|----------------|----------|
| 1  | 5YR2/2 黒褐色     | ローム粒子少量             | 焼土粒子微量         | 炭化粒子中量/粘性あり    | 跡量あり     |
| 2  | 5YR3/2 暗赤褐色    | ローム粒子少量             | 焼土粒子少量         | 炭化粒子中量/粘性あり    | 跡量あり     |
| 3  | 2.5YR3/2 暗赤褐色  | 焼土ブロック少量・粘土中量       | 炭化粒子中量/粘性なし    | 跡量あり           |          |
| 4  | 2.5YR3/4 暗赤褐色  | 焼土ブロック微量            | 粘土中量           | 炭化粒子中量/粘性あり    | 跡量あり     |
| 5  | 2.5YR4/4 濃い赤褐色 | 焼土ブロック・粘土中量         | 炭化粒子少量         | 暗褐色粘土粒子少量/粘性なし | 跡量あり     |
| 6  | 2.5YR3/3 暗赤褐色  | 焼土ブロック微量            | 粘土少量           | 炭化粒子中量/粘性あり    | 跡量あり     |
| 7  | 7.5YR4/4 褐色    | ロームブロック中量           | 焼土粒子微量         | 粘性あり           | 跡量あり     |
| 8  | 2.5YR3/6 暗赤褐色  | 焼土ブロック中量            | 焼土粒子中量         | 炭化粒子中量         | 炭多量/粘性なし |
| 9  | 2.5YR3/2 暗赤褐色  | 焼土粒子少量              | 炭化粒子多量         | 炭少量/粘性なし       | 跡量あり     |
| 10 | 2.5YR3/6 暗赤褐色  | 焼土ブロック中量・粘土多量       | 炭化粒子少量/粘性なし    | 跡量あり           |          |
| 11 | 2.5YR5/2 灰赤色   | 焼土粒子中量              | 暗褐色粘土粒子多量      | 粘性あり           | 跡量あり     |
| 12 | 2.5YR4/2 灰赤色   | 焼土ブロック少量・粘土中量       | 暗褐色粘土粒子多量/粘性あり | 跡量あり           |          |
| 13 | 7.5YR4/4 褐色    | ロームブロック中量・粘土多量/粘性あり | 跡量あり           |                |          |



第51图 第9号竖穴建物跡平面方丈測図



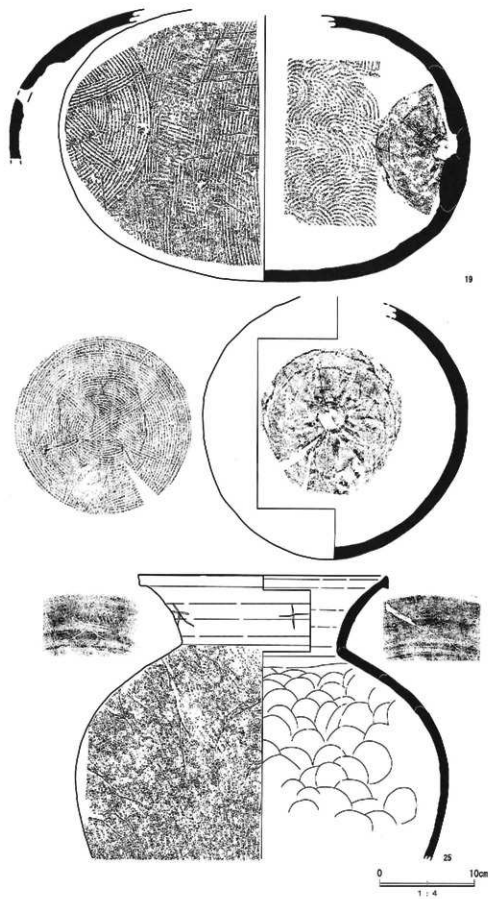
第52图 第9号竖穴建物跡出土遺物尖測図(1)



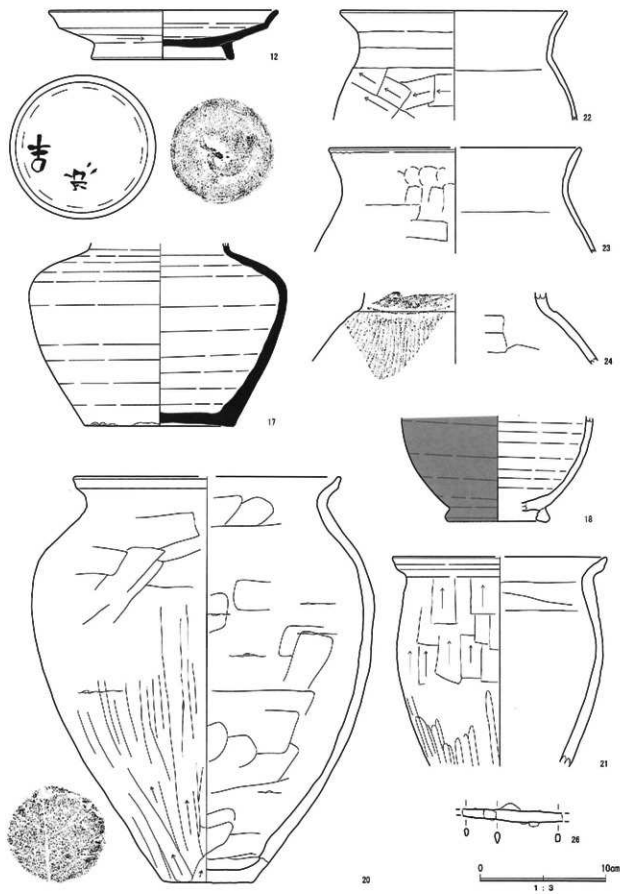
第 53 図 第 9 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 19 表 第 9 号竪穴建物跡出土遺物観察表

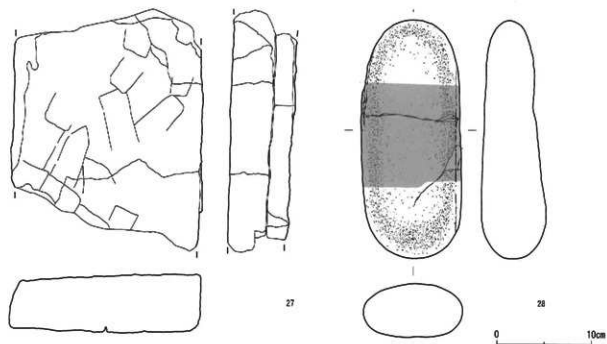
番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色面	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	杯	—	(1.7)	(7.6)	長石・石英・雲母	拍	普通	体部外端へら削り後ナデ 内部縦位のへら磨き	南・東部 覆土上層	20% 図版 20
2	須恵器	杯	[13.1]	4.1	7.3	長石・石英	灰	普通	口クロナデ 底面回転へら切り	方平下層 灰層	70% 図版 20 益子窯
3	須恵器	杯	13.0	4.7	6.7	長石・石英・黒炭	灰	普通	口クロナデ 底面回転へら切り後ナデ	南東部 覆土下層	60% 図版 20 益子窯
4	須恵器	杯	[12.5]	3.2	7.0	長石	灰	普通	口クロナデ 底面回転へら切り	南西部 覆土下層	40% 図版 20 益子窯
5	須恵器	杯	[12.4]	3.9	6.7	長石・石英・白色粘土	黒灰	普通	口クロナデ 底面回転へら切り後へら削り	北東部灰面	50% 図版 20 益子窯
6	須恵器	杯	[10.7]	4.1	[5.4]	長石・石英・スクリヤ	黒灰	普通	口クロナデ 体部下端縦位のへら削り 底面回転へら切り	北東・南部 灰層	40% 図版 20 益子窯
7	須恵器	杯	[13.7]	3.9	[8.4]	長石・石英	黒灰	普通	口クロナデ 底面回転へら切り	南部覆土 下層～中層	30% 図版 20 底部「乙」の へら削り 益子窯
8	須恵器	杯	—	(1.6)	(8.0)	長石・石英	灰黄	普通	口クロナデ 体部下端縦位のへら削り 底面回転へら切り	南東部 覆土下層	10% 図版 20 底部「乙」の 削り 三層上黄灰



第 54 图 第 9 号窑穴建筑物出土遗物实测图 (3)



第55图 第9号竖穴建物跡出土遺物実測图(4)



第56図 第9号竪穴建物跡出土遺物実測図(5)

番号	種類	器種	口径	器高	底径	素材	色別	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
9	須恵器	高台付 杯	—	3.9	8.0	辰石・石英・雜 礫	灰	決群	ロタロナデ 底面回転糸切り機ナデ	南東部 覆土下層	90% 図版20 磁子室 内面起用痕 あり
10	須恵器	高台付 杯	[13.4]	5.6	[8.9]	辰石・石英・雜 礫	灰	決群	ロタロナデ 底面回転糸切り機ナデ	南西部・南 カマド内	55% 図版20 磁子室
11	須恵器	高台付 杯	—	(2.3)	9.0	辰石・石英	灰	決群	底層片 底面回転ヘラ削り機ナデ	南東コーナー 覆土下層	10% 図版20 磁子室 あり
12	須恵器	甕	18.0	3.9	11.2	辰石・石英・チ ャート	灰	決群	ロタロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底面回転 ヘラ削り	南東部・北土 下層~中層	65% 図版20 底面「百」 記号 「二」ヘラ記号 あり
13	須恵器	甕	—	(1.7)	—	辰石・石英	灰	決群	天井部ロタロナデ 底面回転ヘラ削り 編み部	南西部 覆土下層	40% 図版21 磁子室
14	須恵器	竊腹	[7.0]	(5.3)	—	辰石・石英	陶灰	普通	ロタロナデ 外面回転ヘラ削り 胴部貼り付付 高台内面しぼり痕	南東部 覆土下層	30% 図版21 磁子室
15	須恵器	短頸甕	5.2	6.2	5.1	辰石・石英	灰	普通	ロタロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底面回転 ヘラ削り	南東部 覆土下層	95% 図版21 磁子室
16	須恵器	短頸甕	6.4	7.9	6.0	辰石・石英・雜 礫	灰	普通	ロタロナデ 底面回転糸切り	中央部・南	90% 図版21 磁子室
17	須恵器	短頸甕	—	(14.4)	12.0	辰石・石英・雜 礫・チャート	灰	普通	ロタロナデ 底層ナデ	南東部・南	65% 図版21 磁子室
18	須恵器	長頸甕	—	(8.3)	[7.9]	辰石・石英・鉄 屑	陶灰	決群	ロタロナデ 体部下端回転ヘラ削り 底面回転 ヘラ削り 外面磨	南東部・南	10% 図版21 磁子室
19	須恵器	横腹	—	(28.3)	(43.5)	辰石・石英・雜 礫	粘土・地	特選	体部外周延長方向のホネ目後 縦筋亦向にホネ 目 一方の孔を第1交差十字のホネ目 内面 半径 2.5cmの同心円7条の帯で具装	中央~ 南東部 覆土下層	80% 図版22 磁子室
20	土師器	甕	[20.8]	32.0	7.0	辰石・石英	砂	特選	口縁部硝子デ 体部外周上位縦筋のヘラナデ下 位縦筋のヘラ削き 内面頂位のヘラナデ 底部 ホネ目	東部・南	80% 図版21
21	土師器	甕	—	(5.4)	—	石英・角辰石・ チャート・スロ リヤ	粘土	特選	胴部から体部ロタロナデ 体部外周縦筋の硝子 目調整 内面縦筋のヘラナデ	南東部 覆土下層	5% 図版21
22	土師器	甕	[16.8]	(16.5)	—	辰石・石英・白 磁粉	粘土	特選	口縁部硝子デ 体部外周上位縦筋のヘラ削り 下位縦筋のヘラ削り 後縦筋の硝子ヘラ削き 内 面縦筋のヘラナデ	カマド内	10% 図版21 常盤調整



番号	種類	素材	口径	高さ	底径	胎土	色調	灰質	手法の特徴	出土位置	備考	
23	土調器	灰	12.9	(8.5)	—	辰石・石英・雲母	にぶい	普通	口縁部横ナデ 体部外縁部位のヘラ削り 内面横位のナデ	カマド内・中央部底面	5% 図版 21 武蔵野遺	
24	土調器	灰	119.9	(8.2)	—	辰石・石英・スコリア	にぶい	普通	口縁部横ナデ 体部外縁部位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	カマド内・南 隅部土下層	5% 図版 21 武蔵野遺	
25	須恵器	灰	26.2	(26.7)	—	辰石・石英・雜炭	灰	普通	ロクロナデ 頸部斜位の平行甲き後ロクロナデ 体部前面平行甲き 内面刺文の当目面	西部 観土下層	50% 図版 22 須恵器外編「大口 西序」十、類 器 須恵窯	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	底さ	材質	仕法の特徴			出土位置	備考	
26	刀子	(8.0)	0.9	0.4	(8.0)	鉄	茎部一部	刃部先端欠損			西部 観土下層	図版 22
27	カマド 補修材	(25.5)	20.1	6.2	2300.0	高灰岩	外周ケズリ痕			カマド 左袖内	図版 22	
28	灰層 転用	25.0	10.6	6.8	2524.0	砂岩	中央部帯状に転付岩			カマド内	図版 22	

#### 第10号竪穴建物跡 (S110) (第57・58図、第20・24表、図版7・22・23)

位置 調査区西部 H 3～H 4 グリッドに位置し、標高 89 m の台地の平坦部に立地する。

確認状況 ローム層上面で確認している。第9号竪穴建物跡・第48・49号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北部を第9号竪穴建物に掘り込まれ、長軸 4.70 m、短軸 1.32 m しか確認できず、平面形は方形と推測される。主軸方位は N-5°-W である。壁は確認面から最大高 30 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、確認された部分が硬化している。

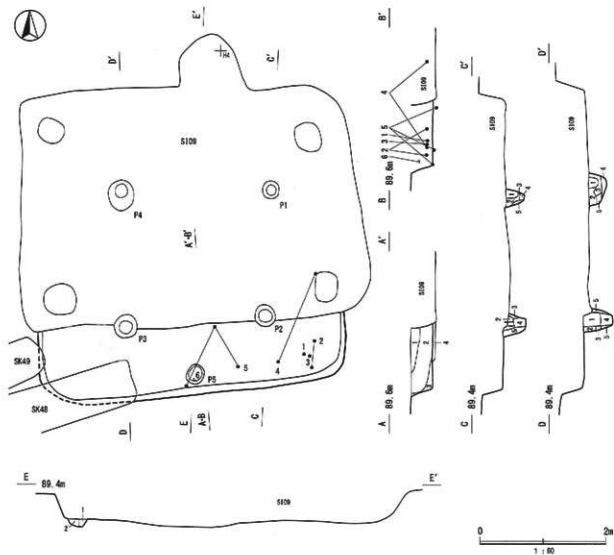
カマド 第9号竪穴建物に掘り込まれていることからカマドを確認することはできなかった。

土層 3層に分層できる。ロームブロックと焼土・炭化粒子が含まれており、人為的な埋没状況である。4層は貼床の構築土である。

ピット 床面と第9号竪穴建物の床下から、ピット5か所が検出され、P 1～P 4は主柱穴、P 5は出入口施設と考えられる。P 1: 25 × 24 cm、深さ 36 cm、P 2: 35 × 34 cm、深さ 38 cm、P 3: 35 × 35 cm、深さ 50 cm、P 4: 40 × 40 cm、深さ 30 cm、P 5: 30 × 24 cm、深さ 16 cm である。

遺物出土状況 土師器表片 95 点 (1.114 g)、須恵器片 182 点 [環 2 点 (141 g)、高台付環 1 点 (17 g)、蓋 1 点 (51 g)、甕 2 点 (18 g)]、鉄製品 1 点 (15 g)、石 8 点 (5.500 g)。1 の須恵器環、2 の須恵器蓋、3 の土師器表は南東コーナ部の覆土中層、4 の須恵器表は南東部と第9号竪穴建物跡の覆土中層、5 の土師器小型甕は南部の床面、6 の刀子は南部の覆土上層から、それぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物から 8 世紀中葉以前と考えられる。出土した土器類は、第9号竪穴建物跡と同様に、建物廃絶後に投棄されたものと考えられる。



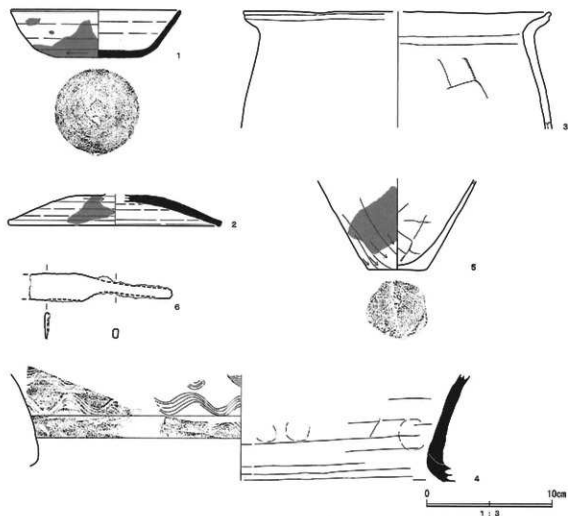
S10 土質解説

- 1 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりなし
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし
- 4 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック・粒子少量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり

S10 ビット土層解説 (P1～P5)

- 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりなし
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり
- 3 7.5YR2/3 暗褐色 ロームブロック中量・粒子少量/粘性あり 締まりあり
- 4 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック微量・粒子中量/粘性あり 締まりなし
- 5 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量/粘性あり 締まりあり

第 57 図 第 10 号竪穴建物跡実測図



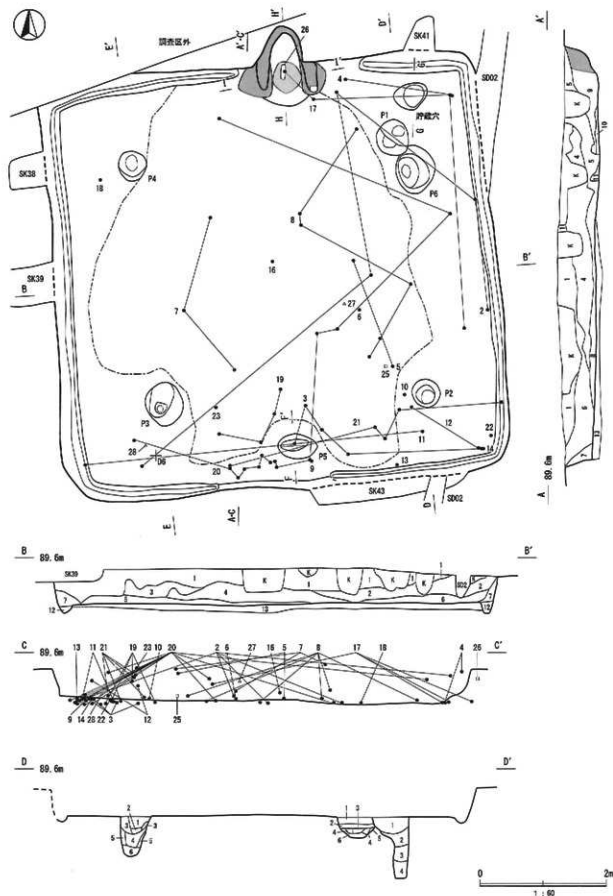
第58図 第10号竪穴建物跡出土遺物実測図

第20表 第10号竪穴建物跡出土遺物観察表

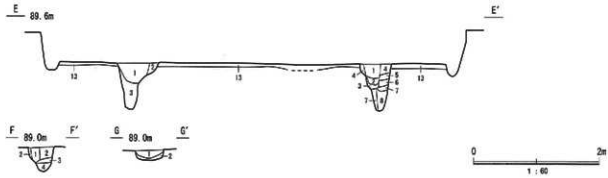
番号	類別	群種	口径	器高	底径	胎土	色調	灰成	平皿の特徴	出土位置	備考
1	碗鉢器	坏	13.3	3.8	6.8	長石・石英・鉄	灰黄褐色	良好	口クロナデ 外縁縁起ヘラ削り	南東コーナ 瓦土中層	50% 図版22 鉄子堂 休部 外縁縁起付
2	碗鉢器	蓋	[16.6]	(2.3)	—	長石・石英	灰白	普通	天井部口クロナデ 頂部縁起ヘラ削り 溝み部 縁起	南東コーナ 瓦土中層	20% 図版22 三志土層空 外縁縁起付
3	土鉢器	甕	[24.2]	(9.3)	—	長石・石英・雲母・スクリア	に灰い色	普通	口縁部灰ナデ 休部外周縁起のヘラ削り 内面 縁起のヘラナデ	南東コーナ 瓦土中層	5% 図版23
4	土鉢器	甕	—	(8.3)	—	長石・石英・雲母	黄灰	良好	口部口クロナデ 外面7本の磨曲状工具による 灰状文を2段に施文	南東部瓦土 中層・S106 瓦土中層	5% 図版23 新治空
5	土鉢器	小皿蓋	—	(7.2)	4.6	長石・石英・スクリア	に灰い色	普通	休部外周縁起のヘラ削り 内面縁起のヘラナデ 底面一方向のヘラ削り	南東部瓦土	20% 図版23 外縁縁起付
番号	器種	長さ	幅	厚さ	直径	材質	仕立の特徴			出土位置	備考
6	刀子	(11.3)	2.3	0.25~ 3.5	(15)	鉄	基層厚さ3.5cm	刃部厚さ2.5cm	先端欠損	南東 層土上層	図版22

第11A号竪穴建物跡 (SI11A) (第59~64図、第21・24表、図版7・23~25)

位置 調査区北部C5~C6グリッドに位置し、標高89mの台地の平坦部に立地する。



第 59 图 第 11A 号壁穴建物跡实测图 (1)



第60図 第11A号整穴建物跡実測図(2)

SH1A土質解説

- |    |          |     |                |                   |              |    |   |          |     |                |             |             |       |
|----|----------|-----|----------------|-------------------|--------------|----|---|----------|-----|----------------|-------------|-------------|-------|
| 1  | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック散見・粘土中層 | 黄土粒子少量            | 炭            | P3 | 1 | 7.5YR2/1 | 黒褐色 | ローム粒子散見        | 黄土粒子散見      | 炭化粒子多量/粘性あり | 締まりなし |
| 2  | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック散見・粘土中層 | 黄土粒子少量            | 炭            |    | 2 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量        | 炭化粒子多量/粘性あり | 締まりあり       |       |
| 3  | 7.5YR4/4 | 褐色  | ロームブロック・粘土中層   | 炭化粒子少量/粘性あり       |              |    | 3 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック少量・粘土中層 | 炭化粒子中層/粘性あり | 締まりなし       |       |
| 4  | 7.5YR4/3 | 褐色  | ロームブロック・粘土中層   | 炭化粒子少量/粘性あり       |              |    | 4 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック・粘土中層   | 炭化粒子中層/粘性あり | 締まりなし       |       |
| 5  | 7.5YR4/4 | 褐色  | ロームブロック・粘土中層   | 黒色土ブロック・粘土少量/粘性あり |              | P4 | 1 | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | ローム粒子少量        | 黄土粒子少量      | 炭化粒子多量/粘性あり | 締まりあり |
| 6  | 7.5YR3/1 | 黒褐色 | ローム粒子少量        | 黄土粒子少量            | 炭化粒子多量/粘性あり  |    | 2 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量        | 炭化粒子多量/粘性あり | 締まりなし       |       |
| 7  | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土少量   | 炭化粒子中層            | 粘土粒          |    | 3 | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | ローム粒子散見        | 炭化粒子多量/粘性あり | 締まりあり       |       |
| 8  | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒子少量        | 黄土粒子少量            | 炭化粒子多量/粘性あり  |    | 4 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック・粘土少量   | 炭化粒子中層/粘性あり | 締まりあり       |       |
| 9  | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック散見・粘土少量 | 黄土粒子中層            | 炭            |    | 5 | 7.5YR4/3 | 褐色  | ロームブロック・粘土中層   | 炭化粒子少量/粘性あり | 締まりあり       |       |
| 10 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量        | 黄土粒子少量            | 炭化粒子中層/粘性あり  |    | 6 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ロームブロック散見・粘土中層 | 炭化粒子中層/粘性あり | 締まりあり       |       |
| 11 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック少量・粘土中層 | 黄土粒子中層            | 炭            |    | 7 | 7.5YR4/4 | 褐色  | ロームブロック・粘土多量   | 炭化粒子散見/粘性あり | 締まりあり       |       |
| 12 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量        | 炭化粒子少量            | 黒色土粒子多量/粘性あり |    | 8 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック散見・粘土少量 | 炭化粒子多量/粘性あり | 締まりなし       |       |
| 13 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量        | 黄土粒子中層            | 炭化粒子多量/粘性あり  |    |   |          |     |                |             |             |       |

SH1A貯蔵土質解説

- |   |          |     |                |             |       |
|---|----------|-----|----------------|-------------|-------|
| 1 | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量        | 炭化粒子多量/粘性あり | 締まりなし |
| 2 | 7.5YR3/4 | 暗褐色 | ロームブロック少量・粘土中層 | 炭化粒子中層/粘性あり | 締まりあり |

SH1Aベント土質解説

- |    |          |     |                |             |             |       |
|----|----------|-----|----------------|-------------|-------------|-------|
| 1  | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ロームブロック・粘土少量   | 炭化粒子中層/粘性あり | 締まりあり       |       |
| 2  | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック中層/粘性あり | 締まりあり       |             |       |
| 3  | 7.5YR4/4 | 褐色  | ロームブロック少量/粘性あり | 締まりなし       |             |       |
| 4  | 7.5YR4/4 | 褐色  | ロームブロック中層/粘性あり | 締まりあり       |             |       |
| 5  | 7.5YR2/2 | 黒褐色 | ローム粒子中層        | 黄土粒子多量/粘性あり | 締まりなし       |       |
| 6  | 7.5YR2/3 | 暗褐色 | ローム粒子少量        | 黄土粒子散見      | 炭化粒子多量/粘性あり | 締まりあり |
| 7  | 7.5YR3/2 | 黒褐色 | ローム粒子少量        | 炭化粒子多量/粘性あり | 締まりあり       |       |
| 8  | 7.5YR3/2 | 暗褐色 | ロームブロック中層      | 炭化粒子多量/粘性あり | 締まりあり       |       |
| 9  | 7.5YR4/6 | 暗褐色 | ロームブロック中層      | 炭化粒子中層/粘性あり | 締まりあり       |       |
| 10 | 7.5YR3/3 | 暗褐色 | ロームブロック中層      | 炭化粒子多量/粘性あり | 締まりあり       |       |

確認状況 ローム層上面で確認している。第11B・C号竪穴建物跡を掘り込み、第38・39・41・43号土坑、第2号溝跡を掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.08m、短軸6.64mで、平面形は方形である。主軸方位はN-3°-Wである。壁は確認面から最大高58cmで、外傾して立ち上がっている。壁溝は、上幅10～20cm、下幅6～10cm、深さ10cmでほぼ全周する。断面形はU字形である。

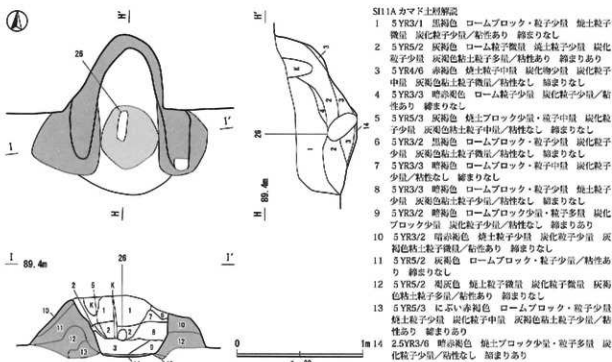
床 ほぼ平坦で、中央部を中心に硬化している。

カマド 北壁中央東寄りであり、砂混じりの暗褐色粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは130cmである。袖部の基部の最大幅は約140cmで、袖部は比較的良好に遺存しており、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から10cmほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは穏やかに立ち上がっている。

土層 12層に分層できる。ロームブロックと焼土ブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。13層は粘床の構築土である。

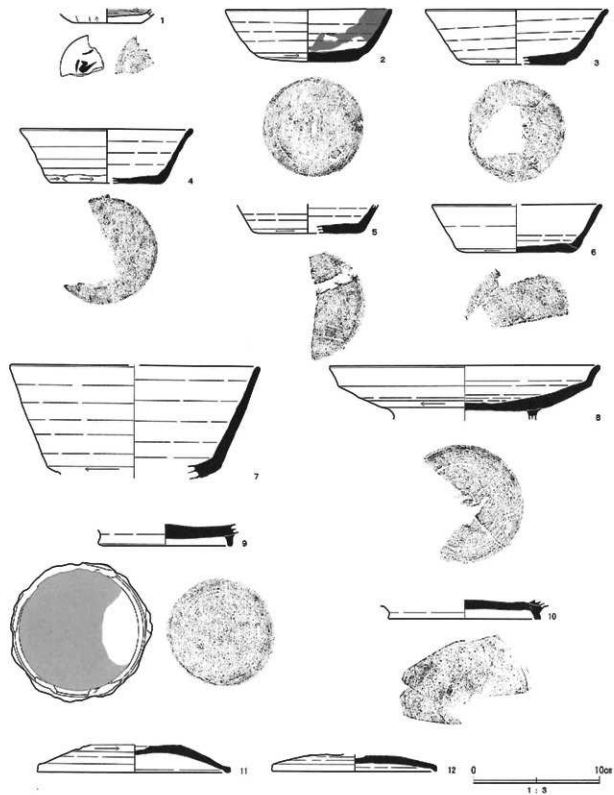
ピット 床面からピット6か所が検出され、P1～P4は主柱穴、P5は出入口施設と考えられる。P6はP1を掘り込んでいることから、主柱の補助的役割をもつ可能性がある。P1：60×50cm、深さ96cm、P2：50×46cm、深さ62cm、P3：70×60cm、深さ75cm、P4：48×46cm、深さ76cm、P5：60×50cm、深さ40cm、P6：48×46cm、深さ35cmである。

遺物出土状況 土師器片546点〔環47点(388g)、高台付環1点(23g)、甕498点(4,592g)〕、須恵器片173点〔環9点(487g)、高台付環3点(93g)、蓋4点(295g)、盤3点(555g)、鉢3点(889g)、瓶5点(68g)、甕146点(3,577g)〕、鉄製品1点(4g)、石製品1点(171g)、瓦質土器片1点(16g)、石10点1,663g)。2の須恵器環、20の土師器甕は建物内の床面から覆土上層にかけて散らばっている。3の須恵器環、9の須恵器蓋、11の須恵器蓋、19の土師器甕は南部の床面、4の須恵器環は北東部覆土上層と床面、5・6の須恵

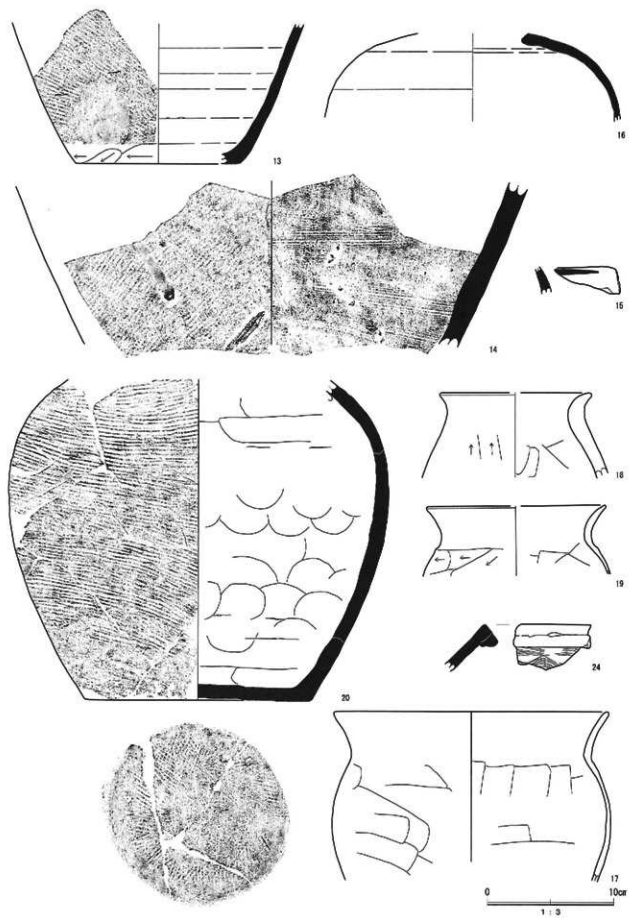


第61図 第11A号竪穴建物跡カマド実測図

器坏、8の須恵器盤は中央部の床面、7の須恵器高台付碗は中央部覆土上層から下層、10の須恵器盤は南東部覆土下層、21の須恵器表は南から南東部の覆土中層・下層、12の須恵器蓋、25の砥石は南東部、28の簾は南西部の覆土中層、13の須恵器鉢は南壁の床面からそれぞれ出土している。また、14の須恵器鉢、22の須恵器表は南東コーナー部の床面、16の須恵器瓶は中央部の覆土下層、17の土師器表はカマド内と東部の覆

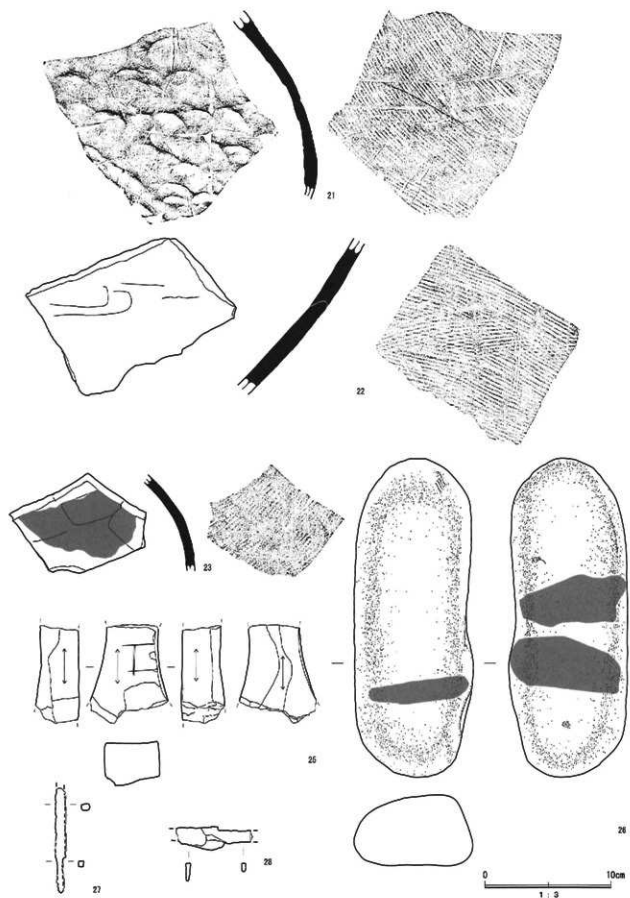


第62図 第11A号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)



第63图 第11A号窖穴建筑物出土器物尖鬲图(2)





第64图 第11A号整穴建物跡出土遺物実測图(3)

土中層、18の土師器類は北西部の床面、23の須恵器類は南西部の覆土上層、26の支脚転用石はカマド内から出土している。なお、1の土師器坏、15の須恵器壺、24の須恵器蓋は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から8世紀後半と考えられる。床面下が確認された第11B・C号竪穴建物跡を再構築し、拡張して構築されている。

第21表 第11A号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種類	部科	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手検の特徴	出土位置	備考
1	土師器	坏	—	(11.1)	[3.2]	長石・石英	にぶい 黄緑	普通	底面割断条切り 内面着色処理後へう割き	覆土中	5% 図版 23 高17.9、φ9 遺物
2	須恵器	坏	13.1	4.2	7.8	長石・石英・黒 雲母	灰	特選	ロクロナデ 外面割断へう割り残ナデ	南部床面 上層 ～南西部床面	90% 図版 23 口径13.1、高 4.2、内面着色
3	須恵器	坏	14.4	4.4	7.8	長石・石英・黒 雲母	灰黄緑	特選	ロクロナデ 底面割断へう割り残ナデ	南部床面	50% 図版 23 口径14.4
4	須恵器	坏	[13.5]	4.3	[8.5]	長石・石英・チ ヤート	黄灰	特選	ロクロナデ 体部下端手持ちへう割り 底面二 方筒のへう切り	北西部上層・ 床面	50% 図版 23 胎子窯
5	須恵器	坏	—	(2.3)	[8.2]	長石・石英	灰	特選	ロクロナデ 体部下端割断へう割り 底部へう 割り残ナデ	中央部床面	25% 図版 23 胎子窯
6	須恵器	坏	[13.4]	3.8	[8.5]	長石・石英・雲 母	灰黄	不良	ロクロナデ 体部下端割断へう割り 底部割断 へう切り	中央部床面	25% 図版 23 新胎窯
7	須恵器	坏	[19.8]	(8.9)	—	長石・石英	灰白	特選	ロクロナデ 体部下端へう割り	中央部床面 上層・下層	20% 図版 23 三倉山胎窯
8	須恵器	坏	[21.4]	(4.3)	—	長石・石英・雲 母	灰黄	不良	ロクロナデ 外面割断へう割り 底面割断へう 割り	中央部床面 ～覆土下層	70% 図版 23 新胎窯
9	須恵器	壺	—	(1.7)	10.2	長石・石英・黒 雲母	黄灰	普通	底面割断へう切り	南部床面	30% 図版 23 胎子窯 転用
10	須恵器	壺	—	(2.0)	[12.0]	長石・石英	灰	普通	ロクロナデ 底面割断へう割り残ナデ 外周白 黒濁	原塚部 覆土下層	10% 図版 23 胎子窯
11	須恵器	蓋	15.2	(2.2)	—	長石・石英・雲 母	灰白	普通	外周部ロクロナデ 底面割断へう割り 縁部部 割断	南部床面	80% 図版 23 新胎窯
12	須恵器	蓋	[13.0]	(1.2)	—	長石・石英	灰白	普通	外周部ロクロナデ 底面割断へう割り 縁部部 割断	原塚部 覆土中層	40% 図版 23 三倉山胎窯
13	須恵器	体	—	(11.0)	[13.0]	長石・石英・雲 母・赤色粒子	灰黄緑	不良	体部外面割断の平行押き 体部下端隅切のへう 割り 内面隅切のナデ	南部床面	5% 図版 23 新胎窯
14	須恵器	体	—	(13.0)	—	長石・石英・黒 雲母	灰 黄・赤 リヤブ	良好	体部外面割断の平行押き 内面隅切のヘラナデ 自然鼻	東部コーナ ー床面	5% 図版 23 三倉山胎窯
15	須恵器	壺	—	(2.1)	—	長石	黄灰	特選	ロクロナデ	覆土中	5% 図版 23 体部外周「一」 カ 朱書
16	須恵器	蓋	—	(6.9)	—	長石	黄灰 輪・輪オ リーブ	良好	体部ロクロナデ 断面割断	中央部 覆土下層	10% 図版 24 三倉山胎窯
17	土師器	甕	[21.4]	(13.3)	—	長石・石英・角 閃石	黄	普通	口縁部割断ナデ 体部外面上段縁位のへう割り 外周下段縁位のへう割り 内面割断のへうナデ	カマド内・東 部覆土中層	20% 図版 24 武蔵型
18	土師器	甕	[11.8]	(6.7)	—	長石・石英	にぶい・軟 普通	普通	口縁部割断ナデ 体部外面縁位のへう割り 内面 縁位のナデ	北西部床面	10% 図版 24 武蔵型
19	土師器	甕	[12.0]	(5.5)	—	長石・石英・雲 母	にぶい・軟 普通	普通	口縁部割断ナデ 体部外面縁位のへう割り 内面 縁位のナデ	南部床面 ～覆土下層	5% 図版 24 武蔵型
20	須恵器	甕	—	(23.3)	17.4	長石・石英・雲 母・緑鉄	黄灰	普通	体部外面縁位の平行押き 下段縁位のへう割り 内面上段縁位のナデ 内周中央縁位の当て具 蓋 内面下段縁位のナデ 底面内面カキ目施工 具による良好状のナデ	カマド前 上層～南部 床面	40% 図版 24 新胎窯
21	須恵器	甕	—	(16.0)	—	長石・石英・雲 母	灰白	普通	体部外面割断の平行押き 内面蓋文の当て具	南～南東部 覆土白・下層 新胎窯	5% 図版 24 新胎窯
22	須恵器	甕	—	(12.2)	—	長石・石英・雲 母	黄灰	普通	体部外面縁位の平行押き 内面隅切のナデ	東部コーナ ー床面	5% 図版 24 新胎窯
23	須恵器	甕	—	(7.1)	—	長石	黄灰	良好	体部外面割断の平行押き 内面蓋文の当て具	南西部 覆土上層	5% 図版 24 胎子窯 転用
24	須恵器	甕	—	(3.6)	—	長石・石英・雲 母	黄灰	特選	口縁部ロクロナデ 外面7本以上の帯輪状文	覆土中	5% 図版 24 新胎窯

番号	器種	長さ	幅	厚さ	高さ	材質	仕様の特徴	出土位置	層号
25	砥石	(7.7)	(5.9)	(3.4)	(171.0)	泥岩	砥面4面	南東部 掘上中層	ⅧB-24
26	支脚 坐用	25.0	9.4	5.6	2326.0	輝緑岩	中央部に円形に溝付	カマド内	ⅧB-25
27	刀子	(6.0)	1.8	(0.5)	(11.0)	鉄	鋸歯長さ1.9cm 厚さ0.9cm 刃部長さ0.5cm 先端欠損	中央部 掘上中層	ⅧB-24
28	鏝	(8.3)	0.7	0.5	(8.0)	鉄	刃式 鋸歯 鏝身長5.5cm 鋸歯長(2.8)cm 柄0.4cm 厚0.4cm	南西部 掘上中層	ⅧB-25

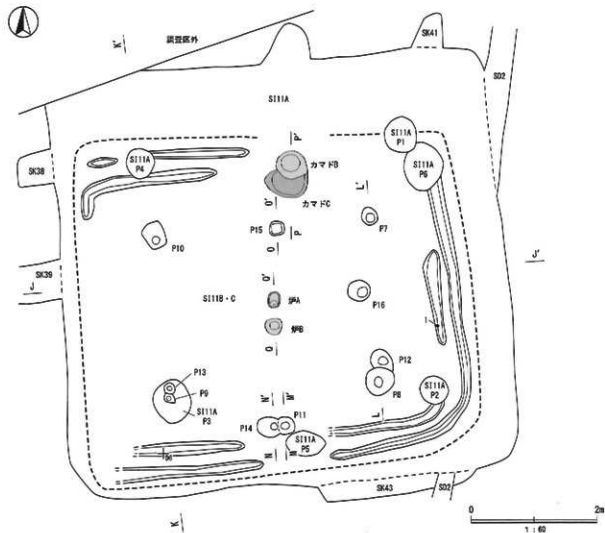
第11B号竪穴建物跡(S11B) (第65～67図、第24表、図版7)

位置 調査区北部C5～C6グリッドに位置する。

確認状況 第11A号竪穴建物跡床下で確認した。

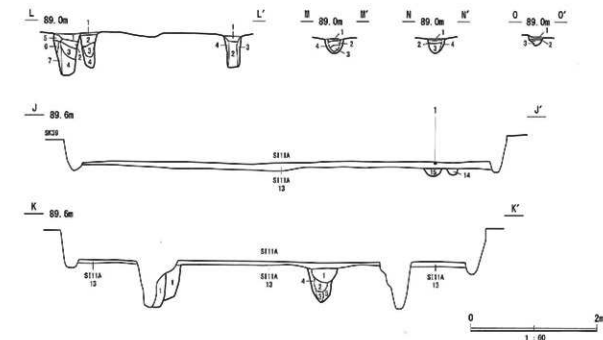
規模と形状 壁溝の範囲から、長軸6.20m、短軸4.80mで、平面形は長方形と推測される。主軸方位はN-5°-Wである。壁は確認面から最大高60cmと推定できる。壁溝は、上幅14～26cm、下幅10～14cm、深さ10cm、形状はU字状である。西壁では確認できなかったが、ほぼ全周する。

床 ほぼ平坦で、全面が硬化している。



第65図 第11B・C号竪穴建物跡実測図(1)

カマド 第11A号竪穴建物跡床下から、長さ70cm、短径60cmの楕円形のカマドBの範囲を確認した。  
土層 2層に分層できる。ロームブロックと焼土・炭化粒子が含まれており、人為的な埋没状況である。  
ピット 床面から、ピットは5か所で検出され、P7～P10が主柱穴、P11は出入口施設と考えられる。P7：  
30×30cm、深さ50cm、P8：50×46cm、深さ68cm、P9：70×60cm、深さ82cm、P10：42×36cm、  
深さ70cm、P11：30×30cm、深さ26cmである。



S11B・C土層解説(壁面)

14 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/  
粘性あり 締まりあり

15 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 締まりあり

S11B・Cピット土層解説

P7  
1 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 締まりあり  
2 7.5YR4/3 褐色 ローム粒子少量/粘性あり 締まりなし  
3 7.5YR3/4 褐色 ロームブロック・粒子中量/粘性あり 締まりあり  
4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量/粘性あり 締まりあり

P8  
1 7.5YR4/3 黒褐色 ローム粒子少量/粘性あり 締まりあり  
2 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 締まりあり  
3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 締まりなし  
4 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 締まりあり  
5 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 締まりあり  
6 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック少量/粘性あり 締まりあり  
7 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック少量/粘性あり 締まりなし

P9  
1 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり

P10  
1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック中量・粒子少量/粘性あり 締まりなし  
2 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 締まりなし  
3 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック多量/粘性なし 締まりなし  
4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック多量/粘性あり 締まりあり  
5 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック中量/粘性あり 締まりあり

P11  
1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり

2 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 締まりあり  
3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり  
4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子多量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり

P13

1 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック中量 ローム粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり  
2 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量/粘性あり 締まりなし  
3 7.5YR3/4 褐色 ロームブロック中量/粘性なし 締まりなし  
4 7.5YR4/4 褐色 ロームブロック多量/粘性なし 締まりなし

P14

1 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 締まりあり  
2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり  
3 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり  
4 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり

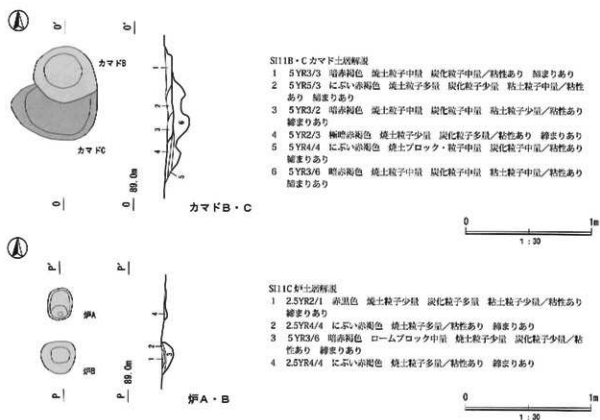
P15

1 5YR4/4 濃い赤褐色 焼土ブロック・粒子中量/粘性あり 締まりあり  
2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 焼土粒子少量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり  
3 7.5YR3/2 黒褐色 ロームブロック少量・粒子中量 焼土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり

第66図 第11B・C号竪穴建物跡実測図(2)

遺物出土状況 出土しなかった。

所見 時期は、重複関係から8世紀後葉以前と考えられる。第11C号竪穴建物跡を拡張して構築されている。



第67図 第11B・C号竪穴建物跡実測図(3)

第11C号竪穴建物跡(SI11C)(第68～70図、第22・24表、図版7・25)

位置 調査区北部C5～C6グリッドに位置する。

確認状況 第11A号竪穴建物跡床下で確認した。

規模と形状 壁溝の範囲から、推定長軸5.60m、推定短軸4.30mで、平面形は方形と推測される。主軸方位はN-5°-Wである。壁は確認面から最大高60cmで、外傾して立ち上がっていると考えられる。壁溝は、上幅14～28cm、下幅12～16cm、深さ12cm、形状はU字状である。西壁以外、部分的に確認できる。

床 ほぼ平坦で硬化している。

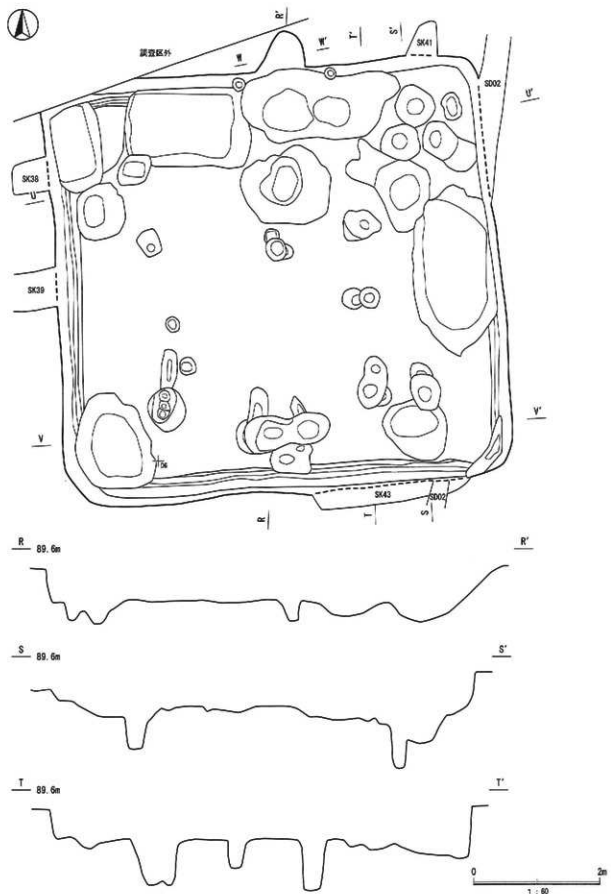
カマド 第11B号竪穴建物跡に覆り込まれていると考えられる。長径60cm、短径35cmの楕円形と推測される。

炉 中央部で長径24cm、短径20cmの円形と、長径30cm、短径28cmの円形の炉跡を2か所確認する。

土層 第11B号竪穴建物の床面とほぼ同一と考えられ、周囲の土層のみを確認する。

ビット 床面からビット7か所が検出された。P7・P10・P12・P13は主柱穴、P14は出入口施設と考えられる。P15・16は不明である。P7:30×30cm、深さ50cm、P12:44×32cm、深さ52cm、P13:70×60cm、深さ60cm、P10:42×36cm、深さ70cm、P14:40×30cm、深さ24cm、P15:24×24cm、深さ20cm、P16:36×26cm、深さ20cmである。

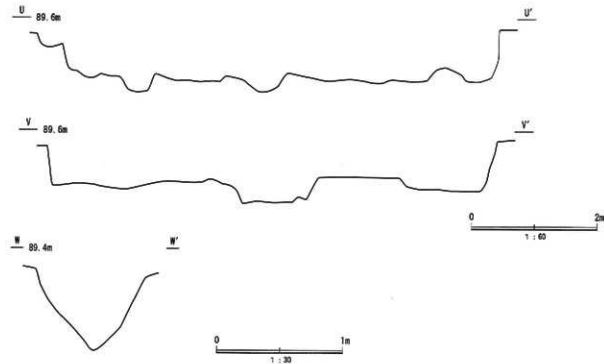
遺物出土状況 土器器片2点〔環1点(25g)、甕1点(31g)〕を確認した。1の土器器片は床面から出土し



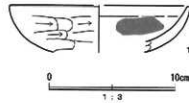
第 68 图 第 11 A~C 号竖穴建物跡掘方実測图

ている。

所見 時期は、重複関係から8世紀後葉以前と考えられる。



第69図 第11A～C号竪穴建物跡掘方実測図(2)



第70図 第11C号竪穴建物跡出土遺物実測図

第22表 第11C号竪穴建物跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	高さ	底径	胎土	色相	焼成	手法の特徴			出土位置	備考
1	土製器	杯	[14.0]	(3.6)	—	黒砂・スコリア	にぶ・明	普通	口縁部捻子デ	外周縁位のヘラ削り	体部内面	東部縁端	5% 断面25 内面縁部付

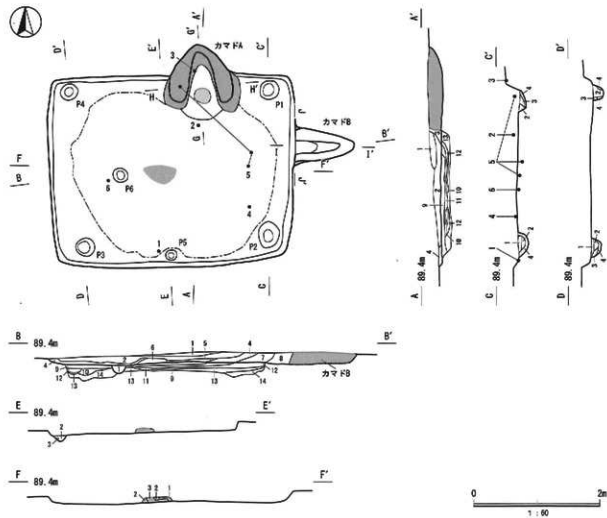
第12号竪穴建物跡 (SI12) (第71～73図、第23・24表、図版7・25)

位置 調査区西部H 5グリッド、標高89mの台地の平坦部に位置する。

確認状況 ローム層上面で確認した。

規模と形状 長軸4.10m、短軸3.20mで、平面形は長方形である。主軸方位はN-10°-Wである。壁は確認面から最大高30cmで、緩やかに立ち上がっている。

床 貼床で、カマド前から中央部が固く締まっている。



- S12 土層解説
- |  |  |
|--|--|
| 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック微量・粘土中層 焼土粒子少量 炭化粒子中層/粘性なし 締まりなし     | S12 ビット土層解説 P1 ~ 5   |
| 2 7.5YR3/4 暗褐色 ローム粒子少量 焼土粒子中層 炭化粒子中層/粘性多し 締まりなし            | 1 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性あり 締まりなし            |
| 3 5.YR3/3 暗赤褐色 ローム粒子微量 焼土粒子少量 炭化粒子中層/粘性なし 締まりなし            | 2 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 炭化粒子多量/粘性なし 締まりなし            |
| 4 7.5YR4/2 灰褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子少量 暗褐色土粘土粒子中層/粘性あり 締まりあり | 3 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック微量・粘土中層 炭化粒子中層/粘性あり 締まりあり            |
| 5 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック少量・粘土中層 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり             | 4 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粘土中層 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり               |
| 6 7.5YR5/2 灰褐色 焼土ブロック・粘土少量 暗褐色土粘土粒子多量/粘性あり 締まりあり           | PG   |
| 7 7.5YR4/2 灰褐色 ローム粒子少量 焼土粒子少量 暗褐色粘土粒子中層/粘性なし 締まりなし         | 1 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粘土中層 炭化粒子中層 暗褐色土粘土粒子少量/粘性あり 締まりなし |
| 8 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粘土少量 焼土粒子微量 炭化粒子中層 粘土粒子少量/粘性あり 締まりなし | S12 粘土層  |
| 9 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘性あり 締まりあり            | 1 5YR3/2 暗赤褐色 焼土粒子中層 炭化物微量 炭化粒子多量/粘性なし 締まりあり               |
| 10 7.5YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 締まりあり                  | 2 5YR4/2 灰褐色 ロームブロック・粘土少量 焼土粒子少量 暗褐色土粘土ブロック中層/粘性あり 締まりあり   |
| 11 7.5YR4/1 灰褐色 ローム粒子少量 炭化粒子中層 焼土粒子多量/粘性あり 締まりあり           | 3 5YR4/3 に近い赤褐色 ローム粒子微量 焼土粒子中層 暗褐色土粘土ブロック中層/粘性あり 締まりあり     |
| 12 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量 粘土粒子多量/粘性あり 締まりあり    |  |
| 13 7.5YR4/2 灰褐色 ローム粒子少量 炭化粒子少量 焼土粒子多量/粘性あり 締まりあり           |  |
| 14 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粘土中層/粘性あり 締まりあり                    |  |

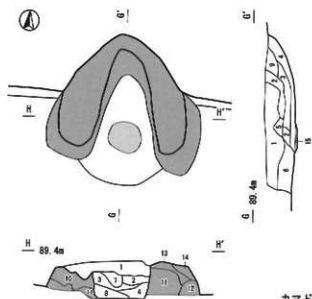
第 71 図 第 12 号竪穴建物跡実測図



カマド A 北壁中央にあり、粘土で構築されている。焚口部からカマド外までは 110cm である。炉部の基部の最大幅は約 120cm で、内壁の一部が被熱により赤変硬化している。床面から 10cm ほど掘りくぼめて火床面が構築されている。火床面から煙道へは穏やかに立ち上がっている。

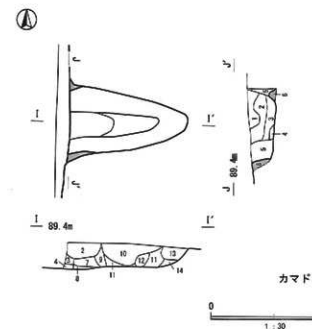
カマド B 東壁中央にあり、カマド外まで 90cm の煙道部を確認する。

土層 8 層に分層できる。ロームブロックが含まれており、人為的な埋没状況である。9～14 層は貼床の構



カマド A

- SI12 カマド A 土層解説
- 2.5YR3/1 暗赤灰色 黄土ブロック・粘土少量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし
  - 2.5YR3/6 暗赤褐色 黄土ブロック・粘土中量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりあり
  - 2.5YR2/3 暗赤褐色 黄土ブロック縁部・粘土中量 炭化粒子中量 炭少見/粘性なし 締まりなし
  - 2.5YR2/1 黒褐色 粘土粒子少量 炭化物中量 炭化粒子多量 灰中量/粘性なし 締まりなし
  - 2.5YR4/2 灰褐色 粘土粒子中量 炭化粒子少量/粘性なし 締まりなし
  - 2.5YR2/2 暗赤褐色 粘土粒子少量 炭化粒子中量 褐色土粘土粒子中量/粘性なし 締まりあり
  - 2.5YR2/4 暗赤褐色 黄土ブロック少量 黄土粒子中量 炭化粒子少量 褐色土粘土粒子中量/粘性なし 締まりあり
  - 5YR2/4 暗赤褐色 ロームブロック・粘土少量 黄土粒子中量 炭化粒子少量/粘性なし 締まりなし
  - 2.5YR3/0 暗赤褐色 黄土ブロック・粘土中量 炭化粒子少量/粘性なし 締まりなし
  - 2.5YR4/3 に近い赤褐色 黄土ブロック少量・粘土多量 褐色土粘土粒子少量/粘性あり 締まりなし
  - 2.5YR4/2 灰褐色 粘土粒子中量 炭化粒子少量 褐色土粘土粒子多量/粘性あり 締まりなし
  - 2.5YR2/2 暗赤褐色 粘土粒子中量 炭化粒子少量 褐色土粘土粒子中量/粘性あり 締まりあり
  - 2.5YR3/1 暗赤褐色 粘土粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり
  - 2.5YR3/2 暗赤褐色 黄土粒子少量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり
  - 2.5YR2/1 赤褐色 黄土ブロック中量 黄土粒子少量 灰少量/粘性なし 締まりなし



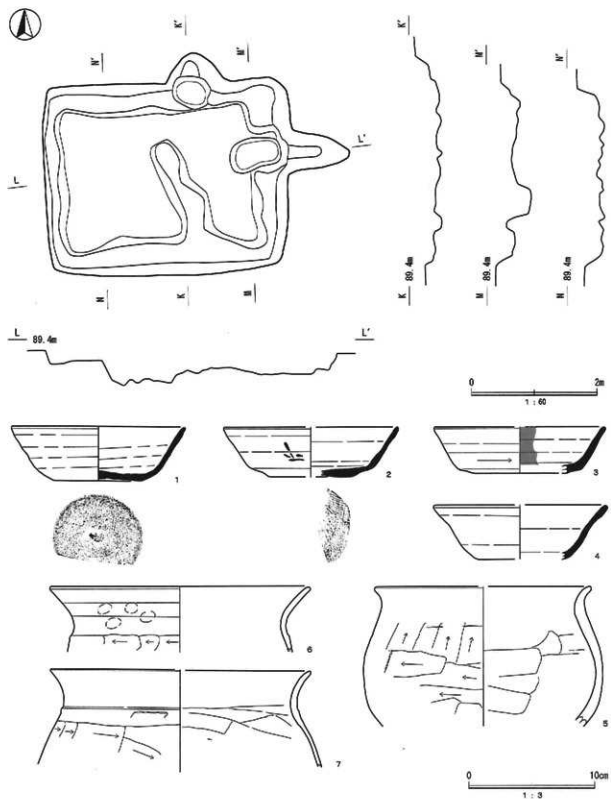
カマド B

- SI12 カマド B 土層解説
- 5YR3/1 黒褐色 粘土粒子微量 炭化粒子多量 暗褐色土粘土粒子中量/粘性なし 締まりなし
  - 5YR3/3 暗赤褐色 粘土粒子少量 炭化粒子中量 暗褐色土粘土粒子少量/粘性なし 締まりなし
  - 5YR3/4 暗赤褐色 粘土粒子中量 炭化粒子中量 暗褐色土粘土粒子少量/粘性なし 締まりなし
  - 5YR3/6 暗赤褐色 黄土粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし
  - 5YR3/2 暗赤褐色 粘土粒子少量 炭化粒子多量 暗褐色土粘土粒子中量/粘性なし 締まりあり
  - 5YR3/3 暗赤褐色 ローム粒子少量 黄土粒子中量 炭化粒子少量 暗褐色土粘土粒子中量/粘性なし 締まりあり
  - 5YR4/3 に近い赤褐色 黄土ブロック・粘土少量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし
  - 5YR3/3 暗赤褐色 粘土粒子中量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし
  - 5YR3/2 暗赤褐色 粘土粒子少量 炭化粒子多量/粘性なし 締まりなし
  - 5YR3/1 黒褐色 黄土粒子少量 炭化物中量・粘土中量/粘性なし 締まりなし
  - 5YR4/6 赤褐色 ローム粒子中量 粘土粒子少量 炭化粒子中量/粘性なし 締まりなし
  - 5YR4/8 赤褐色 ローム粒子多量 黄土粒子少量 炭化粒子少量/粘性なし 締まりなし
  - 7.5YR2/2 黒褐色 ローム粒子少量 黄土粒子微量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりなし
  - 7.5YR2/3 暗赤褐色 ローム粒子少量 黄土粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 締まりなし

第 72 図 第 12 号竪穴建物跡カマド実測図

築土である。

ピット 床面から、ピット6が検出され、P1～P4は支柱穴、P5は出入口施設と考えられる。P1：  
34×32cm、深さ14cm、P2：40×34cm、深さ26cm、P3：30×30cm、深さ24cm、P4：30×26cm、



第73図 第12号壜穴建物跡掘方・出土物実測図

深さ 22cm、P5：20×20cm、深さ 10cm、P6：28×26cm、深さ 12cmである。

遺物出土状況 土師器片 150点 [環5点 (87g)、甕58点 (668g)]、須恵器環片7点 (228g)、石2点 (922g)。

1の須恵器環は南壁の床面、2の須恵器環はカマドA前の覆土中層、3の須恵器環はカマドA内、4の須恵器環は南東部の床面、5の土師器甕はカマドA内と東部の床面、6の土師器甕は西部の床面から、それぞれ出土している。7の土師器甕は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から9世紀前後と考えられる。カマドはBからAに造り変えられている。

第23表 第12号壑穴建物跡出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色澤	産地	形状の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	環	13.7	4.3	7.0	炭石・礫	灰黄緑	普通	ロクロナデ 底部割取ヘラ切り後ナデ	南壁床面	5% 図版 25 環子壺
2	須恵器	環	13.8	3.9	[6.6]	炭石・石英・胎土	灰白	良好	ロクロナデ 底部割取ヘラ切り後外縁部手待ちヘラ削り	カマドA前 覆土中層	30% 図版 25 高部体積 1/4 遺書 三春山遺跡
3	須恵器	環	[13.4]	[3.7]	[7.4]	炭石・石英	にぶい 黄塩	普通	ロクロナデ 体部下層割取のヘラ削り後ナデ	カマドA内	20% 図版 25 三春山遺跡 内面復付存
4	須恵器	環	[13.5]	[4.2]	[7.0]	炭石・石英	灰黄	良好	ロクロナデ 体部下層割取<削り	南東部床面	5% 図版 25 南東部遺
5	土師器	甕	[17.0]	(7.6)	—	炭石・石英	灰黄緑	普通	口縁部縮ナデ 体部外周割取ヘラ削り後中心積位のヘラ削り 内面割取のヘラナデ	カマドA左 壁・東壁床面	0% 図版 25
6	土師器	甕	[20.6]	(5.1)	—	炭石・石英・ス ニリク	明赤褐	普通	口縁部縮ナデ 頸部割 体部外面割取のヘラ削り 内面割取のヘラナデ	西部床面	5% 図版 23
7	土師器	甕	[20.6]	(7.5)	—	炭石・石英・雲 母	明赤褐	普通	口縁部縮ナデ 体部外面割取のヘラ削り 内面割取のヘラナデ	覆土中	5% 図版 25 武蔵野史

第15号壑穴建物跡 (SI15) (第74図、第24表、図版8・25)

位置 調査区北西部。D2～E2グリッド、標高89mほどの平坦な台地上に位置している。

規模と形状 東西軸 4.08m、南北軸 2.80mしか確認できなかった。平面形は長方形で、主軸方向はN-85°-Wである。壁は高さ20cmで、外傾して立ち上がっている。

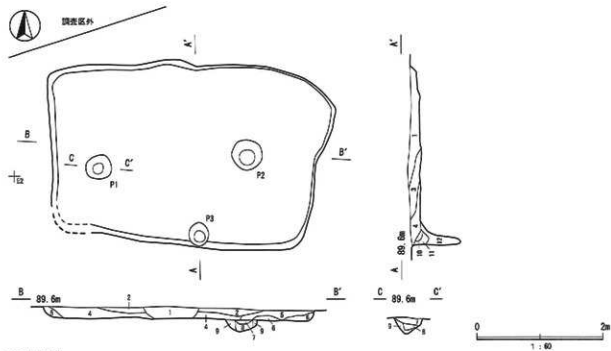
床 平坦で中央部が踏み固められている。

ピット 3か所。P1は30×40cm、深さ30cmである。P2は40×40cm、深さ18cmである。P3は30×28cm、深さ50cmである。性格はP1・P2は主柱穴と考えられる。

覆土 6層に分層できる。ブロック状の堆積がみられるため人為堆積と考えられる。

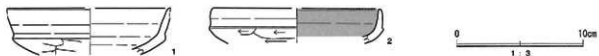
遺物出土状況 土師器片17点 [環10点 (84g)、甕7点 (211g)]が出土している。1の土師器環、2の土師器環は、覆土中から出土しているが、流れ込みと考えられる。

所見 時期は、形状から9世紀代と推測されるが、判断する遺物がなく、時期不明である。



S115 土層断面

- |   |  |
|---|--|
| 1 10YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 焼土粒子微量 炭化粒子多量/粘<br>性あり 締まりあり              | 7 10YR2/2 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量 黒色土粒子多量/<br>粘性あり 締まりあり  |
| 2 10YR3/3 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量 焼土粒子微量 炭<br>化粒子多量/粘性あり 締まりあり       | 8 10YR2/3 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量 黒色土粒子多量/<br>粘性あり 締まりなし  |
| 3 10YR2/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 焼土粒子微量 炭<br>化粒子中量/粘性あり 締まりあり       | 9 10YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 黒色土粒子中量/粘性<br>あり 締まりあり    |
| 4 10YR3/1 黒褐色 ローム粒子微量 黒色土粒子多量/粘性あり 締ま<br>りあり                    | 10 10YR2/1 黒色 ローム粒子微量 黒色土粒子多量/粘性あり 締ま<br>りなし         |
| 5 10YR3/2 黒褐色 ロームブロック微量・粒子少量 黒色土粒子中量/<br>粘性あり 締まりなし             | 11 10YR3/3 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 黒色土粒子中量/<br>粘性あり 締まりなし |
| 6 10YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子中量 焼土ブロック少量・粘<br>土粒子中量 炭化粒子少量/粘性なし 締まりなし | 12 10YR4/4 褐色 ロームブロック・粒子中量 黒色土粒子少量/粘性<br>あり 締まりあり    |



第74図 第15号壁穴建物跡・出土遺物実測図

第24表 第15号壁穴建物跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器径	器高	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	杯	112.8	(3.6)	—	黒い粘 土	黄緑	焼成	口縁部が平 内面黒色処理	甌土中	5% 図版25
2	土師器	杯	113.2	(2.7)	—	緑石・石英・ス ゴリア	黄緑	焼成	口縁部が平 内面黒色処理	甌土中	5% 図版25

第25表 奈良・平安時代壁穴建物跡一覧

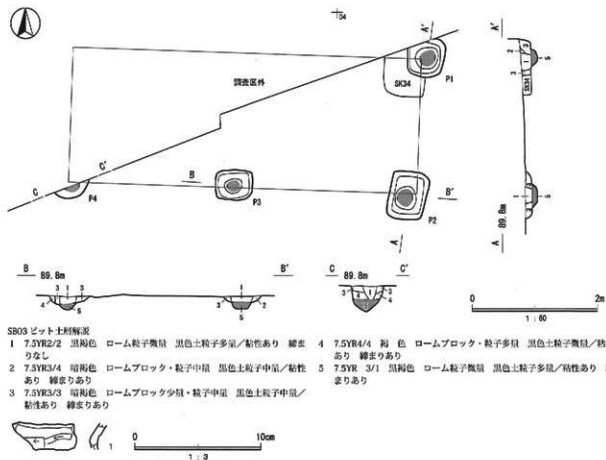
番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	遺高 (cm)	床面	壁跡	内部構造				出土遺物	時代	発祥 新三院係 (群-形)	
								土 柱	土 柱	土 柱	土 柱				
1	G1-H1	N-10°-E	方形	3.76×3.70	40	平坦	—	—	—	2	北壁	—	土師器 須恵器	8C前期	本跡→SK03
2	G2-H2	N-20°-E	長方形	3.60×3.20	28	平坦	一部	2	—	1	北壁	—	土師器 須恵器 石製品	8C前期	SK05→本跡→SD01
3	F1	N-5°-E	方形	3.14×2.86	40	平坦	—	4	—	—	北壁	—	土師器 須恵器	9C前期	本跡→SK10・12
4	E1	N-15°-W	方形	2.78×2.40	18	平坦	—	—	—	—	北壁	—	土師器 須恵器	9C中期	本跡→SK10・11・ 51

番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	高さ (cm)	築年	築構	内帯施設				出土遺物	時代	備考 新国図録 (旧→新)	
								土坑	土坑 ピット	溝・ 穴	溝・ 穴				
															土坑
5	G2 ~ H2	N - 20° - W	[方形]	3.30 × (2.00)	28	平相	全埋	2	1	-	灰壁	-	土師器 須恵系 灰土器	8C 前期以前	本跡→SK2
6	F2	N - 15° - E	方形	3.64 × 2.88	28	平相	-	4	-	-	北東 壁	1	土師器 須恵系 石製品	8C 中～後葉	
7	F3	N - 10° - E	方形	2.94 × 2.90	15	平相	-	4	1	-	北壁	-	土師器 須恵系 石製品	8C 前～中葉	
8	E4 ~ F4	N - 90° - E	長方形	3.62 × 3.04	24	平相	全埋	4	1	2	灰壁	-	土師器 須恵系 土製品	8C 中葉	
9	H3 ~ H4	N - 5° - W	長方形	5.60 × 3.64	40	平相	一部	4	1	-	北壁	-	土師器 須恵系 石製品	8C 中葉	SI10 → 本跡
10	H3 ~ H4	N - 5° - W	[方形]	4.70 × (1.32)	30	平相	-	4	1	-	不明	-	土師器 須恵系 鉄製品	8C 中期以降	本跡→SI09
11A	C5 ~ C6	N - 3° - W	方形	7.08 × 6.64	58	平相	全埋	4	1	1	北壁	1	土師器 須恵系 鉄製品	8C 後葉	SI18・C → 本跡 → SK8・ 99・41・43, SK02
11B	C5 ~ C6	N - 5° - W	[長方形]	6.20 × 4.80	60	平相	一部	4	1	-	北壁	-	-	8C 後葉以降	SI11C → 本跡 → SI11A
11C	C5 ~ C6	N - 5° - W	[方形]	4.60 × 4.30	60	平相	一部	4	1	2	北壁 壁	2	土師器	8C 後葉以降	本跡→SI11A・B
12	H5	N - 10° - W	長方形	4.10 × 3.20	30	平相	-	4	1	-	北 東壁	-	土師器 須恵系	9C 前期	
15	D2 ~ E2	N - 85° - W	長方形	4.08 × 2.80	20	平相	-	2	1	-	-	-	土師器	時期不明	

## (2) 掘立柱建物跡

第3号掘立柱建物跡 (SB03) (第75図、第26・29表、図版8・25)

位置 調査区西部 D 3 ~ D 4 グリッド、標高 89m ほどの平坦地に位置している。



第75図 第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

重複関係 北部が調査区外に延びている。第34号土坑に掘り込まれている。

規模と構造 調査区内で桁行2間、梁行1間の側柱建物跡を確認する。桁行方向N-85°-Wの東西棟と推測される。規模は桁行5.2m、梁行2.2mしか確認できなかった。面積は11.44㎡である。柱間寸法は、桁行が南平は西妻から2.5m(8尺)、2.7m(9尺)で、また、梁行は、北妻が2.2m(7尺)のみである。

柱穴 4か所。掘方の平面形は方形または長方形と推定され、長軸40～50cm、短軸30～40cmである。深さ20～40cmで掘方の壁は直立または外傾している。第2～4層は掘方への埋土で、第1層は柱抜き取り後の覆土で、第5層は当り痕と考えられる。

遺物出土状況 土師器製片1点(10g)、須恵器破片1点(2g)が出土している。1の土師器製は、P3の覆土中から出土している。

所見 第9・10号掘立柱建物跡に掘方が類似することから同時期のもので、8世紀前葉と推定できる。

第26表 第3号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口徑	胎土	胎土	色面	地肌	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	—	(2.0)	—	灰石・石灰	粒	作部外周縁部のヘラ削り 内面ナデ	P3覆土中	5% 埋版25式残存あり

第9号掘立柱建物跡 (SB09) (第76図、第27・29表、図版8・25)

位置 調査区西部F3～F4グリッド、標高89mほどの平坦地に位置している。

重複関係 第10号掘立柱建物跡を掘り込み、第120号土坑、第1号柱穴列に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-85°-Wの東西棟である。規模は桁行6.7m、梁行4.4mで、面積は29.48㎡である。柱間寸法は、桁行が北平は西妻から2.3m(8尺)、1.8m(6尺)、2.4m(8尺)、南平が西妻から2.4m(8尺)、2.4m(8尺)、1.8m(6尺)で柱筋はほぼ揃っている。また、梁行は、東妻が2.0m(7尺)、2.0m(7尺)、西妻が2.0m(7尺)、2.4m(8尺)である。

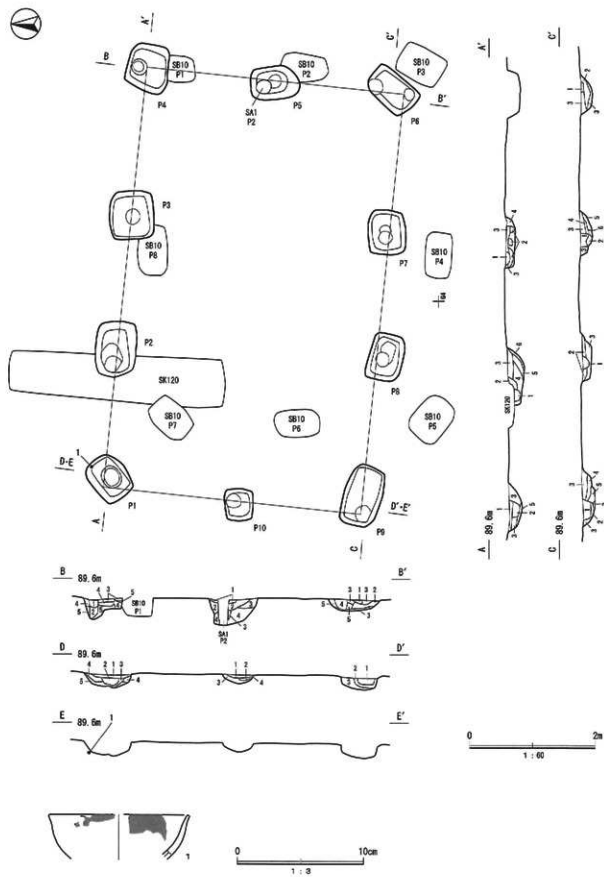
柱穴 10か所。掘方の平面形は方形または長方形で、長軸50～100cm、短軸45～55cmである。深さ15～40cmで掘方の壁は直立または外傾している。第3～7層は掘方への埋土で、第1・2層は柱抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況 土師器片9点[環1点(9g)、甕8点(46g)]が出土している。1の土師器環は、P1内から出土している。

所見 時期は、出土遺物から8世紀前葉と考えられる。

SB09 ビット土層解説

P1	1 7.5YR3/1 黒褐色	ロームブロック破片・粒子少量	炭化粒子多量/粘性なし	締まりなし	4 7.5YR3/3 暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり
2	7.5YR3/2 黒褐色	ロームブロック・粒子少量	炭化粒子多量/粘性なし	締まりなし	5 7.5YR3/3 暗褐色	ロームブロック・粒子少量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり
3	7.5YR3/3 暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり	6 7.5YR3/2 黒褐色	ロームブロック微粒・粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりあり
4	7.5YR3/4 暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり	P4			
5	7.5YR3/4 暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり	1 7.5YR3/1 黒褐色	ローム粒子少量	炭土粒子微量	炭化粒子多量/粘性なし
6	7.5YR3/2 黒褐色	ロームブロック少量・粒子少量	炭化粒子多量/粘性なし	締まりなし	2 7.5YR3/2 黒褐色	ローム粒子少量	炭土粒子少量	炭化粒子多量/粘性なし
7	7.5YR4/4 褐色	ロームブロック中量・粒子多量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりあり	3 7.5YR3/3 暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり
8	7.5YR3/3 暗褐色	ロームブロック少量・粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりあり	4 7.5YR3/3 暗褐色	ロームブロック微粒・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり
9	7.5YR3/2 黒褐色	ロームブロック少量	炭化粒子多量/粘性なし	締まりなし	5 7.5YR4/3 褐色	ロームブロック・粒子多量	炭化粒子少量/粘性あり	締まりあり
10	7.5YR3/1 黒褐色	ロームブロック少量	炭化粒子多量/粘性なし	締まりなし				



第76图 第9号据立柱建物跡·出土遺物実測圖

P5	1	7.5YR5/1	黒褐色	ローム粒子微量	焼土粒子少量	炭化粒子多量/粘	6	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子微量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりあり	
	2	7.5YR4/3	褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子少量/粘性あり		P8	1	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりなし
	3	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりあり	2	7.5YR3/4	黒褐色	ロームブロック少量・粒子中量	焼土粒子微量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり
	4	7.5YR2/4	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり	3	7.5YR4/3	褐色	ロームブロック中量・粒子多量	炭化粒子少量/粘性あり	締まりあり	
P6	1	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりあり	P9	1	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりなし
	2	7.5YR2/4	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり	2	7.5YR3/2	黒褐色	ロームブロック微量・粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりなし	
	3	7.5YR3/3	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり	3	7.5YR3/4	暗褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子少量/粘性あり	締まりあり	
	4	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりあり	4	7.5YR3/3	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり	
	5	7.5YR4/3	暗褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり	5	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子微量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりなし	
P7	1	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりなし	P10	1	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりなし
	2	7.5YR3/3	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり	2	7.5YR2/2	黒褐色	ローム粒子微量	焼土粒子微量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりなし
	3	7.5YR3/3	暗褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり	3	7.5YR3/2	黒褐色	ローム粒子少量	炭化粒子多量/粘性あり	締まりなし	
	4	7.5YR2/4	暗褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり	4	7.5YR3/4	暗褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子少量/粘性あり	締まりあり	
	5	7.5YR4/4	褐色	ロームブロック・粒子中量	炭化粒子中量/粘性あり	締まりあり							

第 27 表 第 9 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	種別	素材	口徑	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	灰	11.0	3.5	—	流石・石英・内 開石	明赤灰	普通	口縁薄縁ナデ 体部外面ナデ	P1 覆土中層	5% 埋蔵 25 内片組付品

#### 第 10 号掘立柱建物跡 (SB10) (第 77 図、第 28・29 表、図版 8・25・26)

位置 調査区西部 F 3～F 4 グリッド、標高 89m ほどの平坦地に位置している。

重複関係 第 120 号土坑、第 9 号掘立柱建物跡に掘り込まれている。

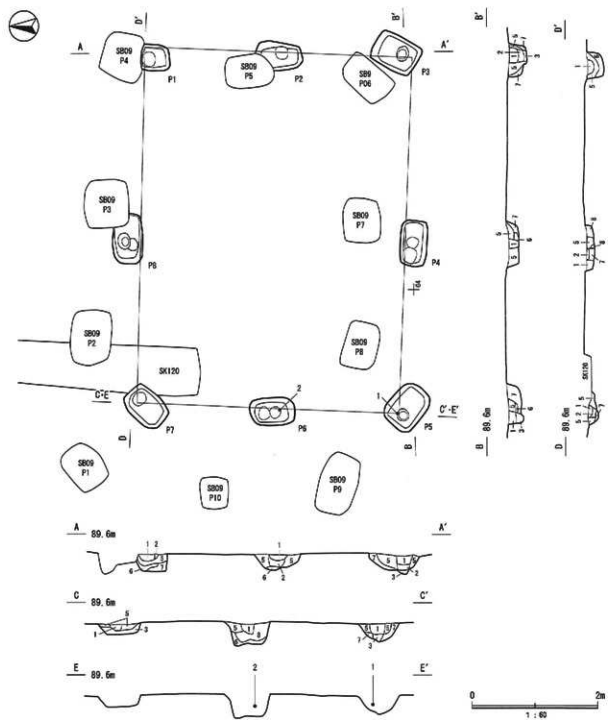
規模と構造 桁行 2 間、梁行 2 間の側柱建物跡で、桁行方向 N - 85° - W の東西棟である。規模は桁行 5.5m、梁行 4.1m で、面積は 22.55㎡である。柱間寸法は、桁行が北平は西妻から 2.5m (8 尺)、3.0m (9 尺)、南平が西妻から 2.7m (8 尺)、2.9m (9 尺) で柱筋はほぼ揃っている。また、梁行は、東妻が 2.1m (7 尺)、2.0m (6 尺)、西妻が 2.0m (6 尺)、2.2m (7 尺) である。1 層が柱痕部の土層で、2・3 層は底面で柱の当りを確認した。

柱穴 8 か所。掘方の平面形は方形または長方形で、長軸 50～70cm、短軸 40～55cm である。深さ 10～35cm で、掘方の壁は直立または外傾している。第 3～7 層は掘方への埋土で、第 1・2 層は柱抜き取り後の覆土と考えられる。

遺物出土状況 土師器片 5 点 [環 2 点 (15g)、裏 3 点 (8g)]、須恵器環片 2 点 (8g) が出土している。1 の土師器環は P 6 内、2 の須恵器環は P 5 内から出土している。

所見 時期は、出土遺物から 8 世紀前後と考えられる。





SB10 セット土層解説

- |   |   |
|---|---|
| 1 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子微量 粘土粒子微量 炭化物微量・粒子多量/粘性あり 締まりなし | 5 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 締まり強い |
| 2 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子中量 炭化粒子中量/粘性あり 締まりあり     | 6 7.5YR3/1 黒褐色 ローム粒子少量 炭化粒子多量/粘性あり 締まりあり      |
| 3 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり       | 7 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 締まり強い |
| 4 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック多量・粒子中量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり      | 8 7.5YR4/6 褐色 ロームブロック多量 炭化粒子少量/粘性あり 締まりあり     |



第77図 第10号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第28表 第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
1	土師器	甕	—	(4.2)	—	石灰	橙	普通	体部体部外部へタ削り 内部ナデ	P5 掘土中層	5% 図版25
2	須恵器	杯	[11.9]	(1.7)	—	細砂	灰吹粉	普通	口縁部口クロナデ 外部へタ削り	P6 掘土中層	5% 図版26

第29表 奈良・平安時代掘立柱建物跡一覧

番号	位置	方位	柱間数	規模 桁×梁 (m)	面積 (m <sup>2</sup> )	柱間寸法			柱穴			主な出土遺物	時代	備考 重複用紙 目→新	
						桁間 (m)	梁間 (m)	柱穴 (m)	構造	柱穴 数	平面形				深さ (cm)
3	D3~D4	N-85°-W	2×1	(5.2×2.2)	(11.44)	2.5~ 2.7	2.2	2.2	4	円柱	方形・ 長方形	20~40	土師器・ 須恵器	8C 前遺	本層→SK34
9	F3~F4	N-85°-W	3×2	6.7×4.4	29.48	1.8~ 2.4	2.0~ 2.4	2.4	10	圓柱	方形・ 長方形	15~40	土師器	8C 前遺	SB10→木津 →SK120, SA01
10	F3~F4	N-85°-W	2×2	5.5×4.1	22.55	2.5~ 3.0	2.0~ 2.2	2.2	8	圓柱	方形・ 長方形	10~35	土師器・ 須恵器	8C 前遺	本層→SB09・ SK120

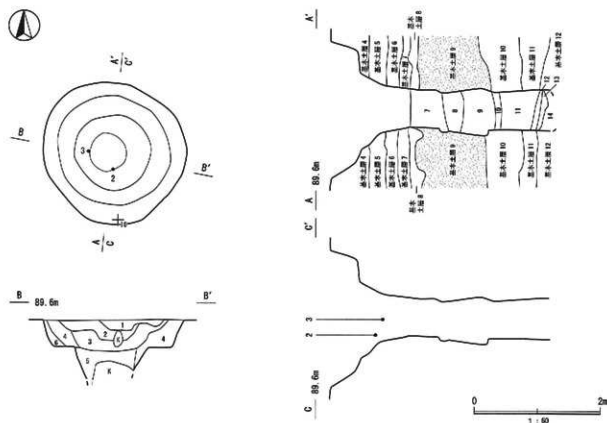
(3) 井戸跡

第1号井戸跡 (SE01) (第78・79図、第30・32表、図版8・9・26)

位置 調査区南西部。H 5~H 6グリッド、標高89mの平坦部に位置している。

確認状況 ローム層上面で確認した。

規模と形状 規模は長径2.20m、短径2.16mで、円形を呈している。主軸方向はN-45°-Wである。中層は径0.60mの円形である。形状はロート状であるが、安全のため深さ1mまで人力で掘り下げ、調査終了



第78図 第1号井戸跡実測図

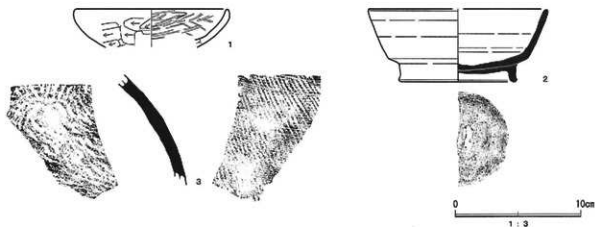
後に重機により下方まで断ち割った。

覆土 堆積状況からみて人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 土師器片3点〔環2点(10g)、裏1点(5g)〕、須恵器片8点〔環5点(27g)、高台付環1点(99g)、裏2点(105g)〕。2の須恵器高台付環、3の須恵器裏は中央部の覆土上層、1の土師器環は覆土中から出土している。

所見 出土遺物から埋め戻された時期は、8世紀後半と考えられる。

SE01 土器解説									
1	10YR2/2	黒褐色	ローム粒子微量	炭化物微量・粒子多量/粘性あり	9	7.5YR2/2	黒褐色	ロームブロック・粒子微量	黒色土粒子多量/粘性あり
	跡あり								
2	10YR3/3	暗褐色	ローム粒子少量	炭化物微量・粒子中量/粘性あり	10	7.5YR3/2	黒褐色	ロームブロック微量・粒子少量	黒色土粒子多量
	跡あり								
3	10YR3/3	暗褐色	ローム粒子少量	炭化物微量・粒子中量	砂中量	11	7.5YR2/1	黒色	ローム粒子微量
	/粘性あり								黒色土粒子多量/粘性あり
4	10YR3/4	暗褐色	ロームブロック少量・粒子中量	今市ハミス少量	12	7.5YR5/4	にぶい褐色	黒色土粒子少量	靑銅ハミス多量/粘性あり
	跡あり								跡ありなし
5	10YR2/2	黒褐色	ローム粒子少量	今市ハミス少量	七本腕ハミス少量	13	7.5YR3/1	黒褐色	ローム粒子少量
	跡あり								黒色土粒子多量
6	10YR3/2	暗褐色	ローム粒子少量	今市ハミス少量	七本腕ハミス少量	14	7.5YR3/4	暗褐色	黒色土粒子中量
	跡あり								靑銅ハミス少量
7	10YR4/6	褐色	ロームブロック・粒子多量	/粘性あり	跡あり				砂中量
	跡あり								砂中量
8	7.5YR2/1	黒色	ロームブロック・粒子微量	黒色土粒子多量/粘性あり	跡ありなし				靑少粒/粘性あり
	跡あり								跡あり
9	7.5YR2/3	暗褐色	ロームブロック・粒子少量	黒色土粒子多量/粘性あり	跡ありなし				跡ありなし
	跡あり								跡ありなし



第79図 第1号井戸跡出土遺物実測図

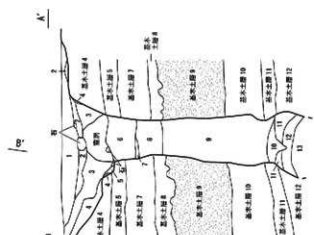
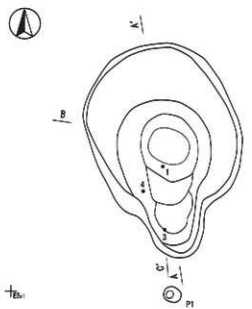
第30表 第1号井戸跡出土遺物観察表

番号	類別	器種	口径	器高	底径	敷土	色票	焼成	手法の特徴	出土状況	備考
1	土師器	環	[12.0]	(3.0)	—	長石・石英・雲母	灰褐色	普通	口縁部端ケテ 外面傾位のヘラ削り 体部内面 裏側のヘラ削き	覆土中	5% 図版 25
2	須恵器	高台付環	[14.0]	5.7	9.0	長石・石英・珪石	灰	普通	口ケロナテ 底面傾斜ヘラ削り後高台張り付付	中央部 覆土上層	40% 図版 26
3	須恵器	裏	—	(8.7)	—	長石・石英・雲母	灰褐色	良好	表部外縁傾斜のかわ目縁部傾斜の平行削き 内面 傾斜削きの当り面	中央部 覆土上層	5% 図版 26

第2号井戸跡 (SE02) (第80・81図、第31・32表、図版9・26)

位置 調査区北西部。D 5グリッド、標高89mの平坦部に位置している。

確認状況 ローム層上面で確認した。

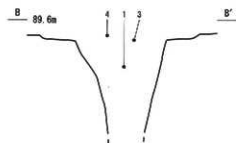
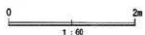


SE02 土物探査

- 1 10YR2/2 黒褐色 ローム粒子少量 粘土粒子微量 炭化粒子少量 今村/バミス層 七本板/バミス少量 塵少量/粘性あり 跡まりあり
  - 2 10YR3/2 黒褐色 ロームブロック・粒子少量 黒色土粒子中量 七本板/バミス少量 塵少量/粘性あり 跡まりあり
  - 3 10YR3/1 黒褐色 ロームブロック殻層・粒子少量 黒色土粒子多量 七本板/バミス殻層/粘性あり 跡まりあり
  - 4 10YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 黒色土粒子多量/粘性あり 跡まりなし
  - 5 10YR3/2 黒褐色 ローム粒子少量 黒色土粒子多量/粘性あり 跡まりあり
  - 6 10YR3/1 黒褐色 ローム粒子微量 黒色土粒子多量 塵少量/粘性あり 跡まりなし
  - 7 10YR3/4 暗褐色 コーム粒子中量 黒色土粒子中量/粘性なし 跡まりなし
  - 8 10YR3/3 黒褐色 ローム粒子少量 黒色土粒子多量/粘性あり 跡まりなし
  - 9 7.5YR2/1 黒色 ロームブロック・粒子中量 黒色土粒子多量/粘性あり 跡まりなし
  - 10 7.5YR4/2 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 黒色土粒子少量/粘性あり 跡まりなし
  - 11 7.5YR3/3 暗褐色 ローム粒子中量 黒色土粒子中量/粘性あり 跡まりなし
  - 12 7.5YR2/2 黒褐色 ロームブロック殻層・粒子少量 黒色土粒子多量/粘性あり 跡まりなし
  - 13 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子中量 黒色土粒子少量 粘土/粘性あり 塵少量/粘性あり 跡まりなし
- 基本土層 11 7.5YR5/3 に近い褐色 暗褐色土粒子多量 塵少量/粘性あり 跡まりあり
- 基本土層 12 7.5YR5/1 暗褐色 暗褐色土粒子少量 塵多量 砂多量/粘性なし 跡まりなし

SE02 ビット土物探査

- P1
- 1 10YR3/4 暗褐色 ロームブロック少量・粒子微量 炭化粒子微量/粘性あり 跡まりあり
  - 2 10YR4/4 褐色 ロームブロック中量・粒子少量/粘性なし 跡まりあり
  - 3 10YR4/6 褐色 ロームブロック・粒子中量/粘性なし 跡まりなし
- P2
- 1 7.5YR4/3 褐色 ロームブロック・粒子殻層/粘性あり 跡まりあり
  - 2 7.5YR4/6 褐色 ロームブロック・粒子中量 七本板/バミス殻層/粘性なし 跡まりあり
  - 3 7.5YR3/3 暗褐色 ロームブロック・粒子少量 七本板/バミス殻層/粘性なし 跡まりなし
  - 4 7.5YR3/4 暗褐色 ロームブロック・粒子少量 七本板/バミス殻層/粘性あり 跡まりあり



第 80 図 第 2 号井戸跡実測図

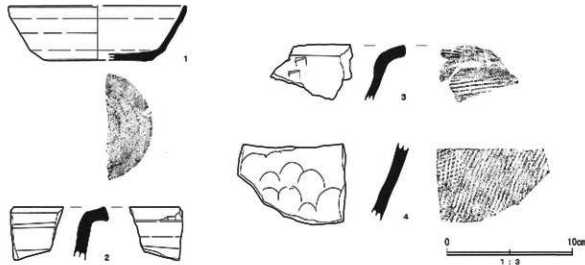
規模と形状 規模は長径 3.50 m、短径 2.20cmで楕円形を呈している。主軸方向は N-10°-W である。中場は径 0.60m の円形である。形状はロート状であるが、水が浸水し安全のため深さは 1 m までしか掘り下げられず底面まで達しなかった。

覆土 確認面から 1.0m の深さまで人力で掘り下げ、調査終了後に重機により下方まで断ち割った。堆積状況からみて人為堆積と考えられる。

ピット 第 2 号井戸跡南側に 2 か所確認する。井戸跡の開口から直線上に位置することから、関連施設の可能性もある。掘方の平面形は円形で、長軸 40 ~ 50cm、短軸 30 ~ 40cm である。深さ 20 ~ 40cm で掘方の壁は直立または外傾している。第 2 ~ 4 層は掘方への埋土である。

遺物出土状況 土師器片 33 点[環 4 点(22g)、甕 29 点(240g)]、須恵器片 16 点[環 4 点(113g)、鉢 2 点(58g)、甕 11 点(709g)]、石 2 点(6,214g)。1 の須恵器環、4 の須恵器甕は中央部の覆土上層、3 の須恵器鉢は南部の覆土上層、2 の須恵器鉢は覆土中から出土している。

所見 出土遺物から埋め戻された時期は、8 世紀中葉と考えられる。



第 81 図 第 2 号井戸跡出土遺物実測図

第 31 表 第 2 号井戸跡出土遺物観察表

番号	種類	器種	口径	器高	底径	素材	色調	気焼	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	環	13.8	(4.3)	(3.6)	灰石・スコリア	黄灰	普通	ロクロナデ 底面削毛切リ	中央部 覆土上層	30% 残欠 28 字跡消失
2	須恵器	鉢	—	(4.1)	—	灰石・石英	灰白	不良	口縁部ロクロナデ 内面模様のヘラナデ	覆土中	5% 残欠 28 三日月状
3	須恵器	鉢	—	(4.4)	—	灰石・石英・虫 母	灰	良好	口縁部ロクロナデ 口縁部外周部位の平行叩き 後継ナデ 内面模様のヘラナデ	南部 覆土上層	5% 残欠 28 新発見
4	須恵器	甕	—	(6.2)	—	灰石・石英・チ ュート	黄灰	普通	体部外周部位の平行叩き 内面無文の当目版	中央部 覆土上層	5% 残欠 28 菓子窯

第 32 表 井戸跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		中場 平面形	中場規模 長径×短径 (m)	断面形	覆土	出土遺物	備考 埋戻し
				長径×短径 (m)	深さ (m)						
1	H5	N-45°-W	円形	2.20 × 2.16	(3.60)	円形	0.60 × 0.60	上部-ロート状 下部-円筒形	人工	土師器・ 須恵器	
2	D5	N-10°-W	楕円形	3.50 × 2.20	(4.10)	円形	0.60 × 0.60	上部-ロート状 下部-円筒形	人工	土師器・ 須恵器	

(4) 土坑

第 320 号土坑 (SK320) (第 82 図、第 33 表、図版 8・26)

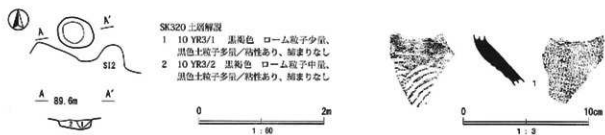
位置 調査区中央部。G 2 グリッド、標高 89m ほどに位置している。

規模と形状 長径 0.60m、短径 0.48m の楕円形で、長径方向は N-60°-W である。深さ 10cm で底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。ローム粒子が若干含まれることから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況 須恵器 2 点 [環 1 点 (2g)、甕 1 点 (35g)]。1 の須恵器は覆土中から出土している。第 2 号竪穴建物跡から流れ込んだものと考えられる。

所見 時期は、出土遺物から奈良・平安時代と考えられる。



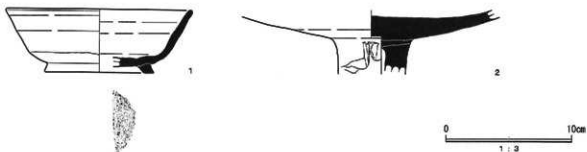
第 82 図 第 320 号土坑・出土遺物実測図

第 33 表 第 320 号土坑出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	瓦紋	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	甕	—	(4.4)	—	長石・石英	灰白	普通	体部外周縁位の平行甲き 内面同心円の当具痕	覆土中	5% 図版 26 磁子窯

(6) 奈良・平安時代遺構外出土遺物 (第 83 図、第 34 表、図版 26)

今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物については、出土遺物実測図(第 83 図)と出土遺物一覧(第 34 表)を記載する。



第 83 図 遺構外出土遺物実測図

第 34 表 遺構外出土遺物観察表

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	瓦紋	手法の特徴	出土位置	備考
1	須恵器	高倉付 鉢	(14.6)	5.0	(8.8)	長石	黄灰	普通	口ロナデ 体部下縁部へラ削り 底縁回転 へラ切り	表層	30% 図版 26 磁子窯
2	須恵器	甕	—	(5.0)	—	長石・石英・華 砂	黄灰	普通	口ロナデ 外縁回転へラ切り 甕部透かし 4 か所	表層	15% 図版 26 甕之内壁方